

## 大谷大学図書館蔵『香月院深励関係書籍目録』と

### 香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

加藤 基 樹

はじめに

〔指定研究〕 大学史研究では、平成十六（二〇〇四）年度より「大学史関係史料の収集・整理・公開」を研究課題として様々な研究活動を進めてきた。なかでも大谷大学の前身である「学寮」の復元研究では、詳細な年表を作成・整備する一方、筆者は、遠大な近世学寮の復元研究の一環として、第五代目の学寮講師である香月院深励（寛延二（一七四九）年〔文化十四（一八一七）年〕を主たる分析対象とした。

そもそも大谷大学は、「師資相承」の宗意を学ぶことを専らとした真宗高倉大学寮とは別に、「深く宗乗・余乗等須要な学科を研習せしめ、教導の重任を尽くすに足るべき智徳を養成する」ことを掲げた派内僧侶によって、明治二十九（一八九〇）年、真宗大学が設置され、明治三十四（一九〇一）年十月、真宗大学だけを東京巢鴨に移転し、初代学監（学長）清沢満之のもとに開校、この開学をして近代化大谷大学の発足とする。明治期、いわゆる「近代」に対応しようという教育・研究の転換によって、学問の方法や対象などもこのとき大きく見なおされることになった。

近世「学寮」の研究史を紐解くと、史料的研究による復元が試みられ、近世学寮における組織や制度、事件史や人物史などについて盛んに考究された時期があった<sup>2</sup>。しかしながら近年は、近世学寮を問題とする新たな研究成果の出作を

みない。その一因として、近世学寮の諸問題は、あくまで近世学寮の問題としてしか展開せず、近代社会との協調関係に関する発言があったとしても、大谷大学の学問との接続部分については、必ずしも十分な議論が果たされぬままであることも挙げられるであろう。他方、宗学(教団に属するすべての人々が、唯一正統と承認する教学)継承の視点による研究も備わっているもの、これもまた大谷大学における近代真宗教学研究とは完全に対極した世界としての問題関心にとどまっているように思われる。<sup>3</sup>

注意されなければならない点は、近世学寮の問題は、近世から現代にかけての学問や教育全般の諸問題はもとより、近世宗教文化史や社会史などの普遍的で歴史的な重要問題も孕んでおり、単に「学寮」の景観復元や大谷大学の学問に關係する教学的側面を問題にするだけではなく、幅広い視座からの研究が必要とされる時期にきていることである。<sup>4</sup>

そこで「学寮」を復元するとはいえ、その方法や論点は多様であるが、なかでもまず香月院深励を中心に進めることとしたのは、次のような論点が考えられることによる。

①香月院深励が講師を務めた時期は、異安心問題<sup>5</sup>や西派学林の三業惑乱<sup>6</sup>をはじめとして、教義認識における研究素材が整っていること。

②香月院深励の文化期は、宝暦期頃より町人文化が展開した、いわゆる化政文化と称される文化史的一時代を形成していることから、真宗教学史や香月院深励の学問・問題意識と時代がどのように関係しているかを問う意味と必要があること。

③文化文政期以降、香月院深励のみならず著作に宗学以外の余乗・外学と称される学問が少しずつ見られるようになるが、新制大谷大学が真宗学以外に余乗・外学を教育に取り込む萌芽期の問題として、香月院深励を問題にする意味があること。

④明治十年〜三十年代にかけて、書肆西村九郎右衛門より香月院深励の講録が盛んに出版される。当該期に香月院深

励の講録が問題にされる意味、さらにそれはどのように批判・継承されたのか。出版史や清沢教学との距離において、近代真宗を考察する余地を残していること。

すなわち、香月院深励を問題化するということは、近世後期の問題であり真宗教学史の問題であるとともに、文化史的問題や近代史的問題を考えるうえで重要であるといえよう。

ところが、いざ研究を進めようとする、まずその十分な著述目録が備わっていないことに気付く。既刊の著述目録である『大谷派先輩著述目録補遺』（『續真宗大系』二十巻）には、宗学中心の著作数点を掲げるのみである。その他は『真宗大系』などに数点翻刻されたものがあるくらいで、香月院深励関係の著作・講録の全貌はもとより、分析史料の残存状況すら知ることができないのである。

そこでまず、大谷大学図書館所蔵本に限定して、香月院深励関係書籍目録を作成した。本稿はその成果の一部を公開するものであり、今後の「学寮」研究やひろく諸方面の研究分野に資することができればと思う。しかし残念ながら、香月院深励をめぐる諸文献の精査や歴史的研究課題について、考える全てに及ぶ記述が可能なまでには至っていないため、覚書の形で、まとめ得ること、あるいは指摘できることを列記するのみであることをお赦し願いたい。

### 一、香月院深励略伝

真宗大谷派の学事史において香月院深励はあまりにも著名な存在であるが、簡単に人物について触れておくことしよう。

香月院深励は、字は「子勗」。「亀洲」または「垂天社」と号して、「香月院」と称した。寛延二（一七四九）年九月三日、越前国坂井郡蓑浦の太行寺（現福井市蓑町）に生まれる。天性聡敏・資貌魁偉で、六歳で「三部経」を誦したという。

永臨寺（現あわら市）の寿天は、深励を養子に迎え、その嗣としたことにより、深励は永臨寺に入寺することになる。そのうち京都に出て慧琳や随慧の門に学び、随慧が故郷の播磨に赴けばこれにつき従い、研鑽數年、よく宗学の濫奥を究めた。そのかたわら、諸宗兼学を志向し、真言宗豊山派の智道、仁和寺の龍山らについて、俱舎・唯識などの法相宗の学問（性相）、顯教や密教などの諸学をうけた。その学問は、後掲の目録にみえる『阿毘達磨品類足論』や『華嚴經探玄記珍裘』、また『俱舎頌疏鑽仰』、『入阿毘達磨論講義』、『維摩經義疏』などにうかがうことができる。

寛政二（一七九〇）年には擬講に補せられ、高倉学寮で『入出二門偈』を講じた。寛政五（一七九三）年に嗣講に昇進、翌六（一七九四）年に四十六歳で講師となった。それ以来毎年、学寮で本講を勤めたほかに、家郷に帰って徒弟を集めて講筵を開くことが恒例となり、一家の疏鈔を述訳してほとんど余すところがなかったという。

また、本願寺派の道隱と親交があった。後述するように三業の異義をただすにあたって、これを助けたことも多く、また深励自身も出羽の公巖や肥前の法幢らの異解をただすことにあたった。そして、文化十四（一八一七）年七月八日、六十九歳で入寂した。

香月院深励といえ、殊に門人が多かったことが知られている。その数は一千二百四十九人ともいわれ、『垂天結社簿』（香月院社中名簿ともいう）によれば、徳龍・澄玄・了祥・智現・靈暄・秀存・順芸ら近世後期の学寮の学問を継承した俊英たちがその門下に連なったことがわかる。香月院深励は、同僚の宣明、頓慧、寶景らとともに宗学々家の四大家と称されたとされるが、その突出した門下の数と活躍から、高倉教学の統一的地位を与えられている。

明和三（一七六六）年の学寮改革（三講者制度、学寮奉行設置）以降、かつての御堂衆による教学伝授の私塾的性格から、御堂衆の手を離れた教学専門機関としての学寮へと変貌していったが、それまで地方に育まれ独自の展開をみせていた九州系などの学系が、香月院深励の門下に収斂されることで消滅し、高倉学寮の教学は宗門唯一の正統なる教学として確立した。この動きは学寮所化（末寺子弟）の要求によるものであり、彼らが本願寺当局へ提出した嘆願書には、「於田舎

御法義心得違仕候者共折節出来仕候」とみえ、近世初期より全国各地で問題になっていた異安心事件への対処のために、正統なる教学を確立することが要請されたことよっている。

こうして教団内において高倉教学と講師の地位は飛躍的に向上したが、殊に香月院深励以降、講師の教学を継承することを尊び、異を説くことを許さない風潮が学寮内に強まったのである。<sup>10</sup>後掲の目録においても講録がその大半を占めており、香月院深励の講義が何度も繰り返し書写されていることから、そうした状況がうかがい知られよう。

以上、諸国の僧侶たちが香月院深励の門下に連なるには、やはり香月院深励にそれなりの業績的特徴が伴っていないければなしえなかったことであろう。従来は、門人の多さもあって、いささか無批判的な香月院評価がなされたままになっていることも事実である。垂天社のような一門社中を形成したのは香月院深励だけでなく、近世中後期には他の仏教諸宗、国学者らにも少なからずみられたことを無視してはならない。近世学寮に香月院深励を生んだ歴史的背景を考察し、ひろく近世社会に位置づけたうえで評価しなければ、教学的特徴以外の特徴を明らかにすることは困難であろう。

## 二、講録——蓮如・異安心・両堂再建——

近世学寮において、講師の教学を継承することを尊び、異を説くことを許さない風潮を反映するかのように、香月院深励の講録は忠実に筆録され伝えられている。ここでそれらの講録から、教学的な特徴以外に、時代的特徴として次の二点を指摘しておきたい。

まずは、蓮如『御文』に関する講録が多いことである。このことは『羽州異安心公厳御札』や『真宗祈願決撰抄』、『当宗祈願之事』などと合わせて考察する必要がある。というのは、神祇不拜の問題、すなわち真宗門徒における実社会の神祇信仰、大小の神社参拝などを肯定し受容・同調しなければならぬ現実や、王法祈願をめぐる問題は、蓮如の王法為本を一宗の掟とする解釈に、祈願の根拠を求め、すなわち存覚『六要鈔』にみえる「外儀」と「内心」との使い分け

による俗塵生活を説く論法をうけ、蓮如が王法を外面で守り、仏法を内面に蓄えよと説いた『御文』の説き方が、香月院深励の時期に再解釈されたことがうかがわれるからである。念仏者の現世生活における招福祈願はあくまで否定しつつも、幕藩勢力の牽制(外圧)に屈した体制的順応として解釈できるのであるなら、香月院深励のこの種の講録の数や内容、教学の継承論にとどまらず、時代背景に十分注意を払いながら考察を進めなければならない。

また、東本願寺の御影堂と阿弥陀堂などの火災による再建事業、すなわち両堂再建と学寮の学僧らの教化活動とは密接な関係がある。東本願寺は、天明八(一七八八)年の京都大火による焼失以降、計四度の火災に遭い、その都度、門徒の喜捨や尽力によって再建されてきた。それらの再建事業は財政困窮を招きながらも、学寮講者らの演説・教化などによって再建が実現した経緯がある。香月院深励もまた、天明八年の火災による寛政九(一七九七)年の両堂再建に尽力した。その内容は、後掲の目録所載の『大藏経募縁序』や『香月院師豊後同行安心示談』、『東園錦絲録』などにみることができる。また、直接的に再建事業との関わりが記されていないなくても、本山のかかる緊急事態をうけた法話と思しき講録も含まれている。こうした講者の教化の足跡は、文政六(一八二三)年の両堂焼失においても継承され、組織的に機能したことが明らかになってきている。<sup>12</sup>

後掲の目録をみると、香月院深励は学寮だけでなく、実に様々な場所で講義・法話を展開している。地元である金津永臨寺でも度々法話を行っている。学寮で宗学の探求をし、それをまた地方へ還元する活動を実践していたことが知られ、澤博勝氏は「越前で燻り続ける三業惑乱の余波に対処するためのもの」としている。<sup>13</sup> やはり教学中心のアプローチだけでは香月院深励の学問や活動の本質をとらえることはできないであろう。

まとめにかえて——香月院深励の学問と近代——

以上、紙幅の都合上、粗々と断片を羅列してきた。本稿の主たる目的は、香月院深励関係書籍の世界を公開し、個別

固有の問題だけにとどめず、真宗学史はもとより、近世文化史、社会史、あるいは教育史など、普遍的な研究課題として喚起することにある。その意味で、香月院深励の研究はスタートしたばかりであり、後掲の目録は様々に問題点を抽出することができるものと思われる。

最後に明治期に香月院深励の講録が出版されることについて若干ふれておきたい。後掲の目録の中で講義に関するものを時系列に整理すると、①香月院深励の講義をその場で写録したものの「講録」。②のちに講録を臨写したものの。③明治期における講録の出版（木版・活版）に大別される。②は当該期の学問スタイルあるいは「教え」の伝播の過程<sup>14</sup>を鑑みれば、その残存状況はおおよそ見当がつく。しかし、③はなぜ明治十五年以降になって、改めて香月院深励の講録出版が集中しているのかを問わなければならない。そのほとんどは京都の丁字屋西村九郎右衛門<sup>15</sup>から版行されたが、出版技術という意味では、明治十五年を待つこともなく近世には既に確立していた。また近世後期の学寮において香月院深励の講録に需要が無かったわけではなからう。この問題には臨写を重んじた学問スタイルからの変化ということも想定できようが、やはり学寮がいかなる空気にさらされていたかを考慮しなければならない。

慶応四（一八六八）年三月の神仏分離令は、仏教界にとって深刻な問題であった。そして幕末、真宗では護法運動が一層加熱して展開した。護法即護国、即防邪との考えから、旧来の学寮とは別に、耶蘇対策を積極的に推進する研究機関が設置された。それは「護法場」と称された。護法場の詳細はここでは触れないが、<sup>16</sup>やがて護法場を中核として、本山宗政および学寮態勢を陋習と批判し、旧弊一洗の機構改革が求められた。旧態を保持し、護法を説かない学寮と対峙する形で、宗門内部における革新派と保守派の軋轢が激化したが、明治三年以降、明治政府のキリシタン容認の政策転換をうけて存在意義が薄れ、明治四年十月、護法場の中心的存在であった嗣講の闡彰院空覚暗殺事件によって、学制改革は一旦終息した。その後、明治六（一八七三）年、国家による大教院体制実施によって、学寮は同年八月に「貫練場」と改称した。またこの時、明和三（一七六六）年の学寮改革より続いていた三講者制度が廃止された。この間に教師教授

や育英教校などが開設された。そして明治十二（一八七九）年六月には、貫練場は貫練教校と改められ、夏安居や春講・秋講などが常時授業に変更され学校として整ってくる。

ところが、明治十五年十二月には、旧「学寮」の復活を望む人達の尽力によって「大学寮」と改称され、三講者も復し、学生もまた「所化」と称した。これは単なる名称の問題ではなく、強い「学寮」への復古であり、伝統宗学の維持、保守への回帰であったのである。すなわち、香月院深励の講録が明治期に出版されることは、かかる学寮の復古気運と大きく関わっていることは容易に察しがつく。しかし、明治二十九年の真宗高倉大学寮と真宗大学の分離以降、「香月院深励」が、その学問であれ、権威であれ、それぞれにおいていかに継承されたかについては管見の限りよくわかっていない。「明治の香月院深励」はいかに継承されたのか、という具体性を問わなければ、明治期の激動の学制改革や学問の本質をとらえることはできないものと思われる。それは今に伝わる香月院深励の講録に捺された「朱印」に感じられる。

・大谷大学図書館蔵『香月院深励関係書籍目録』凡例

○本目録は、大谷大学図書館所蔵の香月院深励に関する書籍についてまとめたものである。但し、大谷大学図書館に所蔵される全資料を掲載したのではなく、未調査の資料も残されている。大谷大学図書館には、昭和三十六年に永臨寺（現福井県あわら市金津）より寄贈された香月院文庫の目録が備っている。香月院文庫には、本目録掲載の史料のほか、『講師寮日記』（巻二～巻十一〔巻九欠〕、享和元年～文化十年）や『大門表白文』など、香月院深励の活動が知られるもの、また、学問を知る上で重要な典籍が多数含まれている。講録のうち、『真宗全書』などに全文翻刻されているものがいくつか認められるが、本目録ではそれらは割愛した。

○本目録を作成する上で、大谷大学図書館の許可を得て、二〇〇六年二月より調査を行った。内容は欠本調査、内外題、丁数、押印、版本（版元）・写本（書写者）、成立年月日、書き込み（朱筆など）などについて調査を作成し、一件につき



- 三カット程度の写真撮影を行った。本目録はその調書をもとに、紙幅の制約上、一部省略して作製したものである。
- 番号(記)は、二〇〇六年度の本目録作成において便宜的に割り当てたものである。
- 欠本についても目録にそのまま示した。
- 名称は、大谷大学図書館発行の蔵書目録に拠ったが、一部は外題、内題に拠ったものも含まれている。仮称の場合、「」に記載した。
- 形態欄には、スミ書き(写本)か木版・活版(版本)かの別と、平仮名交じり文か片仮名交じり文か漢文体かの種別について記した。竖帳や小本、あるいは仮綴装などの装丁については本目録では割愛した。
- 筆者は、基本的に香月院深励の関係書籍という点からすべて「香月院深励」としているが、講義録(講録)の場合、資料に「講」「口述」「述」「説」「講説」「作」などある場合はこれを書き添えた。なお、香月院深励自筆の真偽については、可能な限りで推断を加えているが、精査は他日を期すことにしたい。
- 成立は、資料の成立にかかわる講義の年代やその書写年代など、判然とする年月日を古い順に記した。
- 法量は、縦×横で記した。
- 書き込みは、朱筆など何らかの加筆・修正が認められるものは「■」、何も書き込みが認められないものは「□」で示した。
- 補記は、書き込みの有無に関する内容や程度、また資料の内容や状態を端的に表せる場合はここに示した。
- 目録名と請求記号は、大谷大学図書館発行の目録に対応する。
- 本目録は大谷大学図書館蔵本を対象にしているため、朱印の「大谷大学図書」、「大谷文庫」については割愛し、それ以外の朱印について記した。
- その他、本目録には書籍の分類や性格などは備わらない。後日、完全を期したい。

【謝辞】

本稿は、「指定研究」大学史研究の研究計画の業務成果の一部である。

大谷大学図書館蔵の香月院深励関係書籍を全件調査するにあたり、大谷大学図書館には快く許可していただき、閲覧に際しては職員の方々に大変ご面倒をおかけしました。記して感謝を申し上げます。

また毎週早朝より調査の全般にわたり補助作業を務めていただいた大谷めぐみ氏（博士後期課程三学年）をはじめ、大畑博嗣氏（博士後期課程一学年）と工藤克洋氏（博士後期課程一学年）、また調査と一覽表の作成までお手伝いいただいた、香月拓氏（修士課程一学年）と藤井学氏（短期大学部二学年）には心から御礼を申し上げます。

注

1 『大谷大学百年史』（二〇〇一年十月、大谷大学）より。詳しくは、木場明志「宗教と教育のせめぎ合い―大谷大学近代化元年のころ―」（『大学時報』NO. 三〇九、二〇〇六年七月、日本私立大学連盟）を参照されたい。

2 たとえば、武田統一『真宗教学史』（一九四四年、平楽寺書店）、籠谷真智子「近世初期の御堂衆について」（『近世仏教』第二巻第三号、一九六二年、近世仏教研究会）、大桑斉「近世真宗教団構造の諸類型―『申物帳』の分析から―」（『日本宗教史論集』下巻所収、一九七六年、吉川弘文館）、『上首寮日記』（一九八七年、大谷大学真宗総合研究所）、草野顕之「教権の下で―高倉学寮・宗学の確立―」（『大谷大学―三二〇年史の語るもの』所収、一九八七年、大谷大学）、深田虎雄「高倉学寮草創稿」（『大谷大学真宗総合研究所紀要』第七号、一九九〇年）、『条規学則集1・2』（一九九一年、大谷大学真宗総合研究所）などがある。

3 広瀬南雄「香月院を中心として」（『大谷学報』第九巻第三号）、金子大栄「香月院と高倉学風」（『大谷学報』第二十四巻第六号）など。

4 たとえば、澤博勝「近世社会における「教え」の受容と伝達―越前・真宗を中心として―」（『佛教史學研究』第四六巻第一号、二〇〇三年七月、佛教史學會）、引野亨輔「近世日本の書物知と仏教諸宗」（『史學研究』二四四号、二〇〇四年六月、広島大学）などは、近世学寮の復元研究がいに急がれる課題を示唆している。

- 5 浄土真宗の安心（救いの境地）と相違した誤った安心の解釈。
- 6 三業惑乱とは、宝曆十三（一七六三）年、浄土真宗本願寺派学林の第六代能化である平乗寺功存が『願生婦命弁』を著し、この書物の中で三業婦命説が説かれたことに端を発する紛争である。
- 7 羽前国酒田の公敵は異安心として、香月院深励によって調理の対象となったが、通常、調理は勢威をもって屈服させるものであるが、後日、調理を受けた公敵より深励へ「此度、師の懇切なる教誨なくんば、まさに往生の一大事を失ふへかりしなり。感謝言語の尽くす所に非ず」との書簡が届いたとし、美談として受け継がれたという。
- 8 前掲、広瀬論文、『香月院深励師略伝』などによった。
- 9 広瀬南雄『真宗学史稿』（一九八〇年四月、法藏館）
- 10 以上、前掲草野論文。
- 11 柏原祐泉「近世真宗における神祇への対応」「近世真宗の現世利益思想」（ともに同『真宗史仏教史の研究II 近世篇』所収、一九九六年、平楽寺書店）
- 12 上場顕雄「近世末東本願寺学僧の教化とその受容―香樹院徳竜と近江商人松居遊見―」（『近世真宗教団と都市寺院』所収、一九九九年二月、法藏館、初出一九七九年、『地方史研究』一六二）、松金直美「近世真宗における〈教え〉伝達のメディア」（『大谷大学大学院研究紀要』第二十三号所収、二〇〇六年十二月、大谷大学大学院）
- 13 前掲澤論文。
- 14 前掲上場・松金論文。
- 15 西村九郎右衛門の出版活動については、藤井学「近世京都における仏書出版の状況―丁字屋九郎右衛門を中心として―」（『立命館大学二〇〇四年度赤間ゼミ論集 江戸模様』所収、二〇〇五年三月）に詳しい。
- 16 護法場については、木場明志「近代との邂逅」（『大谷大学一三二〇年史の語るもの』所収、一九八七年、大谷大学）によった。

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
未詳	—	25.5・19.2	■	三人の著者のうち、深励は1人目カ。	香月院文庫目録	外大 5516	(丁数) 27 (朱印)「永福寺藏」、「香月院文庫」
文化4丁卯霜 ふり月24日乃 夜(深励著)	—	23.4・16.7	□	複数の人が書いた合綴。	香月院文庫目録	外大 5540	自筆、二條院讃岐集と合綴(内題・丁数)①「二條院讃岐集」12、②「小畑田歌解」、「越國深慮」13、③「新善光寺御影堂時宗血脉譜」12、④「淨光基超勝寺系圖」9、⑤「月燈隨筆卷之三 和語之部東山和歌集解」4、⑥「月燈隨筆卷之五 和語之部東山聖教類語集解」5、⑦「時文摘批」25(朱印)「香月院文庫」
享和元年7月 (深励詩作)	—	27.7・20.8	□	深励作・筆の漢詩や和歌を集めたもの。	香月院文庫目録	外大 5548	詩歌の下書集。 (丁数) 14 (朱印)「香月院文庫」
文化元年8月 14日～文化2 年11月2日	—	27.5・20.2	□	講師寮、厨講寮にてそれぞれ歌会あり(3月)。	香月院文庫目録	外大 5587	自筆カ。 数箇所ではあるが、どのような場面で詠草を残したかわかる記録あり。 詠草数298首。(丁数) 43 (朱印)「香月院文庫」
明治24年	—	16.9・12.0	■	書込みは朱筆による傍線、傍点など。	第一目録	宗小 1	(丁数) 一193、二215 (朱印)「大學寮圖書」
明治27年2月 19日(下巻発 行)	—	17.5・12.3	■	書込みは朱筆による傍線、傍点など。	第一目録	宗小 3	(丁数) 上40、下42 (朱印)「大學寮圖書」 下巻の第14丁が落丁。下巻末に正誤表が付録。
明治22年4月 20日(出版)	—	16.9・13.0	□	—	第一目録	宗小 27	第一～六=浄土和讃、第七～九=高僧和讃、第十～十二=正像末和讃。 (丁数) 一117、二127、三154、四143、五159、六160、七179、八166、九216、十114、十一114、十二102 (朱印)「真宗大學圖書」 版權所有者は山内正五郎。
明治27年9月 (発売)	—	16.9・11.9	■	書込みは鉛筆による傍線。	第一目録	宗小 29	(丁数) 上34、中46、下24 (朱印)「真宗大學圖書」
明治24年12月 10日(出版)	明治25年4月 (発行)	17.0・12.1	□	—	第一目録	宗小 30	(丁数) 上44、中35、下36
明治32年6月 1日(発行)	—	18.6・13.0	■	誤植訂正など書込あり。	第一目録	宗小 60	活版印刷。 (頁数) 264 (朱印)「真宗大學圖書」
文化3年丙寅 夏(於・大学 寮)	明治19年3月 16日(発行)	17.0・11.8	■	科文に朱点。	第一目録	宗小 64	(丁数) 一99、二130、三138、四168、五143 (朱印)「真宗大學圖書」
明治25年3月 31日(出版)	明治25年4月 (発行)	16.9・12.1	■	朱傍点あり。	第一目録	宗小 67	(丁数) 46 (朱印)「真宗大學圖書」
未詳	—	17.0・12.0	■	—	第一目録	宗小 87	(丁数) 上52、下63 (朱印)「真宗大學圖書」
未詳	—	18.1・12.5	□	—	第一目録	宗小 91	(丁数) 第一冊：一49、二45、三49 第二冊：四42、五55、六40(朱印)「真宗大學圖書」

id	名 称	外 題	内 題	形態	筆 者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
1	天象星名録	「天象星名録 香月院自筆」	「二十八宿」	漢写	(香月院深励)	未詳	—	1	—
2	小栗田歌解	「二條院讀叢集 全」	「小栗田歌解」(他複数) ※備考参照	平写	香月院深励 (他複数)	—	—	1	—
3	こぼれをあつめて	「こぼれをあつめて」	—	平写 漢写	香月院深励	—	1	1	—
4	東林社詠草	「東林社詠草」	—	平写	(香月院深励)	未詳	—	1	—
5	正信念仏講義	「正信講義」一、二	「正信講義卷一 香月院深励講師講述」	片刊	香月院深励 (講述)	—	8	2	西村九郎右衛門
6	一枚起請文講義	「一枚起請文講義上 真宗講義集第六号」 (上、下 第六号、第七号)	「一枚起請文講義上 香月院深励大講師述 准學師松本惠秀訂正」	片刊	香月院深励 (述)	—	2	2	西村九郎右衛門
7	三帖和讃講義	「校正 三帖和讃講義一 香月院深励講師講述 細川千富校閲」 (一～十二)	「淨土和讃講義卷一 香月院深励講師講述 細川千富校閲」 (高僧和讃/正像末和讃)	片刊	香月院深励 (講述)	—	淨土6、 高僧3、 正像末 3	12	西村九郎右衛門(発行) 山内文華堂 (発売)
8	御文五帖目初通末代無智講義	「末代无智御文講義上」 (上、中、下)	「末代无智御文講義上 香月院深励師述」	片刊	香月院深励 (説)	—	3	3	西村九郎右衛門
9	御文聖人一流章講義	(題箋)「聖人一流御文講義」 (上、中、下)	「香月院深励講師述 聖人一流御文講義 京都書林 西村九郎右衛門 版」	片刊	香月院深励 (述)	—	3	3	京・西村九郎右衛門 (護法館)
10	歎異鈔講義	(題箋)「歎異鈔講義 全」	「香月院深励講師述 石川了因講校閲 歎異鈔講義 京都書林 護法館藏版」	片刊	香月院深励 (述)	石川了因 (副講・校閲)	—	1	西村九郎右衛門(護法館)
11	選択集講義	(題箋)「香月院深励講述 選擇集講義 小栗栖香頂校閲」 (壹～五)	「香月院深励講師述 小栗栖香頂校閲 選擇集講義 京都書林 法藏館西村七兵衛藏版」	片刊	香月院深励 (述)	小栗栖香頂 (校閲)	—	5	京・法藏館 西村七兵衛
12	言南無者講義	(題箋)「言南無者講義全」	「明治廿五年四月発売 香月院深励講師述 言南無者講義 京都 護法館 西村九郎右衛門版」	片写	香月院深励 (述)	藤谷忠燈 (校閲)	—	1	京・西村九郎右衛門 (護法館)
13	夏御文講義	(題箋)「夏御文講義」 (上、下)	「香月院深励講師述 夏御文講義 京都書林 西村空華堂梓」	片刊	香月院深励 (述)	—	上・下 2	2	京・西村九郎右衛門 (護法館・空華堂)
14	入出二門偈講義	「入出二門偈講義一」 (二)	「入出二門偈講義卷之一 香月院深励講師述 廣陵了榮校閲 豊満春洞校訂」	片刊	香月院深励 (述)	廣陵了榮 (校閲)	6	2	西村九郎右衛門

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
明治21年7月10日（印刷、出版）	—	17.0・12.0	■	書込みは朱筆・鉛筆にて傍線、傍点、誤字訂正など。	第一目録	宗小 105	〔丁数〕第一冊：一40、二41、三37、四40、五35、第二冊：六38、七36、八36、九39、十42、第三冊：十一34、十二42、十三37、十四39、十五33、第四冊：十六35、十七32、十八43、十九32、二十36、第五冊：廿一44、廿二31、廿三31、廿四41、廿五26、第六冊：廿六34、廿七28、廿八28、廿九26、三十23 〔朱印〕「真宗大學圖書」、「教導講習院印」（この印の上に「消印」あり） 巻30の第三丁が落丁。宮部圓成校訂。
明治26年10月10日（大経第七冊発行）	明治28年10月1日（観経第十冊発行）	17.0・12.1	■	書込みは朱筆にて句点・傍線・頭註（大経第一〜第三冊のみ）。	第一目録	宗小 110	〔丁数〕大経：一83、二91、三90、四97、五76、六89、七106、八105、九95、十53、観経：一136、二132、三145、四97、五102、六139、七150、八123、九131、十133、小経：一108、二101、三112、四125 〔朱印〕「大學寮圖書」（大経）、「真宗大學圖書」（観経、小経） 大経上14巻、大経下5巻（合計10冊）、観経23巻（10冊）、小経8巻（4冊）
寛政11年初冬（梓行）	嘉永2年7月（当本印刷カ）	17.5・13.5	□	蓮如の文明開板の三帖和讃をもとに、漢字の清濁などの校訂を深励が加えたもの。	第一目録	宗小 143	〔丁数〕浄土71、高僧65、正像末70 〔朱印〕「真練場蔵」、「真宗大谷大學圖書」 〔刊記、正像末和讃巻末〕「寛政十一己未初冬梓行 嘉永二己酉七月 東六條下珠數屋町丁子屋 皇都書肆 西村九郎右衛門」 〔凡例末尾、浄土和讃巻頭所収〕「于時寛政十一年春三月越州深厲 誌于京兆高倉學寮」 字体も文明本のものを擬している。（浄土和讃巻頭の凡例を参照）
明治31年4月20日（発行）	—	17.9・12.6	■	—	第一目録	宗小 150	〔丁数〕98 〔朱印〕「真宗大谷大學圖書」、「真宗大學寮蔵書」 往年、京都下間より譲り受けの原本、尾張国名古屋市新道町正覚寺に現存す、とみえる。
明治25年9月1日（出版）	—	17.0・11.9	■	—	第一目録	宗小 157	〔丁数〕23 〔朱印〕「真宗大谷大學圖書」、「真宗大學寮蔵書」
嘉永11年3月（深勵誌、於高倉学寮）	寛政11年初冬、嘉永2年7月（梓行）	18.6・12.9	■	第二目録	—	宗小 245	〔丁数〕凡例2、浄土69、高僧65、末70 〔朱印〕「真宗大谷大學圖書」、「献本 沢田了」
明治27年6月1日（印刷）	明治27年6月10日（発行）	16.9・12.1	■	—	第二目録	宗小 251	〔丁数〕一冊目：一56、二52、二冊目：三51、四50、三冊目：五61、六51、四冊目：七60、八65 〔朱印〕「真宗大谷大學圖書」、「聖川蔵書」 献本 澤田了 本文に入る前に小栗栖香頂による序文あり。一冊目末に貼紙あり。
明治32年5月21日（印刷）	明治32年6月1日（発行）	18.9・13.0	■	全18章	第二目録	宗小 256	〔頁数〕264 〔朱印〕「真宗大谷大學圖書」 献本 澤田了 本文前に石川了因附講が香月院深勵講師の生涯を略記。 〔講述者相続人〕香月深恵
明治31年3月1日（印刷）	明治31年3月10日（発行）	18.4・12.8	■	全12回	第二目録	宗小 290	〔頁数〕242
未詳	—	18.8・13.6	■	—	第二目録	宗小 297	〔丁数〕15 〔朱印〕「井岡巴渡邊蔵」
未詳	明治24年5月20日（印刷、出版）	17.8・12.4	■	鉛筆による傍線書込。	第二目録	宗小 299	〔丁数〕本53、末61 〔刊記・奥付〕「明治廿四年五月廿日印刷／同年同月同日出版 印刷兼發行者 京都市下京區下珠數屋町東洞院西入橋町八番戸 西村九郎右衛門 編輯者 滋野縣近江國伊香郡木ノ本妙樂寺副住職 藤谷惠登」

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
15	蓮如上人御一代記聞書講義	「蓮如上人御一代記聞書講義卷壹」(壹～六)	「蓮如上人御一代記聞書講義 香月院深勳講師講述 南條神興講師聞之 京都 三書堂合梓」	片刊	香月院深勳(述)	—	30	6	西村九郎右衛門、西村七兵衛、山内正次郎(発行者兼印刷)
16	三部經講義	「大無量壽經講義一」(一～十) 「觀無量壽經講義一」(一～十) 「阿彌陀經講義一」(一～四)	「大無量壽經講義」(「觀無量壽經講義」・「阿彌陀經講義」) 「香月院深勳講師述 占部觀順嗣講師聞 京都書林 護法館 西村九郎右衛門版」	片刊	香月院深勳(述)	占部觀順(聞)	50巻内 訳は内 容補記 参照	24	西村九郎右衛門
17	三帖和讃	「浄土和讃」 「高僧和讃」 「正像末和讃」	—	片刊	香月院深勳(述)	—	3	3	西村九郎右衛門
18	改悔文聞書	(題箋)「改悔文聞書」	「香月院講師説 占部觀順校閱 改悔文聞書 京都書林 西村護法館藏版」	片刊	香月院深勳(述)	占部觀順(校閱) 原宜住(訂正)	—	1	西村九郎右衛門(護法館)
19	三祖一致辨	(題箋)「三祖一致辨 全」	「香月院深勳講師述 三祖一致辨 京都書林 西村九郎右衛門版」	片刊	香月院深勳(述)	—	—	1	西村九郎右衛門
20	諸本校合御草稿三帖和讃	(題箋)「諸本/校合/御草稿三帖和讃 翻刻 全」	「翻刻 校合香月院深勳講師 諸本校合御草稿三帖和讃 京都書林 二書堂梓」	片刊	香月院深勳(校合)	—	—	1	法藏館 西村七兵衛(原 版 人 西村九郎右衛門)
21	阿彌陀經講義	「阿彌陀經講義」(一～四)	「阿彌陀經講義/香月院深勳講師述、占部觀順嗣講師聞/京都書林 護法館 西村九郎右衛門版/版權所有」	片刊	香月院深勳(述)	占部觀順(聞) 小栗栖香頂(撰)	8	4	西村九郎右衛門(発行者)、香月深恵(講述者相続人)
22	歎異抄講義	「歎異抄講義 全」	「歎異抄講義/香月院深勳講師述、石川了因嗣講校閱/京都書林 護法館藏版/版權所有」	片刊	香月院深勳(述)	石川了因(嗣講・校閱)	—	1	西村九郎右衛門(発行者)
23	御文五帖目第五通信心得章講義	「信心獲得御文講義 全」	「信心獲得御文講義/香月院深勳講師述、松本恵秀學節校閱/京都書林 西村護法館藏版/真宗講義集第拾二号」	片刊	香月院深勳(述)	松本恵秀(校閱)	—	1	西村九郎右衛門
24	歸命字訓弁	「歸命字訓弁」	「行巻 皈命字訓弁」	片写	香月院深勳	未詳	—	1	—
25	念仏往生願講義	「念佛往生願講義 全」	「念佛往生願講義/香月院講師説/藤谷恵燈編輯/京都書林 護法館藏版」	片刊	香月院深勳(説)	—	2	1	護法館(蔵版) 西村九郎右衛門(発行者)

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
文化6年晩秋 (深励説)	明治18年9月 (発売)	16.8・12.0	□	—	第二目録	宗小 313	(丁数)上55、中46、下48 (上巻内題)「興御書講義卷之上 文化六年己巳晩秋於 東六條下珠敷屋町四郎寺 香月院龜淵講師説」
未詳	明治25年4月 (発行)	16.5・11.8	□	—	第二目録	宗小 314	(丁数)上44、中35、下36
未詳	明治32年6月 1日(発行)	18.8・13.1	■	朱筆、青イン クにて誤字、 脱字の訂正。	第二目録	宗小 323	(頁数)264 (朱印)「眞宗東京中學圖書印」 見返しに眞宗東京中學図書部の蔵書ラベルが貼付。
未詳	明治17年8月 1日(刻成発 売)	16.9・12.0	□	—	第二目録	宗小 333	(丁数)上34、中46、下24 (朱印)「眞宗大谷大學圖書」、「眞宗大學寮蔵書」 題箋欠落。
明治19年3月 16日(発行)	—	18.1・12.8	□	—	第二目録	宗小 334	(丁数)一一99、二一130、三一138、四一168、五一143 (朱印)「眞宗大學圖書」、「教導講習院印」(取消)
—	—	—	□	欠本	第二目録	宗小 337	欠本
—	—	16.6・11.9	■	—	第二目録	宗小 342	(丁数)上52、下63、新版目録1 (朱印)「眞宗大谷大學圖書」、「眞宗大學寮」
寛政11年初冬 (梓行)	嘉永2年7月 (版)	17.6・12.5	□	—	第二目録	宗小 346	(丁数)浄土71(凡例2)、高僧65、正像末70 (朱印)「眞練場蔵」、「眞宗大谷大學圖書」、「京都教授」(正 像末和讃のみ)
文化3年丙寅 夏(講義、於・ 大學寮)	明治18年9月 21日(発行)	16.7・12.0	■	朱傍点少々。	第二目録	宗小 349	(丁数)一99、二130、三138、四168、五143 (朱印)「眞宗大谷大學圖書」、「眞宗大學寮蔵書」、「法藏館 印」、「法藏館西村印」
明治24年12月 10日(出版)	—	17.0・12.0	□	—	第二目録	宗小 360	(丁数)一45、二49、三51、四62 (朱印)「眞宗大谷大學圖書」、「眞宗大學寮蔵書」
明治25年3月 31日(出版)	明治25年4月 (発行)	17.0・12.0	□	ルビ有り	第二目録	宗小 361	(丁数)46 (朱印)「眞宗大谷大學圖書」、「眞宗大學寮蔵書」 巻末に「西村空華堂版」の広告一覧あり。
享和2年(大 経)	明治26年10月 10日(発行、 大経)	17.0・12.1	■	—	第二目録	宗小 364	「阿弥陀経講義」4冊欠本。(丁数)大経：一：一137、二 42、二：三51、四40、三：五44、六46、四：七48、八49、 五：九42、十34、六：十一47、十二42、七：十三49、十四 57、八：下一47、下二58、九：下三55、十：下四40、下五 53、観経：一：一43、二44、三49、二：四46、五43、六42、 三：七45、八53、九47、四：十47、十一50、五：十二52、 十三50、六：十四64、十七78、八：十八56、十九67、九： 二十65、二十一66、十：二十二64、二十三69 (朱印)「眞宗大谷大學圖書」、「眞宗大學寮蔵書」、「大學寮 圖書」
明治20年12月 (第7、8、9 巻刻成)	明治22年4月 20日(第6冊 印刷出版)	17.0・12.1	□	—	第二目録	宗小 374	第3、4、10、11、12冊欠本。 (丁数)一一17、二127、五159、六160、七129、八166、九216 (朱印)「眞宗大谷大學圖書」、「眞宗大學寮蔵書」 浄土：第1～6冊、高僧：第7～9冊、正像末：第10～12 冊。
明治30	—	—	□	欠本	第三目録	宗小 405	欠本
明治30年3月 20日(発行)	—	17.9・12.7	■	黒インクにて 誤字訂正。	第三目録	宗小 494	(頁数)126 巻末に正誤表を付す。
明治27年6月 10日(発行)	—	16.9・11.9	■	朱筆にて傍線、 傍点書込。	林山文庫 目録	宗小 684	(丁数)第一冊：一56、二52 第二冊：三51、四50 第三冊： 五61、六51 第四冊：七60、八65 (朱印)「林山文庫」



真宗総合研究所研究紀要 第24号

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
26	興御書講義	「興御書講義 上」 (上・中・下)	「興御書講義／香月院深 勸講師述／准一等學師占 部觀順校／京都書林 西 村九郎右衛門藏版」	片刊	香月院深勸 (述)	—	3	3	西村九郎右 衛門
27	御文五帖目第十通聖人一 流章講義	「聖人一流御文講義講義 上」(上・中・下)	「聖人一流御文講義／香 月院深勸講師述／京都書 林 西村九郎右衛門版」	片刊	香月院深勸 (述)	—	3	3	西村九郎右 衛門
28	歎異抄講義	「歎異抄講義 全」	「歎異抄講義 講師香月院深勸述 嗣講石川了因校閱」	片刊	香月院深勸 (述)	—	1	1	西村九郎右 衛門
29	御文五帖目初通末代無智 章講義	—	「末代无智御文講義／香 月院深勸講師述／京都書 林 西村七兵衛藏版」	片刊	香月院深勸 (述)	—	3	1	西村七兵衛 (法藏館)
30	選撰集講義	(題箋)「香月院深勸講述 選撰集講義 小栗栖香頂校閱」 (壹～五)	「香月院深勸講師述／ 小栗栖香頂校閱／選撰集 講義／京都書林 法藏館 西村七兵衛藏版」	片刊	香月院深勸 (述)	小栗栖香 頂(校閱)	5	5	西村七兵衛 (法藏館)
31	歎異抄講義	—	—	片刊	香月院深勸	—	—	—	—
32	夏御文講義	(題箋)「夏御文講義」	「香月院深勸講師述／夏 御文講義／京都書林 西 村空華堂 梓」	片刊	香月院深勸 (述)	—	2	1	京・西村空 華堂
33	三帖和讃	(題箋)「坊刊榮子 浄土 和讃」 「坊刊榮子 高僧和讃」 「坊刊榮子 正像末和讃」	—	片刊	香月院深勸 (校)	—	3	3	東六條下珠 敷屋町 丁 字屋 京都 書肆 西村 九郎右衛門
34	選撰集講義	(題箋)「香月院深勸講述 選撰集講義 小栗栖香頂校閱」 (壹～五)	「香月院深勸講師述／ 小栗栖香頂校閱／選撰集 講義／京都書林 法藏館 西村七兵衛藏版」	片刊	香月院深勸 (講述)	小栗栖香 頂(校閱)	5	5	西村七兵衛 (法藏館)
35	正信念仏講義	(題箋)「正信偈講義」 (一～四)	「香月院深勸講師述／正 信偈講義／京都書林 西 村九郎右衛門發行」	片刊	香月院深勸 (講述)	—	8	4	京・西村九 郎右衛門 (護法館)
36	言南無者講義	(題箋)「言南無者講義 全」	「明治廿五年四月發行／ 香月院深勸講師述／言南 無者講義／京都 護法館 西村九郎右衛門版」	片刊	香月院深勸 (述)	藤谷忠燈 (校閱)	—	1	京・西村九 郎右衛門 (護法館)
37	三部經講義	(題箋) 「大無量壽經講義」 (一～十) 「觀無量壽經講義」 (一～十)	「香月院深勸講師述／占 部觀順嗣講師閱／大無量 壽經講義／京都書林 護 法館 西村九郎右衛門 版」	片刊	香月院深勸 (述)	占部觀順 (校閱) 山本祐果 (校正)	※備考 参照	20※備 考参照	京・西村九 郎右衛門 (護法館)
38	三帖和讃講義	「校正 三帖和讃講義 香月院深勸講述 細川千嵩校閱」 (一～十二)	「校正／三帖和讃講義／ 香月院深勸講師述／細 川千嵩校閱／京都山内 草堂發兌」	片刊	香月院深勸 (講述)	—	—	12※備 考参照	京都 山内 文華堂
39	選撰集二十五個異同辨	—	—	—	香月院深勸	占部觀順 (校閱)	—	1	京・西村護 法館
40	選撰集二十五個異同辨	「選擇集廿五異同辨」	「選擇集廿五個異同辨／ 香月院深勸講師著述／占 部觀順嗣講師校閱／京都 書林西村護法館版」	片刊	香月院深勸 (述)	占部觀順 (校閱)	1	1	京・西村護 法館
41	仏説阿彌陀經講義	「阿彌陀經講義」 (一～四)	「阿彌陀經講義／香月院 深勸講師述／占部觀順嗣 講師閱／京都書林 護法 館 西村九郎右衛門版」	片刊	香月院深勸 (述)	—	8	4	京・西村九 郎右衛門

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
明治27年2月19日(発行)	—	17.5・12.5	■	—	林山文庫目録	宗小 685	(丁数)42 (朱印)「林山文庫」(奥書)「珠洲郡小木法應寺に香月院述ノ一枚起請筆削記写本一冊六十六倍所蔵 内容を此の講本と比較するに題は異なれ共同一なるものなり。参考の為に記し置く 昭和八年九月廿二日 於自坊 林山誌」
昭和22年2月25日(林山入手)	—	17.5・12.4	□	浄土和讃講義の中より三経和讃2巻を独立させたもの	林山文庫目録	宗小 690	(丁数)上143、下159 (朱印)「林山文庫」、「林山文庫蔵書」下巻の巻末に、護法館出版目録を付す。下巻裏表紙裏に「昭和二十二年二月廿五日/於京都求之/林山誌」とあり。
明治25年9月1日(印刷出版)	—	17.9・12.4	□	—	林山文庫目録	宗小 697	(丁数)23 (朱印)「林山文庫」、「能登林山文庫蔵書」
文化6年晩秋(深励述)	明治18年9月(発売)	17.0・12.0	■	朱筆にて傍線、傍点書込。	林山文庫目録	宗小 705	(丁数)上52、中46、下48 (朱印)「林山文庫」(内題)「興御書講義巻之上/文化六年己巳晩秋於/東六條下珠數屋町閑唱寺/香月院臨洲講師説」
明治28年9月20日(印刷)	明治28年10月1日(発行)	17.0・11.8	■	全23講義	林山文庫目録	宗小 715	(丁数)第一冊：一43、二44、三49 第二冊：四46、五44、六42 第三冊：七45、八53、九47 第四冊：十47、十一50 第五冊：十二52、十三50 第六冊：十四64、十五75 第七冊：十六72、十七78 第八冊：十八56、十九67 第九冊：二十65、廿一66、廿二64、廿三69 (朱印)「林山文庫」、「林山蔵書」9冊目に講義七と印刷されているが、廿の誤植。
明治9年4月28日(出版)	—	16.9・12.0	■	本文前に序あり	林山文庫目録	宗小 754	(丁数)51 (朱印)「林山文庫」、「道林口蔵書之印」、「青口(城カ)」
明治9年4月29日(出版)	—	17.0・12.0	□	—	林山文庫目録	宗小 758	(丁数)51 (朱印)「林山文庫日下無倫氏 舊蔵圖書」
明應7年5月下旬(製作)	—	17.6・12.4	■	全16回	林山文庫目録	宗小 765	(丁数)上52、下63 (朱印)「林山文庫」
明治31年3月1日(印刷)	明治31年3月10日(発行)	18.5・12.6	■	全12回	林山文庫目録	宗小 771	(頁数)212 (朱印)「林山文庫」
明治26年10月1日(印刷)	明治26年10月10日(発行)	17.0・11.9	■	全54回(六巻の上講義十二から統講となり、これも全54回)	林山文庫目録	宗小 814	一、二巻は欠本。(丁数)三巻：上544、六46 四巻：七48、八49 五巻：九42、十34 六巻：十一47、十二42 七巻：十三49、十四57 八巻：下一47、二58 九巻：三55 十巻：四40、五53 (朱印)「林山文庫」七巻まで上講義、八巻～十巻は下講義。
—	—	—	□	欠本	第一目録	宗大 30	欠本
享和壬戌霜月17日	—	24.3・16.5	■	—	第一目録	宗大 72	(丁数)一52、二45、三44 ※奥書あり。
享和2壬戌年12月3日	—	24.0・16.4	■	写カ	第一目録	宗大 73	(丁数)一54、二51、三53 (奥書)「享和壬戌年十二月三日羽州飽海郡酒田浄福寺公蔵書判」 ※乱明に対して公蔵が偽り無き旨を書判したもの
享和2	文化3星宿丙寅初冬25日	24.2・16.5	□	—	第一目録	宗大 74	(丁数)一48、二43、三53 文化3年10月29日の写し。 ※奥書あり。
未詳	—	23.6・16.3	■	—	第一目録	宗大 77	(丁数)65
享保3年7月29日～(開講)	—	23.6・17.5	■	—	第一目録	宗大 90	(丁数)教巻一73、二80 行巻一77、二66、三66、四76、五66、六57 信巻一71、二57、三68、四67、五57、六54、七60、八71、九54、拾65、拾壹70、拾貳49(教巻一裏紙裏書)「本書ハ享和三年七月廿九日於下間宅開講」

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
42	一枚起請文講義	(題箋)「一枚起請文講義」	「一枚起請文講義／香月院深勳大講師述／准學師松本恵秀訂正」	片刊	香月院深勳(述)	准學師松本恵秀(訂正)	—	1	京・西村九郎右衛門
43	三経和讃講義	「香月院深勳説三経和讃講義」(上・下)	「淨土和讃講義卷四第三十三會」	片刊	香月院深勳(述)	—	2	2	京・西村護法館
44	三祖一致辨	「三祖一致辨 全」	「三祖一致辨／香月院深勳講師述／京都書林西村九郎右衛門版」	片刊	香月院深勳(述)	—	1	1	京・西村九郎右衛門
45	興御書講義	—	「興御書講義／香月院深勳講師述／准一學師占部觀順校／京都書林西村九郎右衛門藏版」	片刊	香月院深勳(述)	—	3	3	京・西村九郎右衛門
46	仏説觀無量壽經講義	「觀無量壽經講義一」(一～十)	「觀無量壽經講義／香月院深勳講師述／占部觀順副講師聞／京都書林 護法館 西村九郎右衛門版／版權所有」	片刊	香月院深勳(述)	占部觀順副講師(聞)	23	10	京・西村九郎右衛門
47	改悔文講義	「香月院深勳著 改悔文講義 全」	「真宗安心 改悔文講義全／香月院深勳講師著／中講義雲英晃耀校／京都書林 西村九郎右衛門藏版／明治九年四月發兌」	片刊	香月院深勳(述)	雲英晃耀(校)	—	1	京・西村九郎右衛門
48	改悔文講義	「香月院深勳著 改悔文講義 全」	「真宗安心 改悔文講義全／香月院深勳講師著／中講義雲英晃耀校／京都書林 西村九郎右衛門藏版／明治九年四月發兌」	片刊	香月院深勳(述)	雲英晃耀(校)	—	1	京・西村九郎右衛門
49	夏御文講義	「夏御文講義 上」(上・下)	「香月院深勳講師述／夏御文講義／京都書林 西村空華堂 梓」	片刊	香月院深勳(述)	—	2	2	京・西村九郎右衛門
50	信心獲得御文講義	「信心獲得御文講義」	「信心獲得御文講義／香月院深勳講師述／松本恵秀學師校閱／京都書林西村護法館藏版／真宗講義集第拾二号」	片刊	香月院深勳(述)	松本恵秀(校閱)	—	1	京・西村九郎右衛門
51	仏説觀無量壽經講義	「大觀無量壽經講義」(三～十)	「佛説觀無量壽經卷上講義五／香月院深勳講師述／占部觀順副講師聞／山本祐乘校正」	片刊	香月院深勳(述)	占部觀順副講師(聞) 山本祐乘(校正)	10	8	京・西村九郎右衛門
52	蓮如上人御一代記聞書講義	—	—	片写	香月院深勳	未詳	—	—	—
53	羽州異安心公巖及講者對話	「講者及公巖對話 共三一」註か	—	片写	神鮮(書記)	未詳	—	3	—
54	羽州異安心公巖御糺	「公巖御糺 共三一」註か	—	片写	香月院深勳	未詳	—	3	—
55	羽州異安心公巖御教誡	「公巖御教誡 共三一」註か	—	片写	香月院深勳(述)	未詳	—	3	—
56	改悔文聞記	(題箋)「改悔文聞記 香月院深勳述」	「改悔文聞記」	片写	香月院深勳(述)	未詳	—	1	—
57	教行信証講義	—	「廣文類教卷會説第一」註か	片写	香月院深勳(述記)	未詳	—	20	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
未詳	—	25.8・18.2	■	—	第一目録	宗大 91	(丁数)論註-63、二66、三72、四63、五71、六62、七56、八57、九68、十68 論註下-57、二59、三62、四35、五57、六48、七56、八58、九53、十49 ※文化4・5年
寛政6甲寅4月15日～(開鑑)	—	23.8・16.1	■	—	第一目録	宗大 92	(丁数)玄義分記-60、二62、三68、四67、五73、六79 序文義記-78、二72、三72、四65、五68 定善義-87、二87、三59、四61、五51 散善義-66、二66、三60、四57
未詳	—	23.4・16.3	■	—	第一目録	宗大 97	(丁数)-39、二42、三41、四48 ※享和元年
文化7午年10月(写終)	—	22.3・14.9	■	—	第一目録	宗大 125	(丁数)一三347、四五六39、七八九47、十一十二42 (奥書)「右越前州永臨寺深励講師奉命講干本廟之殿中 文化午年十月寫寫」
明治27年7月15日(印刷)	明治27年8月1日(発行)	22.0・15.3	■	欄外に鉛筆書きや朱筆で見出しが付けられる。	第一目録	宗大 178	全5冊のうち、3冊目が欠。 (丁数)一104、二71、四74、五76
明治28年10月20日～明治31年5月5日(発行)	享和3年7月(教行巻)、文化2年8月(信巻)(講義)	21.3・14.6	■	第二十四、二十五編は皆往院講録(証巻以下)、序文参照	第一目録	宗大 209	(頁数)初編110、二116、三98、四116、五123、六150、七102、八100、九101、十112、十一107、十二122、十三125、十四116、十五106、十六105、十七108、十八109、十九111、二十130、二十一121、二十二133、二十三149、二十四101、二十五103。 (筆者等)皆往院頌態(説)、小栗栖香頂(序・校閲)、南條文雄(跋文)、福井龍澄(校閲)、香月深恵(講説者相統人、第初～二十三編)、末弘開慶(講説者相統人、第二十四、二十五編)
文化9壬申12月12日(開講)	文化15年4月8日(寫畢) ※備考参照	23.5・16.0	■	小口地部に「香月五乗香雲宗名御文記」とあり。	第一目録	宗大 257	(丁数)103 (述者)3者の述者あり①香月院深励、②五乗院宝景、③香雲(小口による)(年月日)④「亀州和山中於灯明寺 文化九壬申十二月十二日開講」文化十五年四月八日寫早ヌ寫誤アリ考テ可解之、⑤「东時文政五壬午閏正月於難波御堂 江戸浅草光圓寺五乗院宝景述」天保拾五年甲辰四月写之、⑥なし(※丸数字は述者に相当)
未詳	—	24.4・17.7	■	—	第一目録	宗大 281	(丁数)上113、中74、下132 表紙裏に「證明寺藏本」とあり。
未詳	—	23.2・16.5	■	—	第一目録	宗大 282	(丁数)35
天保10己亥初冬(写)	—	—	■	—	第一目録	宗大 283	(丁数)95 (見開き)「香月院深励講師 自問自答御文問書 全」
文化元年申子年10月朔日(発講)	嘉永6年(筆写)	23.4・16.0	□	—	第一目録	宗大 364	(丁数)78 (見開き)「香月院講師 一枚起語文講説」 (奥書)「于時嘉永六癸丑年川口祐誠ヨリ備 大井村阿弥陀寺此年大病六十九了階病筆写之 惣七十五枚 浄土真宗沙内 承順 勉携」
文化1年辛酉2月1日(開講)	文化1年申子10月29日(書写)	23.6・16.0	■	頭註あり。	第一目録	宗大 385	(丁数)上51、下60 (奥書)「文化元年申子十月廿九日写畢 進光寺口俊貴之。上巻冒頭に「中越富山永福寺亀州講師説ノ辛酉二月朔日開講」とあり。
未詳	—	26.1・19.1	□	—	第一目録	宗大 407	(丁数)50
文政2年12月19日	—	23.0・16.0	□	—	第一目録	宗大 418	(丁数)15
文化5年戊辰(講演)	—	23.6・16.1	■	—	第一目録	宗大 424	(丁数)天37、地28 (天・表紙裏書)(朱筆)「此書ハ文化五年戊辰ノ講説ナル事穴貫々々ノ弁ノ下ニテ知ラル」
明治21年11月10日(出版)	—	22.4・15.7	■	—	第一目録	宗大 593	(丁数)上179、下187 (著述者・相統人)香月深恵
未詳	—	24.1・16.2	■	巻八に頭註	第一目録	宗大 681	(丁数)一56、二48、三46、四58、五48、六55、七55、八82

真宗総合研究所研究紀要 第24号

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
58	浄土論註講義	(題箋) 「浄土論註講義 香月院述一」(ほか二～十) 「浄土論註下巻講義一」(ほか二～十)	「浄土論註上巻講義一」(ほか二～十) 「浄土論註下巻講義一」(ほか二～十)	片写	香月院深助(述)	未詳	20	20	—
59	観経四帖疏講義	「香月院述 観経玄義分記 一」ほか	「観経玄義分講義巻之一」ほか	片写	香月院深助(述)	未詳	20	20	—
60	歎異鈔講義	—	「歎異鈔筆記巻之一」ほか	片写	香月院深助(説)	未詳	4	4	—
61	御文五帖目第五信心獲得講義	「真宗 五帖目 第五信心獲得之章 御文法話 一二三 深」ほか	「五帖目第五通御文」	片写	香月院深助(講)	未詳	12	4	—
62	愚禿鈔講義	「愚禿鈔講義一」ほか	「愚禿鈔講義巻一」ほか	片刊	香月院深助(講述)	古部親順(聞)	10	5	護法館 西村九郎右衛門
63	教行信証講義	「真宗 教行信証講義 第一編」ほか	「願浄土真實教文類一講義」ほか	片刊	香月院深助(説)※備考参照	—	25	25	玉恵堂(発行所)、福井龍澄(版權所有兼発行者)
64	御文一帖目十五通宗名御文講義	「宗名御文」	「宗名御文」	片写	香月院深助(述)※備考参照	未詳	—	1	—
65	口伝鈔記	「口傳鈔記 上」ほか	「口傳鈔上」ほか	片写	香月院深助	若州 浄澤(記)	3	3	—
66	御文一帖目第三通撰述御文聴記	「撰述御文聴記 香月院師述 全」	「當流安心消息聞書」	片写	香月院深助(述)	未詳	1	1	—
67	御文一帖目第四通自問自答講義	「自問自答御文聞書 全」	「自問自答御文 口弁」	片写	香月院深助	十納 観誠(記) ※年16才	1	1	—
68	一枚起請文説	「香月院述 一枚起請文 全」	「一枚起請文」	片写	香月院深助(述)	承順(少)	1	1	—
69	歎異鈔聞書	「歎異鈔記 上」 「歎異鈔記 下」	「歎異鈔聞書 上」 「歎異鈔聞書 下」	片写	香月院深助	進光寺口俊(力)	2	2	—
70	御文一帖目初通或人云章講義	「香月院 御文講義 一帖目第一通」	「御文一帖目初通」	片写	香月院深助(説)	未詳	1	1	—
71	赤尾道宗二十一箇条講義	「赤尾廿一條 香月院 全」	「越中赤尾弥七入道廿一條」	片写	香月院深助(演説)	未詳	—	1	—
72	末燈鈔信行一念章講義	「信行一念章 天」ほか	「末燈鈔信行一念章講義 上」ほか	片写	香月院深助(述)	未詳	2	2	—
73	浄土文類聚鈔講録	(題箋)「香月院深助講師著述 浄土文類鈔講義 上 宮地義天副講師校閲」ほか	「浄土文類聚鈔講義巻一」ほか	片刊	香月院深助(述)※備考参照	—	10	2	西村九郎右衛門(発行者)
74	御文一帖目講義	「御文一帖目講義 卷一」(二～八)	「御文一帖目講義 巻一」(二～八)	片写	香月院深助	未詳	8	8	—

## 『香月院深劬関係書籍目録』と香月院深劬をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
寛政11年春3日(深劬)	寛政11年巳未初冬(刊行)	27.2・19.0	■	読み点、注記	第一目録	宗大 763	(丁数) 浄土71、高僧65、正像末70 (奥書)「寛政十一巳未初冬梓行 東六條下駄敷町 皇都書肆 西村九郎右衛門」
享和1年辛酉曆(講演)	—	22.9・15.4	■	—	第一目録	宗大 846	(丁数) 122 外題の一文字目の□は亀。書き直しの箇所あり。表紙に貼紙の跡あり。冒頭に「享和元年辛酉曆越後/高田御坊亀淵講師説」とあり。「阿彌陀經講義」と書かれた貼紙が表紙地部にあり。
文化4年9月24日(書写)	—	24.0・16.7	■	文字の訂正や句点が朱筆	第一目録	宗大 856	(丁数) 25 (奥書)「右之書徳殿公ヨリ借テ写之 文化四九月廿四日 □(藏カ)海(花押)(押印)」
未詳	—	23.5・16.0	■	文字の訂正が書込	第一目録	宗大 898	(丁数) 65 (表紙見開き端書)「本書ノ講述者ハ香月院ニ非シテ皆往院ナリ(住田教授説) 明治四十一年六月 圓書係記」
文化8年	—	23.5・16.0	■	文字を訂正するために朱筆で書込	第一目録	宗大 913	(丁数) 40 深劬が受け取った文字の写しを集めて、一冊にまとめた本カ。
享和2壬戌年12月3日	—	23.4・16.2	■	書き込みは部分訂正程度(墨筆)	第一目録	宗大 933	(丁数) 上85、中65、下59 「御札」(上巻)末尾に「享和二壬戌年十二月三日/羽州豊前郡酒田/淨福寺/公殿書判」とある。
文化11年冬11月(講了) ※備考参照	—	23.8・16.6	■	—	第一目録	宗大 967	(丁数) 上71、中66、下82 (下巻大尾奥書)「下時右講説ハ文化十一年冬十一月/尊命ヲ蒙リ黒書院ニ於テ香/月院講了セララルト云ニ用」
文化13年子8月上旬(深劬)	—	23.0・15.7	□	—	第一目録	宗大 1120	(丁数) 8 (内題) ①「香月院深劬大講師安心書」、②「皆往院鳳嶺大講師入法對待十科」見開き裏に墨筆「是レハ尾州木田福田寺長深傳学師/印施スル所也 師ハ明治四十五年春没ス」「香月院深劬大講師安心書」の末尾に「養柳村/専念寺什物」とある。
※備考参照	—	24.1・16.6	■	6冊合綴	第一目録	宗大 1162	(丁数) ①二種深信心得之次第 ②二種深信皆乘院書上・加州安心評論教論写20 ③加州安心諸講者書上・越後御裁判御書写13 ④真宗祈願決擇鈔全7 ⑤築地輪番書上14 ⑥高倉学寮講師資名録11 ①(内表紙)「二種深信心得之次第 全冊」、(内題)「二種深信心得之次第」、(形態)片写、(筆写)成信坊(擬講)、(年月日)嘉永4辛亥年2月。②(内表紙)「往 擬講成信坊□□ 二種深信皆乘院書上ヶ 加賀安心講者書上ヶ 二部 全」、(内題)なし、(形態)片写、(筆写)成信坊(擬講)、(年月日)不明(内容は文政8年西9月、10月のもの写しカ)。③(内表紙)「鹹 月 加州安心諸講者書上扣・越後御裁判御書 全冊」、(内題)「加州安心諸講者書上扣」越後御裁判御書写、(形態)片写、(筆写)不明、(年月日)不明、内容は文政8年西4月、明和5年7月2日のもの写しカ。④(内表紙)「調 日 述者 香月院、皆往院、五乘院、圓正寺 真宗祈願決擇鈔全」、(内題)「當宗ニワテ祈願祈禱之義在之候哉吾哉之事」、(形態)片写、(述者)香月院、皆往院、五乘院、圓正寺、(筆写)不明、(年月日)不明。内表紙裏に「此文書高大本ニ依テ蓮元綱講敷異抄講録下□□□用」とある。⑤(内表紙)「□←(消えている) 築地輪番書上写」、(内題)なし、(形態)漢写、(筆写)慶福寺(築地輪番)(書写)、(年月日)安永5中年8月28日(書写)。⑥(内表紙)「宿 私高倉学寮 三講師資名録 全」、(内題)「三講師名資録」、(形態)漢写、(筆写)不明、(年月日)不明(嘉永2年に降)
寛政11年2月17日より26日まで	—	—	■	—	第一目録	宗大 1169	(丁数) 76 (内題) ①「二月十七日 願應寺御教論之覚」、②「同十八日 綱講主教論之覚 皆往院師」、③「同十九日 講師深廣教論之覚」、④「同廿日 深廣師教論之覚」、⑤「同廿三日 講師教論之覚 廿一日廿二日休日」、⑥「廿四日 深廣教論之記」、⑦「廿廿五日 深廣師教論之覚」、⑧「同日 後座宣明綱講教論之記 円乘院師」、⑨「廿六日 綱講宣明綱講教論之記」(奥書)右此書者寛政十二年庚申二月廿七日ヨリ永福寺深廣/師正行寺鳳嶺師 圓正寺宣明師 御門主様之御命ヲ掌御教論成下サル候趣書記者也/右末丁暫ク不足ナリ ※以下、後也の解釈あるが省略。(表紙裏)「寛政十二年申二月/講師 香月院深劬 永福寺/綱講 皆往院鳳嶺 正行寺/同 円乘院宣明 圓正寺」

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
75	三帖和讃	(題箋) 「浄土和讃」 「高僧和讃」 「正像末和讃」	—	片刊	香月院深脇 (校訂)	—	—	3	皇都書肆 西村九郎石 衛門
76	阿弥陀経講義	「□(亀カ) 湖講師於越後 高田説 阿弥陀経講義 完」 ※備考参照	「佛説阿弥陀経講義」	片写	香月院深脇 (講)	未詳	—	1	—
77	御文一帖目第八通講義	「御文一帖目第八通講義 全」	「乙丑秋御殿講記」	片写	香月院深脇 (講説)	□(蔵カ) 海	—	1	—
78	御文四帖目第十四通一流 安心講義	「一流安心御文聞書 香 月院述 全」	「御文聞書」	片写	香月院深脇 (講述)	未詳	—	1	—
79	香月院引籠中記	「文化八年 香月院引籠 中記 全」	—	片写	香月院深脇	未詳	—	1	—
80	羽州異安心公巖御札	「羽州異安心御札明 並 御教説」(上、中、下)	「羽州異安心御札明 卷 之一」 (上巻)	片写	香月院深脇	未詳	3	3	—
81	一念多念証文記	「香月院 一念多念証文 記」 (上・中・下)	「一念多念証文記上巻 香月院講師説」 (上巻)	片写	香月院深脇 (説)	未詳	3	3	—
82	香月院皆往院安心書	(題箋)「香月院 皆往院 兩講師安心書」	(見聞)「四〇四 住田智 見献本」(墨書)「印施」 (朱印)/「兩大講師安心書」 「尾張國/大谷派/福田寺」 (朱印) ※備考参照	片刊	香月院深脇	—	—	1	専念寺什物 (蔵版カ)
83	真宗祈願決撰鈔 ほか	「二種深信心得之次第」 「二種深信皆栗院書上」 「加州安心評論教諭写」 「加州安心講講者書上」 「越後御裁判御書写」 「真宗祈願決撰鈔」 「築地輪番(應證寺)書上」 「高倉学寮講師資名録」	※備考参照	※備考参照	香月院深脇 皆往院 (述) ※備考参照	—	—	1	—
84	願應寺御教諭	(題箋)「願應寺御教諭 完」	※備考参照	片写	香月院深脇	未詳	—	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
万延1	—	—	□	「平安 四方春翠西園」とある。	第一目録	宗大 1170	(丁数) 上34、中48、下39
明治42年5月(書写)	明治35年5月4日(書写)	26.1・19.3	■	—	第一目録	宗大 1218	(丁数) 6 (冒頭)「私案スルニ、此書ハ百年前三葉騒動ノ時、公儀ノ寺社奉行脇坂淡路守ノ需ニ應シ答申セラレタルモノナルベシ、此篇僅カニ五葉ニ過キズト虽モ熟讀セハ宗義ニ於テ大ニ得ル所アルベキナリ、古写本ニ依リテ之ヲ写ス云爾 明治三十五年寅五月四日、蓬戸山房主記」(奥書)①「高倉学寮 「〇」(朱) 深励譚云 「言乎」(朱) 脇坂淡路守殿」②「本書ハ在田智見氏ノ藏本ヨリ轉写セラレル者也 明治四十二年五月 真宗大進南生版」
享和元年夏(講)	—	25.7・18.4	■※前2冊のみ	全54会	第一目録	宗大 1285	(丁数) -59、-271、-371、-474、-577、-683、-786、-897、-9106
未詳	—	—	□※但し修正あり	第10会まで	第一目録	宗大 1362	(丁数) 57 (朱印)「森含章」
未詳	—	23.6・16.6	□※但し修正あり	—	第一目録	宗大 1531	(丁数) -122、-2126、-3120、-4107、-5118、-699
巳己記・文化6年	庚午記・文化7年	23.5・16.6	□	庚午記は巳己記の続講	第一目録	宗大 1544	(丁数) 巳己-103、-2122、-3112、-4122、-596、-6101 庚午-117、-2124、-3135、-4133、-5117、-6118
未詳	—	24.4・16.9	■	—	第一目録	宗大 1545	(丁数) 119 (朱印)「近松家藏印」・「前懸光寺」
文化3年7月19日～同26日(書写)	文化2年夏(講筵)	23.4・16.8	□	—	第一目録	宗大 1550	(丁数) -92、-288、-390、-488、-596、-668、-769、(奥書)「右一巻ハ初ヨリ五十會マテハ恵公ノ記ヲモテ写シ其後ハ海師ノ記ヲモテ写シ己ル誠ニ喜フニテヘリ維時文化三丙寅七月十九日ヨリ同廿六日ニ至ルマテ写シ畢 釈義論 三十歳」
文化元年夏(高倉講堂)	—	22.9・16.4	■	文化元年講、五十四会	第一目録	宗大 1662	(丁数) -65、-272、-368、-468、-572、-665、-762、-863、-949 (朱印)「高倉学寮藏書印」、「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」
未詳	—	23.3・16.4	■	25会講	第一目録	宗大 1677	(丁数) -50、-246、-347、-441、-554、-641 (朱印)「高倉学寮」、「真宗大学寮」、「真宗大谷大学」
明治三庚午12月26日(写) ※浄土21会に「五月十二日」 ※高僧初会に「四月十五日開演」	明治24年8月(納本)	23.7・16.6	■	修正あり	第一目録	宗大 1695	随時書写日が異なる。 (丁数)-92、-299、-398、-4111、-583、-675、-7113、-898、-976、-107、-1171、-1274、-1376、-1475、-1586 (朱印)「明治貳拾四年八月ノ尾洲 加藤法城納本」、「真宗大学寮」、「真宗大谷大学」、「精〇院藏」 筆は極めて粗い。
文化十年臘月14～23日	文化11年6月7日～20日	22.8・16.6	□	—	第一目録	宗大 1773	(丁数) -33、-242、-347、-449 (朱印)「真宗大学寮」、「真宗大谷大学」、「明治貳拾四年八月ノ尾洲加藤法城納本」 巻二(奥書)「紺 文化十亥酉年 於加州山代専光寺 親教和上講説臘月十四日開筵同廿三日 講了席數十席聽徒九十餘人」、巻三(内題)「教行信證大意開書ニ文化十一甲戌晚夏七月日開筵」、巻四「昔文化十一甲戌於加州山中ニ壽徑寺并燈明寺善和上香月院師講斯書自六月七日至廿日席數十會聽徒總計七十三人」
未詳	—	23.8・16.6	■	貼紙あり 朱筆にて文字の修正	第一目録	宗大 1786	(丁数) 136 (朱印) 3点
未詳	—	24.0・16.6	□	—	第一目録	宗大 1796	(丁数) 62 (朱印)「真宗大学寮」、「真宗大谷大学」
文化7年5月中旬(写)	—	—	■	—	第一目録	宗大 1851	(丁数) 58 (奥書)「平時文化七庚午年五月中旬写之者也 攝州豆塚西願寺住 大恵藏君」



id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
85	功德大宝海	(題箋)「假名法談 功德大宝海」(上・中・下)	「講師香月院法話 功德大宝海 平安城 九書房合梓」	カナ刊	香月院深勵(講) 清水□□(識)	—	3	3	京都府平民法政館 西村七兵衛
86	三業歸命五失	(題箋)「三業歸命五失 意業歸命三相違 香月院完」	「三業歸命五失 意業歸命三相違 香月院深厲撰」	片写	香月院深勵	蓬戸山房主(明治35年)、真宗大進南生版(明治42年)	—	1	—
87	安樂集講義	(題箋)「安樂集講義 香月院」(一〜九止)	「安樂集講義卷一 享和元年辛酉夏 香月院講師述」	片写	(香月院深勵)	未詳	9	9	—
88	御文一帖目初通或人云章考	(題箋)「或人曰御文考」	「或人曰御文考 香月院講師講」	片写	香月院深勵(講説)	森含章	—	1	—
89	無量寿経講義	(題箋)「香月院 口述 大經講録」(一〜六)	「大無量寿経講義 卷一 亀淵和上説」	片写	香月院深勵(口述)	未詳	6	6	—
90	観無量寿経講録	(題箋)①「観經已記」(一〜六) ②「観經庚午記」(一〜六)	①「観經已記卷第一」 ②「観經庚午記卷第一 亀淵和上説」	片写	香月院深勵(講)	未詳	已記6卷、庚午記6卷	12	—
91	念佛往生願講義	(題箋)「念佛往生願講義 香月院述」	「念佛往生願講義」、「得講念佛往生願十門分別」、「開講姪七月八月」	片写	香月院深勵(講)	未詳	—	1	—
92	阿弥陀経乙丑録	(題箋)「小経乙丑記」(一〜七)	「佛説阿弥陀経乙丑講義一/亀淵和上説 文化二年孟夏中旬第五日開筵」	片写	香月院深勵(講)	釈 義論	7	7	—
93	浄土文類聚鈔講録	「亀淵講師説 畧文類講録」(一〜九大尾)	「浄土文類聚鈔聞記卷一/文化元年甲子夏於京高倉講堂/亀淵講師説」	片写	香月院深勵(講述)	未詳	—	9	—
94	入出二門偈講録	—	「入出二門偈講義卷之一 香月院深勵講師述」	片写	香月院深勵(講)	未詳	6	6	—
95	三帖和讃聞書	①「浄土和讃深義聴香録」(一〜六) ②「高僧和讃深義聴香録」(一〜五) ③「正像末和讃深義聴香録」(一〜四)	①「浄土和讃聞書卷一 香月院師説」 ②「高僧和讃聞書卷一 夏初會四月十五日開演去夏續講」	片写	香月院深勵(口述)	加藤法城	浄土一6、高僧一5、正像末一4	15	—
96	教行信証大意講義	(題箋)「教行信証大意聞書」(第一〜第四大尾)	「教行信証大意聞書 文化十癸酉臘月十四日開筵 親教和上説」	片写	(香月院深勵) ※親教和上	加藤法城	—	4	—
97	夏御文講義	(題箋)「香月院述 夏御文講義 全」 「初通」(朱筆)	「夏御文講義 香月院講師深勵述」	片写	香月院深勵(口述)	未詳	—	1	—
98	御文一帖目初通講義	(題箋)「香月院師述 御文壹帖初通 辨 全」	「御文一帖目初通 香月院師説」	片写	香月院深勵(説)	未詳	—	1	—
99	御文五帖目第五通信心獲得章講義	—	「信心獲得章聴記 香月院述」	片写	香月院深勵(述)	摂州豆塚西願寺大恵	—	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
寛政11年9月 下旬カ	—	23.8・16.2	□	—	第一目録	宗大 1976	(丁数) 5 (朱印)「真宗大学寮」、「真宗大谷大学」、「惠秀蔵印」
寛政6年(於 高倉寮)	寛政11年9月 下旬	23.8・16.3	■	—	第一目録	宗大 1976	(丁数)32 (朱印)「真宗大学寮」、「真宗大谷大学」、「惠秀蔵印」 (奥書)「右者永臨講主寛政六年於高倉寮講弁有之其傳説之盛傳耳焉 寛政十一巳未稔九月下旬書之河陽釋氏惠秀(花押)」
未詳	—	23.3・15.7	■	—	第一目録	宗大 1979	(丁数) 58 (朱印)「真宗大学寮」、「真宗大谷大学」
			□	欠本	第一目録	宗大 2287	欠本
※備考参照	—	22.0・15.4	■	—	第一目録	宗大 2288	(外題、題箋(内題も同))①「観經序文義講義(一〜五)」 ②「観經定善義講義(二〜五)※一巻欠本」③「観經散高義講義(一〜四)」④「観經玄義分講義(三〜六)※一、二巻欠本」(成立年月日)①明治29年11月1日(印刷)、明治29年11月10日(発行)、②明治30年10月25日(印刷)、明治30年11月5日(発行)、③明治30年4月1日(印刷)、明治30年4月10日(発行)、④明治26年7月5日(印刷)、明治26年7月15日(発行) (丁数)①-76、②-63、③-49、④-52、⑤-58、⑥-81、⑦-59、⑧-457、⑨-56、⑩-60、⑪-62、⑫-58、⑬-456、⑭-362、⑮-455、⑯-69、⑰-69 (朱印)「真宗大学寮」、「真宗大谷大学」
明治30年10月 25日	—	23.3・16.3	■	—	第一目録	宗大 2299	(丁数) 90、297、377、473、5101、693
(鳴鐘)享和3 年5月26日、 (山門)寛政13 年正月	明治12年6月 22日(良潤)、 明治38年7月 (武藤)	24.5・16.6	■	大門再興と関 連(天明8年 度)	第一目録	宗大 2516	(丁数)鳴鐘2、大門2(朱印)「真宗大学寮」(奥書)鳴鐘「右者侍得於崇徳寺正流寮司所藏之本而加之写者也 良潤」、大門「寛政十三庚申正月 講師侍者義天 予幼若ノ時聞於斯亦未得之慮頼有傳寫之友來告予不壞欣喜勿々書高之竟矣 昔明治十二年六月廿二日午前六時 蜂屋良潤誌 明治三十八年七月於大學寮 武藤俊又寫之」
宝暦3	—	—	□	欠本	第一目録	宗大 2572	欠本
文化6年夏 (述)	—	23.9・15.8	■	—	第一目録	宗大 2772	(丁数) 57 (朱印)「真宗大谷大学図書」 (見開き)「観經講說序文引文 全」
—	—	24.6・16.8	□	貼紙あり	第一目録	宗大 2781	(丁数) 55 (朱印)「真宗大谷大学図書」(見開)「無名本 全」
大正4 ※確認 できず。	—	30.5・22.8	□	—	第一目録	宗大 2812	(丁数) 76、133、133 (朱印)「真宗大谷大学図書」(見開)「垂天結社簿」
—	—	—	■	—	第一目録	宗大 2925	(丁数) 52 (朱印)「真宗大谷大学図書」、「□中堂之印」 茶沼大悟は大津善正寺。
文化9 壬申年 2月2・3日 (述)	—	25.0・17.8	□	草稿カ	第一目録	宗大 2943	(丁数) 87 (朱印)「真宗大谷大学図書」(内題添書)「文化壬申年二月二日豊後国久留米ノ法連寺門徒定八行年三十六歳伊之助四十一歳ニヨ四十四歳ニヨ三十八歳ヨコノ四人ノ方々」 木山焼失にともなう再建のための化簿、四人と深励のやりとり。巻末に「文政九曆春三月津軽弘前ヨリオエン持参之由ノ能代オミニ方ヨリ相違ス」などとあり。
未詳	—	22.8・16.6	□	岡崎御坊にお ける法話	第一目録	宗大 3167	(丁数) 上24、下32 (朱印)「真宗大谷大学図書」
文化5 ※確認 できず。	—	26.0・18.3	□	—	第一目録	宗大 3177	(丁数) 一57、二56、三55、四58、五57、六60、七62 (朱印)「真宗大谷大学図書」
寛政13西載正 月8日(写)	—	23.4・16.4	□	—	第一目録	宗大 3202	(丁数) 47 (朱印)「真宗大谷大学図書」 (奥書)「寛政十三年西載正月八日 江羽郡東高田 立門寺 焔然 光裕 釈臺山 写之」
文化7年(述)	—	24.0・17.4	■	—	第一目録	宗大 3204	(丁数) 27 (朱印)「真宗大谷大学図書」 (見開き)「向昌講解之引文哉難知ノ殊一枚宛離散セシマ綴集可推見ノ即現寺」

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
100	言南無者引証	「香月院説 言南無者隨聞記 全」	「善導言南無者釋引証」	片写 (合綴)	香月院深勵 (説)	(恵秀 ♪)	—	1	—
101	言南無者隨聞記	「香月院説 言南無者隨聞記 全」	(前半)「善導御釋隨聞記」	片写 (合綴)	香月院深勵 (口述)	河陽釋恵 秀 (花押)	—	1	—
102	御文四帖目第十三通講義	(題箋)「香月院述 御文四帖目第十三通聞記 全」	「御文四帖目十三秋去春 去聞記 香月院講師説」	片写	香月院深勵 (説)	未詳	—	1	—
103	入出二門偈講義	—	—	片刊	香月院深勵	—	6	6	—
104	觀經四帖疏講義	※備考参照	※備考参照	片刊	香月院深勵 (述) 占部親順嗣 講師(聞)	柳原文二 (訂正) ※但し、 玄義分は 柳原芳雄 (訂正)	—	17全 20冊 のうち 3冊欠 本)	京都書林 護法館 西 村九郎右衛 門
105	浄土論註講述	(題箋)「浄土論註講述」 (一～六)	「浄土論註上巻講述卷一 香月院深勵講師述 占部親順嗣講校閱 後藤 海安訂正」	片刊	香月院深勵 (述) 占部親順嗣 講(校閱)	後藤海安 (訂正)	6	6	京都書林 護法館 西 村九郎右衛 門
106	鳴鐘數考	(題箋)「鳴鐘數考 全」	「鳴鐘數考」 「大門關上三尊印相之事」	片写	香月院深勵 (口説) 講師侍者義 天	蜂屋良潤、 武藤俊又	—	1	—
107	往生論註講義	—	—	片写	香月院深勵	—	—	—	—
108	觀無量寿經講説序文引文考	(題箋)「觀無量寿經講説 序文引文考」	「觀經引文考」	漢写、 片写	香月院深勵 (述)	(茶沼)大 悟(大津 善正寺)	—	1	—
109	御文二帖目第三通神明三 箇条講義	(題箋)「御文神明三ヶ條 講義 香月院」	—	片写	香月院深勵 (述)	未詳	—	1	—
110	垂天結社簿(香月院社中 名簿)	(題箋)「垂天結社簿」	—	漢写	—	未詳	—	3	—
111	安樂集引文考	(題箋)「安樂集引文考」	「安樂集講義引文 亀州御講師考 開講」	漢写、 片写	香月院深勵 (述)	茶沼大悟 (註)	—	1	—
112	香月院師豊後回安心示 談	(題箋)「香月院講師 豊 後園回安心御調」	「豊後園回行人御調へ 香月院講師御法話」	片写	香月院深勵 (述)	未詳	—	1	—
113	無尽法藏集	(題箋)「無尽法藏集 香 月院述 上」ほか	「無尽法藏集上」ほか	片写	香月院深勵 (述)	未詳	上下2	2	—
114	正像末和讃講義	—	「正像末和讃講義卷一」ほ か	片写	香月院深勵 (述)	未詳	7	7	—
115	御文四帖目講義	(題箋)「四帖目御文講義 全」	「四帖目 夫真宗念佛行 者 初通 香月院師述」	片写	香月院深勵 (述)	(江 劭 香 郡東高田 立門寺) 粹然 光 裕 釈臺 山	—	1	—
116	觀無量寿經庚午夏引文	「觀無量寿經庚午夏引文」	「觀經庚午夏引文 亀洲 講師集」	漢写	即現寺 香月院深勵 (述 ♪)	未詳	—	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の書書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
未詳	—	27.0・19.2	■	—	第一目録	宗大 3234	(丁数) 4 (朱印)「真宗大谷大学図書」 高倉大学寮青色紙紙 学寮の講者連名で本山家老中へ差出し、家老中より江戸輪番へ、江戸輪番より公儀へ差出した書面の写しである旨と、年代比定(文化3年7月～同8年2月まで)が記されている。
寛政11年霜月朔日(述)	享和2壬戌仲秋(書写)	23.7・17.0	■	—	第二目録	宗大 3577	(丁数)69 (朱印)「堅田藏図書之印」、「空白」(黒印)「寄贈十五年七月廿三日安田力」(見開き)「第一帖初通御文講説完」(奥書)「維寛政十一年霜月朔日於京兆高倉講堂開筵講師龜洲説右 享和二壬戌仲秋書写干湖東坂田郡南小邑 釋子栗懸」
未詳	—	24.6・—	■	—	第二目録	宗大 3580	(丁数) 93 (朱印)「大谷文庫」、「大谷大学図書」(黒印)「寄贈十五年七月廿三日安田力」(見開き)「自問自答御文録 龜洲講師説」
天保第4癸巳捻上無月2日(写終)	—	22.6・15.6	□	—	第二目録	宗大 3625	(丁数) 53 (朱印)「越後刈羽郡井岡願淨寺渡邊法瑞藏」 (奥書)「干時天保第四癸巳捻上無月二日写終 北勢保々(あ) 庄小牧郡圓覚寺覺音(花押)」
享保2壬戌年6月29日～7月8日(述)	—	23.8・15.3	■	講師寮における法話	第二目録	宗大 3648	(丁数) 60 (朱印)「越後刈羽郡井岡願淨寺渡邊法瑞藏」
未詳	—	17.3・24.9	■	—	第二目録	宗大 3662	(丁数)一68、二64、三53、四71、五71、六59、七57、八49 (朱印)「園林文庫」
寛政11年春3日(述)	寛政11年巳未初冬(刊)	27.4・19.1	□	—	第二目録	宗大 3671	(丁数) 浄土71、高僧65、正像末75 (朱印)「園林文庫」 高僧和讃の表紙裏に「コノ一冊ハ莊嚴光院様青年侍者ノ手篋ヨリ出ルノ零本ナリ他ニ一組ノ本アルヘキナリ」と貼紙あり(奥書)「寛政11年巳未初冬梓行 東六條下珠敷屋町皇都書肆 西村九郎右衛門」
文政6年夏	文政6年9月(講述)	23.4・16.4	□	京兆東六条下珠敷屋町閑昌寺 永臨寺香月院師講述	第二目録	宗大 3770	(奥書)「文化第六巳巳曆九月於京兆東六条下珠敷屋町閑昌寺 永臨寺香月院師講述也 維時文政六未夏 若嘉見山ヨリ臨写蓮光寺了堅白」
享和2壬戌秋8月3日(或いは4日)～9月24日(講説)	※備考参照	22.7・16.6	■	貼紙あり	第二目録	宗大 3784	(年月日)(數卷)享和2年11月14日(書写)、文化11年戊9月6日(書写の書写)・(行巻)享和3年2月～文化元年6月5日(書写)、文化12年8月～文化14年4月28日(書写の書写) 何冊かに奥書、裏表紙への書き込みあり。
文化2年8月2日(講)	明治26年2月13日(写了) ※備考参照	24.2・15.8	□	文化2年8月2日、進枝長濱屋敷における講述の写	第二目録	宗大 3788	(書写年月日)①(奥)「明治廿五年五月十六日聞写」、②(頭)「五月十九日午後四時起筆」、(奥)「明治廿五年五月廿九日起筆六月廿一日聞筆」、③(頭)「明治廿五年六月廿一日起筆」、(奥)「廿五年九月ノ廿一日夜写了」、④(奥)「己上從八月二日至臘月終一講了 干時明治廿六年二月十三日夜三更聞筆 苾苾 堀江了(※△×損 檢カ) 拜写 香月院講主 享和三年至文化二年講教行信 三文類寛説卷以下三文類聞書不知何人説然於宗 學知其富今也 併為六卷聞書大全也 明治廿八年十月一日 七十三翁慶了誌」
文政2年列11月(写)	—	23.4・—	□	—	第二目録	宗大 3802	(丁数) 21
寛政11年3月(誌)	寛政11年巳未初冬	27.5・19.0	■(湖西海洋蓮光寺による)	—	第二目録	宗大 3811	(丁数) 一70、二66、三70
文化8年5月上旬	明治18年7月21日	22.5・16.2	■	—	第二目録	宗大 3817	(丁数)一120、二113、三108、四89 (書写)①「文化八辛未歳五月上旬写之 蓮光寺 穂道 釋氏」(朱印)「了堅」(朱印) 慈父了堅師所書寫也 慶了記 ③「明治十八年七月廿一日 洪水中 閉扉書院 杜多 堀江了」
天保8年中秋2日(述)	—	24.1・16.6	■	尾陽長島福恩寺における講義	第二目録	宗大 3827	(丁数) 25 (内表紙)「丁酉天保八中秋二日於尾陽長島福恩精舍 二帖目第九通佛心凡心一体義 全」

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
117	当宗祈願之事	「当宗祈願之事」	「当宗祈願ノ事」	片写	香月院深勸 (講師)・開 正寺、皆往 院、五乘院 (以上同講)	未詳	—	1	—
118	御文一帖目初通講義	「深勸師 一帖目初通 御文講説 完」	「壹帖目第一通御文」	片写	香月院深勸 (述)	乘懸(湖 東坂田郡 南小足邑 極性寺)	—	1	—
119	御文一帖目第四通自問自 答講義	(題箋)「自問自答御文録 一卷」	「□□一通光月院演日記」	片写	香月院深勸 (述)	未詳	—	1	—
120	御文五帖目聖人一流程聞 記	(題箋)「香月院師 聖人 一流御文聞記 全」	「聖人一流御文聞記」	片写	香月院深勸 (説)	覚音(北 勢保々 (s)住小 牧郡開覚 寺)	—	1	—
121	香月院・円乗院公巖対話	(題箋)「講師香月院 圓 講圓乗院 公巖対話 第 一第二第四第五之四席」	—	片写	—	未詳	—	1	—
122	愚禿鈔隨聞記	—	「愚禿鈔隨聞記第一」など	片写	香月院深勸 (述)	未詳	8	8	—
123	三帖和讃	(題箋)「浄土和讃」ほか	—	片刊	香月院深勸 (校)	—	3	3	西村九郎右 衛門(西村 空華堂・丁 子屋)
124	興御書講義	(貼紙)「語」	香月院講述	片写	香月院深勸 (述)	蓮光寺了 堅	—	1	—
125	教行信証、教・行巻聞書	「教巻聞書一」ほか	「教行信証文類會讀記」ほ か	片写	香月院深勸 (説)	慶海(若 州末弟) →了堅 (蓮光寺)	—	10	—
126	教行信証、信巻講義	「□(貼紙) 聞書共四冊 「四 信巻第二」 「四 信巻第三」 「四 信巻第四」 (全て朱筆)」	「廣文類信巻記第一 深勸講師文化式乙丑八月 二日於御連枝長濱屋敷 開講」ほか	片写	香月院深勸 (述)	慶了	4	4	—
127	愚禿鈔講義二河秘書	(題箋)「愚禿鈔講義」 (二河秘書)	「愚禿鈔講義二河 復書 香月院講之」	片写	香月院深勸 (述)	未詳	—	1	—
128	三帖和讃	—	—	片刊	香月院深勸 (校)	—	3	3	東六條下珠 敷屋町 皇 都書肆 西 村九郎右衛 門
129	浄土和讃講録	「浄土和讃講録」 (一一四)	「巻頭二首之和讃 永臨大和上講説 筆記」	片写	香月院深勸 (述)	堀江了核 <sup>(177)</sup>	—	4	—
130	御文二帖目九通仏凡一体 講義	(題箋)「御文佛凡一体講 義」	「佛心凡心一体義隨聞記」	片写	香月院深勸 (述々)	静照	—	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
享和3年7月1日～10日(講述)	※備考参照	23.2・16.9	■	享和3年7月1日～10日、講堂における講を同年9月上旬に慶海在京中に写したもの	第二目録	宗大 3834	(丁数) 36 ①享和3年9月上旬(写) 一若州慶海(46才) ②文化6年巳巳6月10日(写) 一蓮光寺種道(東琳)
文化5年孟夏上旬(写) 江州海津一蓮光寺	—	—	■	—	第二目録	宗大 3839	(丁数) 68 (表紙ウラ)「私云 當流安心之玉巻也 能々可熟讀者也 講師 金津永念(臨)寺 講辨」
文化10西6月上旬前後2日(写了)	—	22.4・15.5	□	—	第二目録	宗大 3874	(丁数) 20
文化6巳巳正月8日(小兒往生章、書写)	文化六年2月3日(三講師御教諭卷之記、書写)	23.1・16.5	■	—	第二目録	宗大 3913	(丁数) ①26、②5 「三講師御教諭卷之記」「小兒往生章」に奥書あり。
未詳	—	23.5・16.2	□	—	第二目録	宗大 4020	(丁数) 42 (朱印)「寄贈昭和四年四月廿三日 井上智月」
未詳	—	24.2・17.2	■	—	第二目録	宗大 4114	(丁数) 48 (見開き)「即現時祐□(雲々)持 御文一帖目七通已下講説引文 危洲師」
明治21年11月10日(出版)	—	22.2・15.4	□	—	第二目録	宗大 4208	(丁数) 一93、二86、三68、四71、五48 (朱印)「真宗大谷大学図書」、「真宗東京中学之印」 真宗東京中学図書部所蔵 (序) 明治16年夏安居日 龍温 明治21年9月 細川千巖
明治21年11月11日(出版)	—	22.4・15.5	■	—	第二目録	宗大 4234	(丁数) 一179、二187 (朱印)「真宗大学寮蔵書」、「真宗大学図書」 (序) 明治16年夏安居日 龍温 明治21年10月 細川千巖
文化2乙丑年4月15日(英講)	—	23.4・15.9	□	文化二年安居講	第二目録	宗大 4285	(丁数) 一51、二68、三99、四46、五71、六94 (朱印)「真宗大学図書」、「真宗大学寮蔵書」、「明治貳拾四年八月尾洲加藤法城納本」
文化5戊辰年4月15日(下巻、開演)	—	22.6・15.4	■	下巻は、高倉大講堂にて講義	第二目録	宗大 4289	(丁数) 上一63、二60、三85、四89、五117、六93、七84、下一65、二77、三79、四71、五76、六73 (朱印)「録事課蔵書之印」、「真宗大学図書」、「真宗大学寮蔵書」 本願寺野紙、上全7冊、下全6冊
明治24年8月(納本)	—	24.0・15.8	■	—	第二目録	宗大 4290	(丁数) 上177、中173、下202 (朱印)「清涼院蔵」、「明治貳拾四年八月尾洲加藤法城納本」、「真宗大学寮蔵書」、「真宗大谷大学図書」、「清涼院之釋氏法城印」 明治24年8月、尾洲加藤法城により納本されたもの。伝本過程は未詳。
未詳	—	22.8・15.6	□	—	第二目録	宗大 4301	(丁数) 一65、二59、三59、四55、五54 (朱印)「録事課蔵書印」、「真宗大谷大学図書」、「真宗大学寮蔵印」
享和3年7月29日～(開講)	—	23.6・16.7	■	—	第二目録	宗大 4330	(丁数) 教一132、二119、一行一88、二64、三111、四119、五89、六87、七61、八104、九100、十106、十一102、信未一89、二100、三103、四96、五107、六96、七100、八97、九97、十79、十一78 信未一107、二111、三104、四88、五109 (朱印) 真宗大谷大学図書、真宗大学寮蔵書(書写者) 高耕勇哲(教一、二、行一、二、十、十一。信未一～三)、多田海善(行三、四、八、九)、天基玄映(行五～七、信未四、五)→その他は明記なし。教一の表紙ウラに「本書ハ享和三年七月廿九日下問宅ニテ開講」とあり。

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
131	御文五帖目初通末代無智講義	(題箋)「末代天智 聴記」	「末代無智御文筆記」香月院師説(吳筆)	片写	香月院深勸(述)	慶海東琳	—	1	—
132	御文五帖目第五通講義	(題箋)「信心獲得御文聞書 全」	「信心獲得御文聞書 撰教和上龟洲師説 釋淨法記釋本了傳写」	片写	香月院深勸(述)	①淨松(記) ②本了(傳写)	—	1	—
133	改悔文聞記	(題箋)「改悔文講義 全」	「改悔文聞記」	片写	香月院深勸(述)	了堅(蓮光寺) ※23歳	—	1	—
134	御教論法話	—	「三講師御教論卷之記 小兒往生章」	片写	香月院深勸(説) ほか	穩道(三講師御教論卷之記) 實成(小兒往生章)	—	1	—
135	改悔文講義	「香月院 改悔文講義」	「改悔文講義」	片写	香月院深勸(述)	未詳	—	1	—
136	御文一帖目第七通以下講義	(題箋)「御文一帖目七通以下講説引文」	「引文」	片写	香月院深勸(説)	未詳	—	1	—
137	浄土文類聚鈔講義	(題箋)「香月院深勸講師著述 浄土文類聚鈔講義一宮地義天嗣講師校閱」ほか	「浄土文類聚鈔講義卷一」ほか	片刊	香月院深勸(述)	宮地義天(校閱)、 香月深恵(著述者相統人)、 松内上衍(校訂)	10	5	西村九郎右衛門(護法館)
138	浄土文類聚鈔講義	(題箋)「香月院深勸講師著述 浄土文類聚鈔講義一宮地義天嗣講師校閱」ほか	「浄土文類聚鈔講義一」ほか	片刊	香月院深勸(述)	宮地義天(校閱)、 松内上衍(校訂)	10	2	西村九郎右衛門(護法館)
139	阿彌陀經乙丑録	(題箋)「阿彌陀經筆記 壹」ほか	「佛説阿彌陀經講説第一」ほか	片写	香月院深勸(説)	能澄(湖西正徳寺八世) → 抹消	6	6	—
140	浄土論註聴記	「香月院講述 往生論註聴記 上之巻貳」ほか	「浄土往生論註録卷之一」ほか	片写	香月院深勸(述)	未詳	13	13	—
141	浄土論註講義	—	「浄土論註上巻講義一 香月院深勸講師述」	片写	香月院深勸(述)	未詳	3	3	—
142	観経疏序分義講義	(題箋)「観経序分義講義(巻之壹～五)」	「観経序分義講義卷之一 香月院深勸講師述」	片写	香月院深勸(述)	未詳	5	5	—
143	教行信証講義(教・行・信ノ巻)	—	「廣文類経巻記之一」ほか	片写	香月院深勸(述)	高橋勇哲、 多田海善、 天竺玄映 ※備考参照	29	29	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
明治24年8月 (納本)	—	20.2・14.3	■	—	第二目録	宗大 4348	(丁数)一110、二105 (朱印)「清涼院藏」、「明治貳拾四年八月尾洲加藤法城納本」、「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」、「清涼院之釋氏法城印」
未詳	—	22.2・14.9	□	—	第二目録	宗大 4349	(丁数)一57、二54、三55、四49、五62、六48 (朱印)「教事課口張所」、「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」
享和3年7月1日(開鑑)	文政7年閏8月(写)	—	■	—	第二目録	宗大 4378	(丁数)62 (朱印)「教事課藏書印」、「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」 (奥書)「維文政七年申歲閏八月 寓京 高倉学寮 龍温廿五才」
享和元辛酉年2月(述)	明治21年3月21日、5月21日(書写の書写)	23.3・16.1	■	—	第二目録	宗大 4391	(丁数)69 (朱印)「清涼院藏」、「明治貳拾四年八月尾洲加藤法城納本」、「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」(奥書)「享和元辛酉年二月尾洲和尚於越中富山講 宝林寺輪旭 明治廿有一龍集戊子五月廿一日書写之於京都府下京區第二十八組妙法院前御町十六番戸伊丹氏南窓下竟 尾張愛知四女子 水陽堂主人 年六立加(朱印) 明治第十歲次丁丑十一月八日 光徳院釋譽忍居士 太陽曆十二月十二日 明治第十五歲合壬午 九月十九日陽曆十月三十日 清閑院釋頂然慈爺 前半と後半異筆々。前半は宝林寺輪旭筆々。
明治24年4月24日(写)	—	23.6・16.3	■	—	第二目録	宗大 4401	(丁数)65 (朱印)「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」(奥書)「此原本ハ古部一等学館補ノ所藏ニズ世ニ稀レナル珍書也 明治廿四年四月廿四日夜騰寫之畢 名古屋市 片岡誠藏」
文化3丙寅7月18日~10月中旬(述) ※全体か部分的にか注意	—	24.3・16.8	■	貼紙有り	第二目録	宗大 4403	(丁数)教一47、二40、行一65、二57、三47、四53、五58、六83、信一41、二33、三55、四53、五52、六41、七67、八64、九50、十79、十一93、科48 (朱印)「明治貳拾四年八月尾洲加藤法城納本」、「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」(教一の表紙ウラ)「此會講本ハ文化三丙寅七月十八日ヨリ京師高倉通長演辰敷ニ於テ香月院講師ノ讀マレタルモノナリ 而シテ開書ヨリハ少々撮畧セリ」とあり。(見開き)「顕浄土眞實教文類記巻一」(教一)ほか (行六奥書)「文化三丙寅初秋中旬第七日開鑑京兆高倉長濱族於藤於仲冬中旬第一日法席七十有九也」
明治31年夏(購入)	—	22.9・16.0	■	貼紙有り	第二目録	宗大 4420	(丁数)一69、二67、三67、四69、五61、六68、七63、八71、九67、十67、十一67、十二64 (朱印)「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」(一冊目表紙ウラ)「明治三十一年夏購入ノ大学寮藏本」(十二冊目表紙ウラ)「大学寮藏本」
未詳	—	23.5・16.0	■	—	第二目録	宗大 4473	(丁数)47 (朱印)「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」
享和元辛酉年4月中旬第5日~6月29日(講、1~5冊)	享和元酉年4月15日(発講、6冊目)	24.6・16.8	■	享和元年安居講	第二目録	宗大 4482	(丁数)一42、二54、三54、四46、五58、六47 (朱印)「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」ほか それぞれに見開き部分や奥書として花押や録印あり。
文化5年辰6月下旬(書写)	—	23.4・17.0	□	—	第二目録	宗大 4541	(丁数)一81、二65、三68、四67 (朱印)「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」、「口法口之藏書」(巻四奥書)「文化四年冬從井口円長寺借用 文化五年辰六月下旬書之榮寛」
未詳	—	—	□	—	第二目録	宗大 4553	享和二年十一月一日より十八日に至る八席および再御料二席
享和2年11月1日~18日(講)	明治2年11月(書写)	① 26.7・17.4 ② 23.9・17.0	□	—	第二目録	宗大 4553	享和二年十一月一日より十八日に至る八席 (丁数)一52、二21 (朱印)「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」、「甲斐國仙光寺杉平了英献本」、「甲州山梨郡等々力村仙光寺藏書之記」(2冊目奥書)「明治二己十一月写之者也」



id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
144	入出二門偈頌講録	「入出二門偈頌」 (巻之一～二)	「入出二門偈講義一 香月院深勵講師述」	片写	香月院深勵(述)	尾州 加藤法城	—	2	—
145	入出二門偈頌講録	(題箋)「入出二門偈 香月院」(一～六)	「入出二門偈講義巻之一 香月院深勵講師述」	片写	香月院深勵(述)	未詳	—	6	—
146	御文五帖目初通末代無智章講義	—	「末代无智章聴記」・「末代无智御文聴記」(享和三亥亥七月朔日開筵)	片写	香月院深勵(述)	龍温(25才)	—	1	—
147	歎異抄講義	(題箋)「歎異抄聴記 完」	「歎異抄」	片写	香月院深勵(述)	輪旭(宝林寺)、加藤法城(尾張愛知四女子水陽堂主)	—	1	—
148	改悔文聞記	(題箋)「香月院師述 改悔文聞記 完」	「改悔文聞記 香月院深勵大講師述」	片写	香月院深勵(述)	名古屋市片岡説誠	—	1	—
149	教行信証講義(教行信巻)	「廣木教巻記巻一」ほか	「顯浄土眞實教文類記巻一」ほか	片写	香月院深勵(述)	松堂汎然(筆受)	20	20	—
150	安楽集講義	—	「安楽集講義巻一」ほか	片写	香月院深勵(述)	未詳	12	12	—
151	御文四帖目第十四通一流安心講義	(題箋)「香月院述 一流安心御文聞書 全」	「御文聞書」	片写	香月院深勵(説)	未詳	—	1	—
152	安楽集講義	(貼紙)「香月院述 安楽集随聞録 一」ほか	「安楽集随聞録第一(注か)、安楽集引文」	片写	香月院深勵(説)	恵秀(河州阿弥陀寺、聴記、1～5冊目)、恵吟(聴記、6冊目)	6	6	—
153	正像末和讃講義	(朱筆)「香月院 正像末」(一冊目のみ)	「正像末和讃記巻之一」ほか	片写	香月院深勵(説)	榮寛	4	4	—
154	羽州異安心公巖御札	—	—	片写	香月院門乘院(講者)	未詳	3	3	—
155	羽州公巖御札	「御札 羽州公巖 一二三四五席(題箋)」 「公巖御札教誡辨 初七八ノ武席ニテ完結」	「御札第一席」ほか	片写	香月院門乘院(講者)	未詳	—	2	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
文化7年庚午2月4日(御教誠説)、12月7日～17日(年未詳、羽州、説)	文化9年中(書写)	24.3・17.3	■	—	第二目録	宗大 4555	(丁数)67 (朱印)「真宗大学寮書」、「真宗大谷大学図書」、「甲斐國仙光寺杉平了英献本」、「甲州山梨郡等々力村仙光寺藏書之記」(奥書)「已上時文化九中歳書写之者也 八雲山真(々)光寺恵□(教々) □□」
寛政11巳未初冬(梓行)	寛政11年3月(説)/明治34年4月(接合)	浄土 27.9・19.2 高・正 27.3・19.2	■	高倉学寮における講義	第二目録	宗大 4719	帙入り (丁数)浄71、高65、正70 (朱印)浄:「園林文庫」高・正:「真宗大学寮藏書」、「高倉学寮藏書之印」ほか 淨巻の凡例の前に朱筆あり「以下三帖慈敬寺實執筆之以本四聲相付畢 元本に四声□無之者以□印酒之相違有者以来墨附之印本=同者ハ其儘用之」
寛政11年春3月	寛政11年巳未初冬(刊)	26.9・18.8	■	—	第二目録	宗大 4720	(丁数)浄土70、高僧66、正像本75 (朱印)「真宗大学寮藏書」、「真宗大谷大学図書」、「教事課藏書印」西村空舉堂藏版目録あり(正像末和讃巻)
万延1庚申閏3月	—	22.2・15.4	□	—	第二目録	宗大 4776	(丁数)上35、中48、下40 (書肆)平安城 九書房合梓(見開き)「講師香月院法話 功德大寶海 平安城 九書房合梓」序文があり、その奥に「安政第十六未初冬 平安 清水英斎識」とあり。
※備考参照	—	23.6・16.4	■	見消、訂正、貼り紙等	第二目録	宗大 4956	享和二年十二月七日より十七日に至る十五席(丁数)四54、五53、六53 (朱印)「真宗大学寮藏書」(対話年月日)第一席11月朔日、=11月3日、三6日、四8日、五11日、六13日、七15日、八18日、兩席12月2日3日(再御札)3冊が帙に入っている。 年代は3冊目に公藏が書いた請書の日付が「享和二壬戌年十二月三日」とあり享和2年以降。(帙外題)「公藏御札」
文化8年	—	24.0・16.0	□	—	第二目録	宗大 4972	(丁数)55 (朱印)「真宗大学寮藏書」(内容)文化8年3月29日:大谷御廟御参之節尾州御門使直誦之写など。
寛政12庚申年 ※備考参照	—	24.0・16.6	□	内題の日付を鉛筆書きで訂正	第二目録	宗大 4973	(丁数)51 (朱印)「真宗大学寮藏書」(講述年月日、講述者)香月院深励:17、19、20、23～25日、正行寺胤嶺:18日、開正寺宣明:25、26日(全て寛政12庚申歳2月)
※備考参照	—	26.4・18.8	■	欄外書き込み、見消、句点等	第二目録	宗大 4994	(丁数)―83、279、3103、四113、五68、六78、七76 (朱印)「真宗大学寮藏書」(講述年月日・場所)1冊目:享和三癸亥秋八月・黒書院。4冊目:文化三年乙丑秋閏八月廿五日・黒書院(総講)。6冊目:文明(化カ)四年丁卯冬十月十八日・高倉長濱館開筵 釈達央記。
寛政5年9月8日	—	24.8・16.8	■	帖敷、本文上段書込、貼紙	第三目録	宗大 5152	(丁数)100 (奥書)「寛政五年癸丑九月八日 開筆於播州郡府本總寺北殿」
寛政9歳丁巳4月	—	27.2・20.2	□	—	第三目録	宗大 5271	(丁数)上之本96、上之末156、下之本119、下之末91(黒印)「雲羅家藏書記」 (内題下)―(上之本)他三冊も同じ「寛政九歳丁巳四月十五日於學寮講堂 越前金津永臨寺亀州深勵講師説」 ※下之本のみ題箋なし。※雲烟□□の印あり。
未詳	—	23.7・16.8	■	朱ではないが、墨で頭註あり。	第三目録	宗大 5308	(丁数)31 (見開き)「宿」(朱筆)「香月院」(朱筆) 无間地獄問文筆記 全」(奥書)「=帖目无間地獄筆記」虫食い跡を修復した箇所あり。但、その箇所にも虫食い有り。
未詳	—	24.6・16.8	■	朱筆で頭註あり。人名を朱で見消	第三目録	宗大 5322	(丁数)57 (奥書)「兩御文紙數五十七終 香月院述」
—	—	—	□	欠本	第三目録	宗大 5322	欠本
文化7庚午年4月26日	—	25.2・17.3	■	朱は訂正跡々	第三目録	宗大 5337	(丁数)19 (朱印)「堂籠」、「□隆開」、「□(慶々)徃榮□」、「釋□□(慶々)徃」
享和2壬戌年 ※備考参照	—	23.8・16.8	□	—	第三目録	宗大 5344	(丁数)150 (朱印)「大通寺藏書」(帙の背、題箋)高倉御学寮講師察法話(シール、活字)(日付)6月29日、7月1日、3日、5日8日、10日、12日 帙入り

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
156	尾州五僧御教誡	(題箋)「尾州五ヶ寺御教誡 亀洲師」	「亀州深勸御教誡 文化七年庚午御亂筆記 (下略) 羽州異安心御教誡第壹」	片写	香月院深勸 (説)	未詳	—	1	—
157	三帖和讃	(題箋)「坊刊葉子 浄土和讃」ほか	—	片刊	香月院深勸 (校)	—	3	3	西村九郎右衛門
158	三帖和讃	(題箋)「坊刊葉子 浄土和讃」ほか (貼り紙)「検査用」	—	片刊	香月院深勸 (校)	—	3	3	西村九郎右衛門
159	功德大宝海	(題箋)「假名法談 功德大宝海上」ほか中、下あり	—	平刊	香月院深勸	—	3	3	御書物所 丁子七兵衛 (版)
160	羽州異安心公巖及講者對話	「公巖御亂 第四」ほか	「享和二年十一月朔日 第一席」ほか	片写	香月院・円 乗院(講者)	未詳	3	3	—
161	文化八年香月院引籠中記	(題箋)「香月院引籠ノ節ノ事書 全」	(見聞き)「香月院引籠ノ節ノ事書」	片写	未詳	未詳	—	1	—
162	願応寺御教諭	「願応寺御教諭 全」	「願応寺御教諭 寛政十二庚申歳 二月二十七日」	片写	香月院鳳嶺 宣明(講者)	未詳	—	1	—
163	御文自一帖目初通至二帖目三通講義	「香月院御文講義一帖目第一通 一」ほか	「御文聞書 享和三癸亥秋八月於黒書院御前講」ほか	片写	香月院深勸 (述)	未詳	6	7	—
164	選擇集通津録	「選擇集通津録 上下合一巻」	「選擇集通津録 巻上 越州深廣述」	片写	香月院深勸 (述)	未詳	2	1	—
165	正信念仏偈講義	(題箋)「正信偈講義 共四巻 上之本」ほか上之本、下之本、下之本	「正信偈講義 上之本」(ほか上之本、下之本、下之本)	片写	香月院深勸 (述)	神田山主 頼雄	—	4	—
166	御文二帖目第二通無間地獄筆記	(題箋)「御文二帖目第二通無間地獄筆記 深勸」	「二帖目无間地獄筆記 越前亀州講師述」	片写	香月院深勸 (述)	未詳	—	1	—
167	御文五帖目第七通講義	(題箋)「夫女人身御文白骨御文 講義」	「五帖目第七夫人ノ身ノ御文ト称ス」(1丁目)、「白骨ノ御文」(20丁目)	片写	香月院深勸 (述)	未詳	—	1	—
168	御文五帖目第十六通講義	—	—	—	香月院深勸	—	—	—	—
169	御文一帖目第十三通芳軌	「法花堂 一帖十三通十却秘亦 御文芳軌 全」 「御文一帖十三通 深廣大和師 北越 胎藏」	片写	香月院深勸	未詳	未詳	1	—	—
170	羽州異安心公巖及講者對話	(候題箋)「羽州異安心公巖及講者對話 (高倉御学寮講師察法話) (シール、活字)」 (題箋)「羽州異安心公巖及講者對話 (高倉御学寮講師察法話) (シール、活字)」	「享和二年壬戌年六月廿九日 於高倉御学寮講師察法話」	片写	香月院深勸 円乗院(問)	公巖(答)	—	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
(明治22年)	—	24.2・17.0	■	—	第三目録	宗大 5363	(丁数) 60
享和3年(講了)	—	23.4・16.8	■	見酒、訂正	第三目録	宗大 5522	(丁数) 上巻-68、二126、三90、四75、五119、六83、七120、下巻-67、二121、三115 (奥書) 上巻「享和三壬戌大経上巻初ヨリ順文マテ講 享和三癸亥 上巻 三誓偈ヨリ下巻ノ終マテ講 大和上香月院深励師説 [ ] [ ] 」下巻「大和上香月院深励師説 釋正観記 享和第三癸亥六月廿六日講了」
(文化6年夏)、文化7年4月15日～(開講)	—	23.5・16.1	■	—	第三目録	宗大 5523	(丁数) 一117、二94、三128、四93、五58、六151、七91、八126、九90
文化2年夏	—	23.6・16.6	■	—	第三目録	宗大 5526	(丁数) 一142、二146、三142、四119、五122、六147 (奥書)「大阪 正行寺」(見セ酒)
明治3年庚午仲秋(写)	文化丁卯(1807年・文化四年、五年)(述)	23.8・16.8	■	明治29年8月、圓純がこれを閲覧した旨の朱筆あり	第三目録	宗大 5532	(丁数) 一99、二109、三100、四113、五100、六108、七92、八96、九98、十98 (奥書)「右二夏講説於高倉学寮高之竟蓋 是ノ佛祖加祐所致渴仰思満胸感涙而泣衣目柳隨喜之涙而於茲止筆 明治三庚午仲秋 寮司建輔」(朱筆)「右香月院講師論註筆記ノ壹部給帖建輔寮司之所ノ藏書也然予懇請而譲受ノ之畢 明治廿七年二月 釋圓純」
享和元辛酉四月十五日～六月二十六日	—	23.0・16.4	□	—	第三目録	宗大 5536	享和1年講。 (丁数) 上73、中67、下78
文久3年癸亥春(写)	—	27.9・20.2	□	—	第三目録	宗大 5556	(丁数) 上61、下75 (朱印)「赤松之印」 上巻:「從 玄談ノ至必死滅度願成就」下巻:「從如來所以興出也ノ至唯可信斯高僧説」
明治21年季夏(写)	寛政九丁巳夏四月十五日開鑑	24.0・15.9	■	—	第三目録	宗大 5557	(丁数) 406 (朱印) 内題下にあり。 (奥書)「明治貳拾壹季夏令書写畢 赤松圓純藏」 異筆にて「全部筆写岩瀬電柱」
明治26年11月(圓純一覽)	文化元年夏講	24.1・16.6	■	—	第三目録	宗大 5558	(丁数) 上213、下204 (奥書)「明治廿六年十一月經一覽畢 釋圓純藏書」(下巻末) 「釋圓純藏書」(上巻末)
寛政11年4月16日(開鑑)	明治30年5月(圓純購入)	22.7・16.3	■	—	第三目録	宗大 5567	(丁数) 一65、二63、三83、四95、五98 (奥書)「浄土和讃筆記古本一部五巻於京都護法館講焉 明治三十年五月 釋圓純」(五巻末に朱筆にて) (朱印)「北丹波 下平屋 西乘寺」
明治30年5月(圓純購入)	寛政10年庚申夏4月15日ヨリ(開鑑)	23.2・16.3	□	西重寺旧蔵→赤松圓純旧蔵	第三目録	宗大 5569	寛政10年講。 (丁数) 一82、二61、三71、四70、五66 (朱印)「僧伽圓純」、「安八郡ノ北方村ノ西重寺」 (奥書、朱筆)「高僧和讃筆記古写本一部五巻於京都護法館購入 明治三十年五月 釋圓純」
文政5年8月9日(写)	文化11年4月5日(開鑑)	23.6・16.8	□	—	第三目録	宗大 5577	(丁数) 上83、下68 朱印あり。 扉に「明治卅年五月改表制スル者也」
文化5年5月上旬	明治戊戌年(圓純購入)	23.6・16.7	■	—	第三目録	宗大 5582	(丁数) 62 (朱印)「僧伽圓純」 (書写者)(若州妙玄寺主□淨)→丹州平屋教誓蘭若情海
享和3年癸亥	—	23.3・16.4	■	赤松圓純旧蔵	第三目録	宗大 5602	(丁数) 69 (朱印)「僧伽圓純」
明治38年8月(圓純購入)	—	24.6・17.5	■	—	第三目録	宗大 5617	(丁数)10 (奥書、朱筆)「明治卅八年八月購於五條書肆ノ法林館焉ノ赤松圓純」 表紙に「中山寺所持」とあり。

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
171	御文一帖目第三通撰漁講義	《題後》「御文壹帖目第三通《撰漁》講義」	「一帖目第三通録 香月院述」	片写	香月院深勵(述)	未詳	—	1	—
172	無量寿経記	「大経上巻 第一」ほか	「大経講記 香月院深勵大和上説 享和二壬戌歌夏講」ほか	片写	香月院深勵(講説)	未詳	2	10	—
173	観無量寿経聴記	「観経記 前記一二 序文」「観経後期一 □宗分日観」	「観無量寿圣聴記巻一／龟洲和上説」「観圣統講聴記巻之一／初會文化七庚午夏／四月十五日開講」	片写	香月院深勵(述)	未詳	16	9	—
174	阿弥陀経聞記	「弥陀経聞記一」	「佛説阿弥陀経聞記巻一文化二丑年夏講 初會香月院和上説」	片写	香月院深勵(説)	大阪正行寺カ)	6	6	—
175	浄土論註講義	「論註講義一」	「浄土論註講義上之一文化丁卯夏講 香月院講師述」	片写	香月院深勵(述)	寮可建幢	10	10	—
176	安樂集聞書	「安樂集聞書 中 「淨圓□□」(朱印) 兼上巻は外題なし」	「龟洲大講主説 三河了願記 安樂集聞記上 享和元年西四月十五日」(上巻)	片写	香月院深勵(述)	三河了願(記)	3	3	—
177	正信念仏偈聞記	「正信念仏偈聞記 上」	「正信念仏偈聞記 龟洲講師説」	片写	香月院深勵(説)	善象	2	2	—
178	正信念仏偈筆記	「正信念仏偈聞記 完 香月院師述」	「正信偈筆記巻第一 寛政九丁巳夏四月十五日開筵 香月院講師述」	片写	香月院深勵(述)	未詳	1	1	—
179	浄土文類聚鈔聞記	「文類聚鈔講義 上」	「浄土文類聚鈔聞記巻壹 文化元年夏講 第一會講師香月院」	片写	香月院深勵(講)	未詳	7	2	—
180	浄土和讃講義	「浄土和讃講義一」	「浄土和讃 寛政己未記 四月十六日開筵 永臨講師口授」	片写	香月院深勵(口授)	未詳	5	5	—
181	高僧和讃聞記	「高僧和讃聞記一」	「高僧和讃 龟洲講師説 於高倉学寮／開筵 寛政十庚申夏 四月十五日／高僧和讃 愚禿釋親密作」	片写	香月院深勵(説)	未詳	5	5	—
182	一念多念證文聞書(一多證文講判)	「香月院師述 一多證文講判 上」(下巻は「香月院師」)	「一念多念 証文聞書 乾／文化十一甲戌夏四月念五日已親開筵 龟洲和上説」	片写	香月院深勵	志樂院寛英	2	2	—
183	歌異鈔筆記	「歌異鈔講義 完」	「歌異鈔筆記 龜彦大講師説」	片写	香月院深勵(説)	丹州平屋教賢衛若情海(兼備考参照)	—	1	—
184	御文五帖目初通講義	「香月院講師 御文五帖目初通講説」	「末代无智御文講義 香月院講師述〈享和三年癸亥／於高倉学寮〉」	片写	香月院深勵(述)	未詳	—	1	—
185	小墨田歌解	「小墨田歌解 祖師聖人高詠歌一首 越前国金津永臨寺香月院深勵講師解釈 全」	「小墨田歌解」	平写	香月院深勵	未詳	1	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
※備考参照	—	27.9・20.0	□	神戸政吉旧蔵	第三目録	宗大 5667	(丁数) 上54、下54の計108 (朱印) 「佐藤氏/□□□」(年月日) ①文化2丑年2月3日より同16日至今(名古屋御坊講述)、②文化10西暮冬(北国): ①②両講の間書→③嘉永2酉年3月(校舎・写、竹内)、④萬延元年5月(佐藤謹書)
享和2年4月15日(説)	—	23.6・16.4	■	—	第三目録	宗大 5671	(丁数) -56、二48、三59、四31、五31、六41、七51、八36、九61 (奥書) 第二冊「壬戌秋八月以法海寮司之本写終焉悦深励藏之上云有奥書。」
文化元甲子季七月初日(開講)	—	23.7・16.6	■	三冊目末に科文あり	第三目録	宗大 5745	(丁数) -51、二61、三56 (朱印) 「釋印惠教」ほか。 (奥書) 「和州南京法華郡見光寺釈惠教書写之干時書見之時聴録考研究可為肝要也。」
明治45年4月20日(刊)	講年未詳	22.1・15.5	■	本多昭相旧蔵本	第三目録	宗大 5747	(丁数) 末: -49、二45、三49、末: 四42、五55、六40 (朱印) 「専福」
文政11年9月上旬(玄興寺、写)	文政9年初春中旬(了親写)	24.0・17.3	■	—	第三目録	宗大 5869	(丁数) 36 (朱印) 内題右側に「玄興寺」、奥書下に蔵書印と花押印あり。
寛政12(講義畢)	—	23.5・16.5	□	第一冊欠	第三目録	宗大 5931	第一冊欠。(丁数) 二82、三70、四68、五66、六71、七80 (朱印) 「高倉学寮蔵書□□」
未詳	—	23.4・16.1	■	—	第三目録	宗大 5952	(丁数) 93 扉に「山口、朱筆にて「東京□□底本真大本」と書込みあり。
未詳	—	24.1・15.8	□	「夏御文」と「末代无智御文」(香月院述)の抜書(スミ付4丁)	第三目録	宗大 5986	五帖目第二通開義記所収。法海振講師述/御文五帖目第二通開義記に合綴されるもの: ①自問自答御文、鳳嶺師説ノヌキ書。②夏御文、月院師説ノヌキ書。③末代无智御文、月院師説ノヌキ書。④御文丈綱、皆遵院師説ノヌキ書。⑤御文記事珠、皆遵院師説ノヌキ書。(丁数) 義記80、①8、②2、③2、④4、⑤21
未詳	—	24.5・16.5	□	—	第三目録	宗大 5987	御文一帖目第九通講義所収 (丁数) 5 (朱印) 内題下に「釈智監印」ほか。
文化5年1月16日~20日(深励講)	—	24.5・16.5	■	—	第三目録	宗大 5987	御文一帖目第九通講義所収 (丁数) 35 1丁裏(「御文一帖目第九通講義 徳母院良庵述」内題下側)「筆記智監 神爽蔵書」。同所に「神爽牧野」の印あり。
文化元年霜月(講師寮において)	文化13年春(写)	—	□	—	第三目録	宗大 5993	牧野爽蔵書 (丁数) 50
文政5癸午年三月中旬(写)	—	24.0・15.9	■	—	第三目録	宗大 5993	託願寺運城=牧野神爽の号、のも雲龍と改める。 (丁数) 43 ※196、197の二つが合綴。
明治4年11月中旬(写)(高倉旧学寮にて)	—	25.4・17.0	□	「末代无智御文講説」	第三目録	宗大 5994	(丁数) 深励述部分24
文化5年4月15日(深励述)	—	23.9・17.1	■	—	第三目録	宗大 6033	(丁数) -100、二98、三119、四101、五87
未詳	—	24.0・15.9	□	講義臨写と清書本が合綴。牧野神爽旧蔵本	第三目録	宗大 6049	(丁数) 123丁 (朱印) 「牧野爽」

真宗総合研究所研究紀要 第24号

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
186	正信偈講談	—	「香月院亀洲深劔大講師述 正信偈講談 上」 (下あり 合綴)	平写	香月院深劔 (述)	(竹内修敬) 一佐藤秀實	2	1	—
187	大無量寿経聞記	—	「大无早寿聖聞記一上 享和二年壬戌四月十五日 於学寮兌ノ光(マ)月 院永臨講師述」	片写	香月院深劔 (述)	未詳	4	9	—
188	一枚起請文聴録 (一枚起請文聞記とも)	(題箋)「一枚起請文聞記 上」 (中・下あり)	「一枚起請文聴録ノ文化 元甲子季七月朔日開講ノ 大講主ノ越前永臨寺亀洲 深劔講師於御学室演説」	片写	香月院深劔 (説)	和州南京 法華寺郷 見光寺恵教	3	3	—
189	入出二門偈講義	(鉄題箋)「入出二門講義」 (題箋)「入出二門偈講義 本」(末あり)	「入出二門偈講義巻之一ノ 香月院深劔講師述ノ 廣隆ノ榮嗣講師聞ノ豊満 春酒校訂」	版本	香月院深劔 (講述)	—	6	2	京・丁字屋 書店蔵版 (護法館蔵)
190	香月院安心問答	「香月院様 伊之助 於 エミ 勇之助 定八 於エン 友治郎江 御話」	「越前永臨寺亀州香月院 御講師江筑后国回ノ行六 人安心御請申上候趣申上 ルニ付御答聞書写」	片写	香月院深劔 (御話)	(願栄寺了親) 一 玄興寺	1	1	—
191	高僧和讃講義	—	「高僧和讃講義二」	片写	香月院深劔	未詳	6	6	—
192	御文四帖目第十三通聞記	「香月院述 御文四帖目第十三通聞記 全」	「御文四帖目十三秋去春 去聞記 香月院講師説」	片写	香月院深劔 (説)	未詳	1	1	—
193	御文之梯	「法海撰講師述 御文五帖目第二通聞義 記」	「御文之梯 神爽蔵」	片写	香月院深劔 (説)	牧野神爽 (編)	—	1	—
194	御文一帖目第十二通講義	「御文一帖目第十二通講義 香月院深劔述」	「年来超勝寺御文 亀洲 師述」	片写	香月院深劔 (述)	釈 智雲	1	1	—
195	御文二帖目第三通神明三ヶ条講義	「御文二帖目第三通神明三ヶ条講義 香月院深劔述」	「神明三ヶ条聞記ノ文化 第五辰年正月十六日ヨリ 同廿日迄於自坊ノ香月院 深劔師講之者也」	片写	香月院深劔 (述)	釈 智雲	1	1	—
196	御文一帖目第七通講義	「香月院深劔師述 御文一帖目第七通弥生半 章講義 〃(御文)四帖目第十四 通講義」	「香月院述 御文弥生登山」越前金津 永臨寺深劔亀洲講師述」	片写	香月院深劔 (述)	願因寺理 静	—	1	—
197	御文四帖目第十四通一流 安心章講義	「香月院深劔師述 御文一帖目第七通弥生半 章講義 〃(御文)四帖目第十四 通講義」	「香月院述ノ一流安心御 文記」一流安心御文 記ノ開發之里託願寺住ノ 亀洲講師述 運城幼亨」	片写	香月院深劔	開發之里 託願寺住 運城※備 考参照	—	1	—
198	御文五帖目第一通末代無 智章講説抜粹	「御文四帖目第二通定命 章講記徹聴師述 合綴 五ノ章 末代無智 章講説抜粹 五ノ十 聖人一流量聞記 恵藏師述 御文明燈鈔第一 冊抜書」	「末代無智(總計九座)香 月院師講説ノスキカキノ御 文明燈鈔一、二第一冊(玄 談至自問自答章)ノスキカ キ 神爽龍王」	片写	香月院深劔 (述)	牧野神爽 (抜粹)	—	1	—
199	浄土論注巻下講義	—	「浄土論注 下巻一ノ文化 第五戌辰四月十五日高 倉講堂發講ノ香月院 亀 洲講師述」	片写	香月院深劔 (述)	未詳	3	5	—
200	観無量寿経講説	「香月院師説 観無量寿経講説」	「観無量寿経月院師講説 (初) 〃亀洲師講説成利遺書」	片写	香月院深劔 (述)	二男成利 等※二男 とは牧野 神爽の二 男の意か	1	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
未詳	—	24.3*16.3	□	講義臨写・清書の合綴。 牧野神爽旧蔵	第三目録	宗大 6053	観無量寿経講義と合綴（丁数）玄談3、大経宗政15、観経講義（清書）13、観経講義（臨写）32+47（黒印）「牧野爽」
文化6年夏（深励説）	—	23.6*16.5	■	—	第三目録	宗大 6071	観無量寿経玄談所収（丁数）19丁
明治21年11月10日（出版）	—	22.4*15.5	□	—	第三目録	宗大 6078	（丁数）一40、二53、三45、四41、五68、六71、七48
弘化2年3月（書写）	—	23.1*17.5	□	—	第三目録	宗大 6140	（丁数）上73、下61
文政4年9月下旬（書写）	—	25.9*17.3	□	牧野神爽旧蔵 慶応3年に調巻	第三目録	宗大 6149	（朱印）「牧野爽」（丁数）73（書写者）「越州吉田 託頼精舎沙門釈智堂」
明治21年11月10日（出版）	—	22.0*15.4	■	—	第三目録	宗大 6173	（丁数）一175、二187
未詳	—	23.4*16.1	■	書込は合点	第三目録	宗大 6183	（丁数）天71、地65、人72
文政2年9月（書写）	—	24.2*17.1	□	第八会より取録	第三目録	宗大 6226	（丁数）113（朱印）「神爽之印」（書込み）内題下に「亡祖父智霊師、写録ナリ」（奥書）「文政二年己卯秋九月中旬 書写之 釋智霊」
嘉永元年12月	—	24.6*17.6	□	—	第三目録	宗大 6256	（丁数）31
文政10丁亥年閏6月（書写）	—	25.0*17.5	■	書込は合点	第三目録	宗大 6276	（丁数）11
明治24年中秋（写終）	—	23.4*16.3	□	—	第三目録	宗大 6277	文化4年夏安居講。第五冊欠。 （丁数）一96、二103、三105、四103
（文化4年）	明治24年初稿（書写）	24.3*16.5	□	—	第三目録	宗大 6278	一冊目（1席～18席）欠本。 （丁数）二123、三144 二冊目（19席～36席）と三冊目（37席～55席）は書写形態が異なる。二冊目の書写年が明治24年かどうかは不明。
明治30年4月10日（発行）	—	22.5*15.6	□	宗大6173と同板（扉、奥付は異）	第三目録	宗大 6280	（丁数）一175（一36、二53、三45、四41）、二187（五42、六26、七45、八26、九24、十24）
明治45年7月10日（第4冊発行）	大正元年10月5日（第6冊発行）	22.3*15.6	□	—	第三目録	宗大 6309	（丁数）二74丁、三78丁、四74丁、五45丁、六51丁 第1冊欠本
未詳	—	22.8*16.4	■	—	第三目録	宗大 6327	（丁数）一106、二78、三67、四99、五67、六110、七70、八124、九62、十113、十一43、十二48、十三42、十四30、十五27、十六62、十七135、十八130、十九120 法話など多数写し。
未詳	—	23.5*17.5	■	—	第三目録	宗大 6433	（丁数）上57、下71
明治28年12月17日（第一冊発行）	—	22.1*14.9	□	—	第三目録	宗大 6615	一116、二116、三150、四100、五112、六122、七116、八105、九109、十130、十一121、十二133、十三149、十四101
未詳	—	24.5*17.2	■	墨書による頭注、削除などの書込	香月院文庫目録	宗大 6842	（丁数）71（朱印）「永臨寺蔵」「香月院文庫」（書込みなど）内題の下に「香月山藏書」の書込み。表紙に「六上」「自筆」の付箋貼付。



id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
201	無量寿経講義(玄談之部) 観無量寿経講義	「無量寿経講義(玄談之部) 観無量寿経講義」	「大観月院師玄談」 「大観宗政」 「観無量寿経講義」	片写	香月院深励 (述)	未詳	—	1	—
202	観無量寿経已巳夏講引文	「観経 玄譚 述要 引文」	「観経已巳夏引文 龟洲 講師説」	漢写	香月院深励 (述)	智秀	1	1	—
203	浄土文類聚鈔講義	「香月院深励講師著述 浄土文類聚鈔講義一 宮地義天嗣講師校閱」	「浄土文類聚鈔講義卷一 香月院深励講師述 松内 上衍校訂/宮地義天嗣講 師聞」	漢写	香月院深励 (述)	未詳	10	7	京・西村九 郎右衛門
204	正像末和讃講	(題簽)「正像末和讃講」 (上・下)	「越州深励正像末和讃隨 筆」(上・下)	片写	香月院深励 (述)	未詳	2	2	—
205	興御書講記	「興御書記 神爽 香月 院講師述」	「深励師講判 興御書講 記 全」	片写	香月院深励 (述)	智雲	1	1	—
206	浄土文類聚鈔講義	「香月院深励講師著述 浄土文類聚鈔講義一 宮地義天嗣講師校閱」	「浄土文類聚鈔講義卷 一/香月院深励講師述/ 宮地義天嗣講師聞/松内 上衍校訂」	版	香月院深励 (述)	—	10	2	京・丁字屋 書店
207	浄土論註巻下記	「往生論註下記 香月院 師」(天・地・人)	「浄土論註讀講記巻一 深励講師述」	片写	香月院深励 (述)	未詳	3	3	—
208	御一代記聞書講説(未完)	「御一代記聞書 香月院 講説」	「御一代聞書」	片写	香月院深励 (講説)	智雲	1	1	—
209	本願成就文講録	「念佛往生願成就文 香 月院講師述 筑南九瀬慈 辯説」	「本願成就文筆記 香 月院講師述 <嘉永元戊申 大冬十二月 大然寮可再説>」	片写	香月院深励 (述) 大然寮可 (再説)	未詳	1	1	—
210	赤尾道宗二十一ヶ條講録	「赤尾道宗廿一ヶ條講録」	「越中赤尾弥七入道二十 一ヶ條於江州 長濱御坊越前香月院講師 述」	片写	香月院深励 (述)	應星	—	1	—
211	浄土論註講説	「浄土論註講説」 (一一四)	「浄土論註丁卯隨聞記」	片写	香月院深励 (述)	未詳	4	4	—
212	浄土論註巻上講義	「浄土論註巻上講義」 (二・三)	「浄土論註 二 香月院 第十九」	片写	香月院深励 (述)	未詳	2	2	—
213	浄土文類聚鈔講義	「香月院深励講師著述 浄土文類聚鈔講義一 宮地義天嗣講師校閱」	「浄土文類聚鈔講義卷 一/香月院深励講師述/ 宮地義天嗣講師聞/松内 上衍校訂」	版	香月院深励 (述)	—	10	2	京・丁字屋 書店
214	安楽集講義	「安楽集講義二 香月院深励講師述 香温院慈影講師校閱」	「安楽集講義巻二/香月 院深励講師述/香温院慈 影講師聞/細川法船訂 正」	版	香月院深励 (述)	—	6	5	京・西村九 郎右衛門
215	東園錦録	—	—	片写 平享 漢版 平版	香月院深励	榎本正保 (善藏) (所藏)	19	19	—
216	御文二帖目初通講義	「御文二帖目初通講義 深励述」	「御文二帖目講義上 香月院深励講師述」	片写	香月院深励 (述)	未詳	1	2	—
217	教行信証講義	「真宗 教行信証講義一」	「順浄土真實教文類一講 義/香月院深励講師説 一等學師小栗栴香頂序并 校閱/一等學師南條文雄 跋文」	版	香月院深励 (説)	福井龍澄 (校閱)	—	14	玉惠堂
218	讃弥陀偈服宗	「讃弥陀偈服宗巻下」	「讃弥陀偈服宗巻下 越州深励述」	片写	香月院深励 (述)	未詳	下	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
未詳	—	23.6*16.3	□	—	香月院文庫目録	宗大 6905	(丁数) 一111、二154、三110、四170 (朱印)「永臨寺藏」、「香月院文庫」(2種)
寛政11年3月 (深励凡例記述)	寛政11年初冬 (梓行)	27.5*19.0	□	—	香月院文庫目録	宗大 6908	文明版の校訂 (丁数)浄土72、高僧66、正像末70 (朱印)「香月院文庫」「雲照寺藏書」「東風」など。(刊記)「寛政十一己未初冬梓行/東六條下珠敷屋町/皇朝書肆 西村九郎右衛門」
寛政6年甲寅 冬閏11月	—	25.0*17.3	□	—	香月院文庫目録	宗大 7000	(丁数) 26 (朱印)「永臨寺藏」、「香月院文庫」 木佛御礼、紙寺号御礼、木佛寺号(当座)、木佛斗、寺号斗、木佛寺号(御所染筆)、木佛、開山1番形、同2番形、同3番形、御代御影など。 寛政辛酉年より30ヶ年御免札金の寛、「右之通御再建=付(云々)」とある。→寛政の再建のあり、末寺門末、本山内外陣に課した礼金の定と思われる。
文化10年6月 29日(深励述)	—	24.9*17.0	■	7冊を「露の珠」として合綴。	香月院文庫目録	宗大 7004	(丁数) 74丁 (朱印)「香月院文庫」 「白蓮寺開闢御法話」 (外題)「白蓮寺一宗開闢御法話/文化拾玖西六月廿九日於白蓮寺/金津大和上説/越前水居吉郎右=門所持」 (内題)「白蓮寺一宗開闢御法話/文化十癸西六月廿九日香月院大講師」深励講述は「白蓮寺開闢御法話」のみ。
寛政4年春	—	24.8*17.5	■	書込は前半部のみ	香月院文庫目録	宗大 7005	①雲臥漫録(夢借合藏、朱印「香月院文庫」、1丁)、②荷澤大師頓宗記(2丁)、③大乘百法明門論(2丁)、④華嚴同別二教開辨(12丁)、⑤得捨達原自序(11丁)、⑥得解此集大分(18丁)/⑦法華遊意引文 完(17丁)、⑧除中古賢録批評(深励識、5丁)、⑨草稿(4丁)、⑩草稿(3丁)、⑪蓮祖五重之義見契録(35丁、寛政2年12月上旬 釋周道)、⑫即得往生義(釋思然語、4丁、元文3年8月8日 律師惠然/同朋ノモトへ)
未詳	—	25.0*17.3	■	華嚴學問外題の横に「曉の空」の付箋が貼付。12巻合綴のうちの第1巻。	香月院文庫目録	宗大 7010	自筆 (丁数) 14 (朱印)「香月院文庫」 「窓の雪」項目 ①華嚴學問、②阿弥陀圣義釋引文ノ内、③請密嚴尊者ノ諡号表、④聖應大師願書、⑤勅書、⑥願源記、⑦雜記十二枚、⑧辨沙羅、⑨華嚴經五十三、⑩五結末代無智御文釈、⑪一念多念證文、⑫往相廻向還相廻向文類
安永2年6月 (日嚴院権僧 正ら願上)	—	25.0*17.3	□	「窓の雪」12巻合綴のうちの第4巻。	香月院文庫目録	宗大 7010	自筆 良忍への大師号勅許を、日嚴院権僧正と権明院権僧正が朝廷に願い上げた願文。(丁数)1 (奥書)「安永二年己六月/廣橋大納言殿/錦小路前大納言殿/大念佛寺兼帯 日嚴院権僧正/淨蓮華院兼帯 権明院権僧正」
元禄3年6月 10日(奉安)	—	25.0*17.3	□	—	香月院文庫目録	宗大 7010	自筆 寛政への諡号の勅許を乞う上表。 (丁数) 2 (奥書)「元禄三年庚午六月十日」
※備考参照	—	25.3*18.0	■	奥に「種々の記録拾四部を集めて」とある。	香月院文庫目録	宗大 7011	自筆 ①文句考(朱印「香月院文庫」、17丁)、 ②鐘銘五章(6丁、寛政7年の銘文と5寺の縁起) ③二僧法語(3丁) ④文如上人御書(写)(9丁、寛政8年2月21日、京上中下冥加講中尼房中へ) ⑤関東御尋之趣=付京都之考案(13丁、マヰキについて) ⑥草稿(3丁) ⑦東国子返シ之一件=付依儀御尋(3丁) ⑧依御尋申上覚(4丁、九月浅草本願寺輪番/徳善寺/法順坊) ⑨五ヶ国子返し御教諭云渡方并演達之儀御尋=付申上ノ覚(10丁) ⑩教行信證御自釋拾遺(18丁、寛政10年4月9日 於京兆客舎) ⑪教行信證引用内外典目録(7丁) ⑫大乘義章章目(10丁) ⑬總經并四帖疏之末註記(5丁)
(天明8年頃)	—	25.5*18.2	□	天明8年以前、天明8年入社之分計41ヶ国、1264名	香月院文庫目録	宗大 7030	国別写、香月院深励社中名簿 (朱印)「香月院文庫」 (丁数) 一88、二53

id	名 称	外 題	内 題	形態	筆 者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
219	浄土文類聚鈔講苑	「香月院講師 畧文類録」 (一～四)	「浄土文類聚鈔講苑卷一 香月院講師説」	片写	香月院深勸 (説)	未詳	4	4	—
220	三帖和讃	「坊刊葉子 浄土和讃」 (二「高僧和讃」、三「正 像末和讃」)	—	版	香月院深勸 (校訂)	—	—	3	京・西村九 郎右衛門
221	大藏經募縁序ほか	①「大藏經募縁 尾州名護屋 御坊」 ②「文政九年戊六月末盛 講」 ③「本山御免物御礼銀定」	①「大藏經募縁序」 ②「定」 ③「本山御免物御禮銀定」	漢版 合綴	香月院深勸	—	—	1	未詳
222	白蓮寺一宗開辟御法話 (露の珠)	「露の珠 時宗血脉譜 越前三門徒法脈全 白蓮寺開闢御法話 白蓮寺改宗ニ付御法話 呈惠存上人答問記 御演説嗣講師 御法話」	「時宗血脉譜」	片写	香月院深勸 (説)	越前水居 吉郎右衛 門(所持) カ	7	1	—
223	除中古醫録批評 (学の園)	「三部合 雲臥漫録 法 相義開稿 外一部欠」 「八部合 法華遊意引文、 報護辨、除中古醫録批評、 自然法尔記、集去談、五 重義見契録、御文傍註、 即得往生義 學の園」	「除中古醫録批評」ほか	片写	香月院深勸 (説)	靈耀	—	1 (合 綴)	—
224	華嚴華偈 (窓の雪)	「華嚴華偈」	—	漢写	香月院深勸	—	1	1	—
225	聖応大師願書 (窓の雪)	「聖應大師願書」	「聖應大師 願書」	漢写	香月院深勸	—	1	1	—
226	請密嚴尊者鑑号表 (窓の雪)	「請密嚴尊者ノ鑑号表」	「請密嚴尊者ノ鑑號 表ノ泊如僧正代。信盛卓 玄ノ二僧正草ス」	漢写	香月院深勸	—	1	1	—
227	法の道	「法の道」	※備考参照	漢写、 片写	香月院深勸 (自筆)ほか ※備考	※備考	—	1	—
228	垂天結社簿	—	(貼紙)「垂天結社簿 國 別写」	漢写	未詳	未詳	—	2	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
文化2年乙丑 秋8月2日 (於・洛陽高倉 高田荘)	—	24.6*16.9	■	—	圓光寺文 庫目録	宗大 7043	(朱印)①「圓光寺舊藏書」、②「御幸町圓光寺藏書之印」 (丁數) 乾154、坤206
文政8年10月 26日(香樹院 演説)	—	23.7*16.9	■	深励関係の ものは巻末に所 取の、深励述 と推定されて いる講録1件 のみ。	圓光寺文 庫目録	宗大 7075	(丁數)97 (朱印)「圓光寺舊藏書」(『残篇類聚』項目)「御 再建ニ就キ七ヶ條目ノ御趣意 演説香樹院 雲解問書」、 「文政八年戊戌十月廿六日於惣會所演説 香樹院」、「文政癸未 中冬十五日之夜御施失後ノ御再建御趣意七箇條 香樹院 述」、「佛光寺御門主之御書」、「□已下ノ古紳悟何人ノ法語 ナルコトシラスノ案スルニ香月院講師ナルヘシ」など (奥書)「洛陽御幸町松原下ノ圓光寺所藏」
未詳	—	24.4*16.8	□	—	圓光寺文 庫目録	宗大 7099	①「四十八願得名之事」、6丁、文久2年壬戌7月24日「於 江戸茂草御坊寫之」、龍温 ②「一百一十人善知識の事」、 3丁、文久3年春2月、(圓來院) ③「五重義科管」、10 丁、鳳嶺 ④「信心獲得御文耳書」、6丁、深励(述)、龍 温 ⑤「聖人和讃」、9丁
寛政9年丁巳 (安居)	—	24.3*18.0	□	ほかに「天保 11年庚子5月 10日、於北越 燕朝閣演香樹 院師」の正信 偏分科が合綴 される。	圓光寺文 庫目録	宗大 7121	寛政九年安居講。 (丁數) 5丁(香月院分科) (總丁數) 11 (朱印)「圓光寺舊藏書」
文化6年己巳 仲秋上流	—	25.2*17.3	□	—	圓光寺文 庫目録	宗大 7125	(丁數) 28 (朱印)「圓光寺舊藏書」
※備考参照	—	24.5*16.3	■	—	圓光寺文 庫目録	宗大 7188	①信行要論、智明擬講、9丁 ②小見往生章、永臨寺講師 (深励)口授、6丁 ③御法話、易行院(法海)、所々に皆 往院、13丁 ④皆往院講師述撰二十五箇条、皆往院、9丁 ⑤皆往院法話、皆往院、18丁 ⑥開悟院法話、開悟院、9 丁 ⑦文化五年霜月廿三日改悔批判教書、香月院深励、5 丁 ⑧易行院法話、易行院、4丁 ⑨開悟院法話、開悟院、 12丁 ⑩皆往院副講師法話、11丁 ⑪香□(樹)院坊守御 教誡、24丁、明治十六年一月八日(写) ⑫香□(樹)院坊 守五戒、5丁 ⑬皆往院法話、10丁 ⑭長崎説教場四月廿 八日講江下附御書写、2丁、明治11年7月8日光勝
未詳	—	25.0*17.0	□	—	圓光寺文 庫目録	宗大 7203	広本略解行巻と合綴。
未詳	—	24.2*17.1	■	書込みは墨書 にて頭注など。	圓光寺文 庫目録	宗大 7239	(丁數) 34 (朱印)「圓光寺舊藏書」
明治10年(写)	文化3年7月 (香月院講述)	—	■	—	圓光寺文 庫目録	宗大 7247	(丁數) 45 (朱印)「圓光寺舊藏書」「御幸町圓光寺藏書之印」 (奥書)「右香月院師康存之日講述論初三軸耳但憾者ノ在此 事矣」内題上に朱筆にて「香月師講述ノ文化丙寅七月ノ トアリ今明治十ノ年丁丑ヲ距ルノト凡七十二年ノ也」
未詳	—	24.4*17.0	■	—	圓光寺文 庫目録	宗大 7267	(丁數) 91 (朱印)「圓光院舊藏書」「御幸町圓光寺藏書之印」
文政13年仲秋 9日(写)	—	24.8*17.2	■	—	圓光寺文 庫目録	宗大 7268	表題:念仏往生願御殿講 (丁數)50 (朱印)「圓光寺舊藏 書」(奥書)「維文政十三龍集庚寅仲秋九日於于北越新斥ノ 即得精舎并寫之 東溪沙門覺雄」(書込み)巻末に朱筆に て「已上十門之中前九門終ノ雲解問」
寛政12年4月 15日(開講)	—	27.4*19.0	■	—	圓光寺文 庫目録	宗大 7312	(丁數)一54、二41、三66、四41、五66、六49 (朱印)「法寶藏 本龍(カ)」「圓光寺舊藏書」、右半分が切 り取られた朱印もあり。

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
229	広文類信巻聞記	「廣本信巻聴記」 (乾・坤)	「廣文類信巻聞記 講師 深勸講師」	片写	香月院深勸 (述)	覚雄(雲 解衆承謹 写)	—	2	—
230	香月院深勸ノ法話聞書類 (残篇類聚)	「残篇類聚 先輩法話類 佛門主ノ御書一篇」	「御再建=就十七ヶ條目 ノ御趣意 演説香樹院 雲解聞書」	片写	香樹院、即 応院、仏光 寺門主、開 悟院、香月 院、長生院	未詳	12	1	—
231	信心獲得御文聞書	「四十八願得名之事」	「信心獲得御文耳書」ほか	片写	香月院深勸 (講)	香山院龍 温(抜替)	—	1	—
232	正信偈分科	—	「正信偈分科」	漢写	香月院深勸 (述)	未詳	—	1	—
233	興御書隨聞記	「興御書聴記 残欠」	「興御書隨聞記」	片写	香月院深勸 (述)	圓成	—	1	—
234	諸講師法話	「花外 諸講師法話 全」	※備考参照	片写	深 勸・法 海・雲龍・ 鳳嶺・智明 (講師)ほか 述	未詳	—	1	—
235	略文類講述分科	—	—	漢写	香山院 香樹院	香山院龍 温ほか	—	1	—
236	二門偈諸先輩分科	「二門偈諸先輩分科 香月院 円乘院 易行院 雲解院 開悟院 鳳千師」	—	漢写	深 勸・宣 明・法海・ 大 含・雲 龍・鳳千	香山院龍 温	1	1	—
237	広文類分科(教巻・行巻・ 信巻)	「廣本科文 未全 龍温 抜出 香月院 教巻 行巻 信巻 三巻分科全備」	「廣文類文科 亀洲深勸 和上講敷」	漢写	香月院深勸	香山院龍 温	1	1	—
238	大経講義統講 巻一	「大経講録 香月院師 續講初巻」	「大経講義統講巻一 香 月院録」	片写	香月院深勸 (録)	未詳	1	1	—
239	十八願御殿講筆記	「念佛往生願御殿講 完 香月院師説」	「十八願御殿講筆記 香 月院師説」	片写	香月院深勸 (説)	覚雄	9	1	—
240	高僧和讃隨聞記	「高僧和讃隨聞記一」	「高僧和讃隨聞庚申記巻 之壹 庚申四月十五日開講 香 月院親教師説」	片写	香月院深勸 (説)	未詳	6	6	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
天保2年辛卯仲秋朔日(再写)	文化3年内寅7月18日/享和3年癸亥乎(高倉長濱荘にて講述)	24.6*16.8	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7324	文化三年講(朱印)「圓光寺舊藏書」、「御幸町圓光寺藏書之印」(丁数)一172、二160
天保10年4月18日(円成再写)	文化5年10月15日(写)	23.7*16.3	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7345	(丁数)40 (朱印)「圓光寺舊藏書」(奥書)「右南越龜淵和上依下問之望於被館被講也/昔文化五戊辰龍次神無月十五日書寫之/于時天保第十己亥四月十八日/右・丹州大輪=借書之畢/洛陽圓成殿明(花押)」
未詳	—	23.5*16.0	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7374	表題:「論註聴記」(朱印)「圓光寺舊藏書」「御幸町圓光寺藏書之印」(丁数)一63、二66、三72、四63、五72、六62、七58、八57、九57、十69
文化2年4月15日より(講)	未詳	23.7*16.3	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7379	(朱印)「圓光寺舊藏書」「御幸町圓光寺藏書之印」(丁数)一45、二55、三本41、三末49、四60、五42、六42、七52
未詳	—	24.0*16.7	□	—	圓光寺文庫目録	宗大 7384	(朱印)「圓光寺舊藏書」など(丁数)一81、二82、三98
明治11年9月(写)	明治15年(龍温が講述)	23.5*16.0	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7386	(朱印)「圓光寺舊藏書」、「御幸町圓光寺藏書之印」(丁数)一57、二66、三56、四62、五55、六56、七53、八54、九52、十66
天保10年2月中旬(写)	—	23.9*16.6	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7457	(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)51(奥書)「于時天保十己亥二月中旬第九日成書写功畢/龍瀨師室(々)瀧了也記」「京御幸/松原 圓光寺藏書」
天保10年12月16日(書写畢)	文化6年(深励講)	23.8*17.2	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7488	(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)152(奥書)「于時天保十己亥十二月十六日成書写功畢/即生□了也護持」
明治13年冬(写)	—	23.7*16.0	□	—	圓光寺文庫目録	宗大 7504	(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)36
天保13年8月(書写)	寛政9年7月(講述)	23.3*17.0	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7514	(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)83
文政7年8月(書写)於高倉学費	享和3年7月(講述)	24.2*16.7	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7586	(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)58
天保4年12月2日(上巻開講)	—	23.8*17.2	■	—	圓光寺文庫目録	宗大 7593	(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)一72、二55、三98
天明(又は寛政)10年4月23日(発講)	—	24.0*16.4	■	下巻欠本	圓光寺文庫目録	宗大 7595	(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)上100、中85
弘化2年9月(写)	—	23.2*16.4	■	附録「化身土巻要談」(2丁)坤巻末所収	圓光寺文庫目録	宗大 7603	(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)乾49、坤57
明治3年庚午(安居伝写)	—	23.5*16.5	□	—	圓光寺文庫目録	宗大 7608	(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)67
未詳	—	—	□	—	圓光寺文庫目録	宗大 7642	表題:御文初聴賜書(朱印)「圓光寺舊藏書」(丁数)100(奥書)「洛陽御幸泰原圓光寺藏」
天保11年4月~9月(再説カ)	—	24.2*18.3	□	—	林山文庫目録	宗大 7867	(朱印)「林山文庫」「林山藏書」(丁数)53

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
241	広本聴記 (教巻・行巻)	「廣本聴記」 〔「教巻 行巻全」、「行巻 自論註三念門尺至巻尾」〕	「廣本教巻聴録 文化三 年内寅七月十八日 享和三年癸亥乎 講主龜洲和上 於高倉長 濱往開羅」	片写	香月院深励 (講)	東溪覚雄 (再写)	—	2	—
242	聖人一流章開書	「聖人一流章開書 完」	「香月院講師述 釈圓成 筆受」	片写	香月院深励 (述)	圓成 (再 写)	1	1	—
243	浄土論註講義	「論註聴記」 (一～十)	「浄土論註上巻講義一 香月院深励講師述」	片写	香月院深励 (述)	未詳	10	10	—
244	仏説阿彌陀経開書	「阿彌陀経開記」 (卷～七)	「佛説阿彌陀経開記卷之 壹/文化二乙丑年四月十 五日發講/越前永臨寺香 月院深励講用説」	片写	香月院深励 (説)	今井宗意 (前写・謄 書)、同男 宗春(后 補)	7	8	今井宗意
245	入出二門偈講義	「入出二門偈講義 壹二 合本」(三四合本、五六合 本)	「入出二門偈講義卷之一 香月院深励講師述」	片写	香月院深励 (述)	未詳	6	3	—
246	浄土論註下巻講義	「論註下聴記」 (一～十)	「浄土論註下巻講義一 香月院深励講師述」	片写	香月院深励 (述)	一等字順 龍温(79 歳)	10	10	—
247	改備文聴記	「改備文聴記 全」	「改備文記 香月院師述」	片写	香月院深励 (述)	了也	1	1	—
248	興御書隋開記	「興御書隋開記 完」	「興御書隋開記 越劔洲大講主述 于時文 化六己巳 仲秋上院」	片写	香月院深励 (述)	了也	1	1	—
249	三帖和讃分科	「三帖和讃分科」	「三帖和讃深励講師科文 香月院師製」	漢写	香月院深励 (作)	香山院龍 温(81歳)	—	1	—
250	念仏往生之願聴記	「念 佛 往 生 願 聴 記 完 圓光寺蔵」	「念佛往生之願聴記/寛 政九辰七月依/殿命於殿 中香月院深励大菩薩普 説」	片写	香月院深励 (講)	維北隠者 釈氏了也	—	1	—
251	末代無智御文聴記	「末代無智章聴記」	「末代無智御文聴記/享 和三癸亥七月朔日開羅 香月院師述」	片写	香月院深励 (述)	香山院龍 温(25歳)	—	1	—
252	愚禿鈔聴記	「愚禿抄聴記 上之上(下 之下) 靈性師講」 「愚禿鈔下巻聴記三 下 巻全備」	「愚禿鈔聴記 禿抄下巻 尽於此巻 香月院師講説」 (第3冊)	片写	開悟院靈 性(上巻)、 香月院深 励(下巻)	香山院龍 温	3	3	—
253	愚禿鈔探弁	「愚禿鈔 巻上」 (巻中)	「愚禿鈔探弁上巻/維時 天明(右に「寛政」と書 込み)第十曆越前永臨寺 深励講師説由於/御影堂 御遣座四月二十三日發 講」	片写	香月院深励 (説)	未詳	2(上・ 中巻)	2	—
254	報恩講式文講義	「報恩講式文親開記」 (乾坤)	「報恩講式文講義巻之一 越州永臨寺述」	片写	香月院深励 (述)	了也	2	2	—
255	神明三箇条御文聴記	「神明三箇条御文聴記」	「龜瀧和上説 神明三个條御文記 完」 「二帖日第=通記」	片写	香月院深励 (説)	香山院※ 安居傳写	—	1	—
256	御文開書	「御文初通 已下 聴記」	「御文開記/第初 ((会)) 香月院講述」	片写	香月院深励 (講述)	未詳	—	1	—
257	論註能義分録	「論註能義分録」	「无量壽經優婆提舍願生 偈并註」	漢写	香月院深励 (講説)	未詳	—	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
明治28年10月 (第1冊出版)	文化2年8月 2日(信巻講 義開筵)	21.7*14.7	■	各巻の題簽に 「一」～「二十 五」と書込み。 証巻講義は皆 往院の講読。	林山文庫 目録	宗大 8125	(朱印)「林山文庫」「圓超寺藏書印」(丁数)教一134、教二124、教三104、行一124、行二133、行三164、行四112、行五112、行六111、行七130、行八123、行九142、行十143、信一140、信二124、信三125、信四126、信五127、信六132、信七148、信八145、信九156、信十176、証一125、証二140 行巻第2、3、4、10冊、信巻第9冊は題簽欠。
明治13年5月 (写)	昭和22年2月 25日(林山求 之)	23.9*16.4	■	朱筆にて傍線 などの書込み	林山文庫 目録	宗大 8137	(朱印)「林山文庫」「林山文庫藏書」「川那邊騰空」(丁数)本85、末120 (奥書)「于時明治十三年五月於貫練教授ノ寫之」(書込み) 「昭和二十二年二月廿五日ノ於京都求之ノ林山誌」
未詳	—	22.2*15.1	■	—	林山文庫 目録	宗大 8174	(丁数)一49、二45、三49、四42、五55、六40 (朱印)「林山文庫」
享和元年5月 (環亮主得之)	—	24.0*17.9	■	朱筆にて傍線 などの書込み。 虫喰甚。	林山文庫 目録	宗大 8191	(朱印)「應登 林山文庫藏書」「林山文庫藏書」(丁数)32 (奥書)「已上龜洲講師評談 法常擬察司ノ享和元五月初旬以金城木町環亮主得之」
玄義分一明治 26年7月(発 行)、序分義一 明治29年11月 (発行)、定善 義一明治30年 3月(発行)、 散善義一明治 30年3月	—	22.0*15.0	■	開智院聖難科 文の挟み込み あり。定善義 巻五が欠々。	林山文庫 目録	宗大 8350	(内題ほか)「親經序分義講義巻之一 香月院深励講師述ノ古部親願願講師聞 楠原文二訂正」(一～五)「親經定善義講義巻一 香月院深励講師述ノ古部親願願講師聞 楠原文二訂正」(一～四)「親經散善義講義巻一 香月院深励講師述ノ古部親願願講師聞 楠原文二訂正」(一～五) (朱印)「林山文庫」 (丁数)「玄義分」一54、二56、三62、四55、五69、六69 [序分義]一76、二63、三49、四52、五58 [定善義]一81、二81、三59、四57 [散善義]一60、二62、三58、四56、五56
文化9年2月 6日(開筵)	—	23.8*16.8	■	朱筆にて誤字 訂正、墨書に て頭注を書込 み。	林山文庫 目録	宗大 8532	(朱印)「林山文庫」ほか (丁数)一66、二64、三58、四62、五69
昭和十九年三 月三十一日	昭和19年4月 3日(授了)	25.1*17.9	■	—	林山文庫 目録	宗大 8662	(朱印)「林山文庫」 (丁数)53 初めに「信者=紛ル、十ヶ條 講師香月院深励」と記されている。
文政3年初冬 下旬(写)	寛政9年初夏 中旬(講演)	24.1*18.0	■	寛政9年講	林山文庫 目録	宗大 8692	(朱印)「林山文庫」(丁数)11
明治18年5月 (正道、本写 終)、同年6月 (正道、末写 終)	文化13年(書 写)	23.3*17.4	□	—	林山文庫 目録	宗大 8814	(朱印)「林山文庫」「鐵齋印ノ石川縣加賀国石川郡北間村専称寺住職高光鳳梁購求」 (丁数)本89、末72 (奥書)「文化十三癸兆因敦壽星上旬書写 泉」ノ于時ノ明治十八年六月写シ終ル也ノ正道公筆
文化3年1月 (深励説)	昭和22年9月 10日(林山入 手)	24.1*17.0	■	朱筆にて傍線、 振り仮名、奥 書などを書き 込み。題簽に 「於長濱御坊」 とあり。	林山文庫 目録	宗大 8945	(朱印)「林山文庫」「林山藏書」(丁数)23 (丁数)「昭和二十二年九月十日於京都求之ノ林山文庫藏」 「讀了昭和二十二年九月二十九日早朝(母ノ命日也)ノ於自坊林山誌」(共に本文とは異筆)
文政5年仲秋 19日	—	24.2*16.5	■	—	林山文庫 目録	宗大 9085	(朱印)「林山文庫藏書」「恵了ノ印」(丁数)12 (奥書)「文政五年仲秋十九年ノ於淡海因講結所写之畢ノ恵了栖園五十七歳」昭和十一年九月一日京都ニテ求之ノ林山誌ノ昭和十一年九月十八日ノ于尾大谷學場研究員大名ノ参拜 道宗羅夫
寛政11年6月 (講)、文化14 年孟夏上旬9 日(「小兒往生 章」写)	安政2年10月 19日(「開記」)	24.3*17.9	■	寛政11年講。 「小兒往生開 記」と合綴。	林山文庫 目録	宗大 9238	(朱印)「林山文庫」 (丁数)往生章8、開記12 「小兒往生開記」は光称寺照海の写。光称寺旧藏 学心「小兒往生開記」は香月院の説を承けたものか。誤字 多し。
寛政12年庚申 2月18日	—	24.6*17.9	□	寛政12年講。	林山文庫 目録	宗大 9276	(朱印)「林山文庫」 (丁数)24 願講風嶺(2/18)→深励(2/19~20、23~25)→願講宣明(2/25~)



id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
258	教行信証文類講義	「教行信証文類講義」	「願淨土真實教文類一講義／香月院深勸講師説一等學師小栗栖香頂序并校閱 一等學師南條文雄跋文 福井龍澄校閱」(～行文類二講義、信文類三講義、証文類四講義)	片版	香月院深勸(説)、皆往院頌慧(証巻説)	—	25	25	玉忠堂(第2冊のみ光嚴館発行(再版))
259	正像末和讃講義	「正像末和讃講義 香月院述」(本・末)	「正像末和讃講義巻之上 香月院深勸師述」	片写	香月院深勸(述)	未詳	2(上下)	2	—
260	入出二門偈講義	「入出二門偈講義」	「入出二門偈講義巻之一(一～六) 香月院深勸講師述／廣陵了榮副講師聞／豊満春洞校訂	片版	香月院深勸(述)	廣陵了榮(聞)、豊満春洞(校訂)	6	6	京・西村九郎右衛門(護法館)
261	自然法爾語評破	「自然法爾章評破」	「自然法爾語評破 完」	片写	香月院深勸(評破)	法常振寮司(記)	1	1	—
262	觀經四帖疏講義	「觀經玄義分講義一(一～六)」 「觀經序分義講義一(一～五)」 「觀經定善義講義一(一～四)」 「觀經散善義講義一(一～五)」	「觀經玄義分講義巻一 香月院深勸講師述 占部親順副講師聞 柳原芳雄訂正(一～六)」 ※備考へ	片版	香月院深勸(述)	占部親順(聞)、柳原芳雄(訂正)	20	20	京・西村九郎右衛門(護法館)
263	御伝鈔聞記	—	「御傳鈔聞記 巻一 文化九壬申年二月六日開延 香月師説」(巻一～巻五)	片写	香月院深勸(説)	未詳	5	5	—
264	真宗要義 就タノム五門分別並タスケ給へ辨釋	「真宗要義 タノムとタスケ給へ辨釋 香月院述」	「真宗要義 就テ・タノムニ・五門分別並タスケ給へ之辨釋 講師香月院深勸述」	片写	香月院深勸(述)	林山たつ子	—	1	—
265	行巻偈命御字訓講論	「行文類御字訓講論」	「行巻偈命御字訓講論」	片写	香月院深勸(講論)	未詳	1	1	—
266	一多證文講義	—	「一多證文講義 本龜淵講師説」	片写	香月院深勸(説)	正道	2(本末)	2	—
267	改悔文隨聞録	「改悔文隨聞録 香月院説」	「改文化三年丙寅春正月上院於長濱御坊 危淵講師説」	片写	香月院深勸(説)	未詳	1	1	—
268	越中赤尾弥七入道二十一箇条	「越中赤尾弥七入道二十一ヶ條」	「越中赤尾弥七入道二十一ヶ條 於江州長濱御坊 香月院講師述」	片写	香月院深勸(述)	恵了栖園	—	1	—
269	小兒往生章	「小兒往生章 香月院述 小兒往生聞記 學心述」	「講師香月院述／小兒往生章／可教學心述／小兒往生聞記／光稱跋」	片写	香月院深勸(述)	能陽(能登国)、周富(「往生章」) ※「小兒往生聞記」は学心(述) ※備考へ	—	1	—
270	三講師御教諭之達意	「自法三講者 對弁 改悔文達意」	「三講師御教諭之達意 寛政十二庚申二月十八日」	片写	鳳嶺・深勸・宣明(述)	未詳	—	1	—

## 『香月院深劬関係書籍目録』と香月院深劬をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
文化3年正月14日～15日(白坊・永臨寺)	—	23.7*17.4	□	—	林山文庫目録	宗大 9301	(朱印)「林山文庫」(丁数)15
弘化3年(写)	—	23.8*16.8	□	—	林山文庫目録	宗大 9371	(朱印)「林山文庫」(丁数)53 ハガキはさみ込みあり(三枝勇勝→林山宛)
享和3年7月	—	23.3*17.9	■	奥書に検討の余地あり。備考参照	林山文庫目録	宗大 9452	(朱印)「林山文庫」(丁数)49 (奥書)「享和三年七月／於高倉学寮電洲講市講述也／能登国鹿島郡島之庄／能登国鹿島郡島之庄／閏邑貫心／所持／年廿五歳」享和三年～島之庄」を青色のような墨(インクか)で見せ消し。かつ「島之庄」の右側に「速成」と異筆にて書込み。 「鹿島郡～年廿五歳」を上記とは別色の墨で見消し。かつ「閏邑貫心」の上に重ねて「鹿(邑)西方寺」と異筆にて書込み。奥書のある丁の次の丁オモテに「能登国／鹿村／西方寺」とある。閏村と鹿村は別の場所。閏村貫心から鹿村西方寺に所有が移ったと考えられる。
文化1年(深劬述)	—	23.8*17.9	■	—	林山文庫目録	宗大 9471	(朱印)「林山文庫」(丁数)68
明治10年5月中旬(墨写)	—	21.8*18.7	□	—	林山文庫目録	宗大 9525	(朱印)「林山文庫」(丁数)48 (奥書)「明治十年五月中旬於支那國上海別院高／龍湖靈鳳(印)」
文化1年7月(深劬述)	文化13年	22.3*16.8	■	—	林山文庫目録	宗大 9610	(朱印)「林山文庫」(丁数)36 (奥書)「危洲講師於高倉講堂文化元子七月朔日開／席同十二日巻篋／今年省知享不知之義而已 法賢」
文政3年冬(写)	—	23.8*17.3	□	損傷甚。	林山文庫目録	宗大 9868	(朱印)「林山文庫」(丁数)13 (奥書など)8丁裏「右へ越前金津赤臨寺深劬市述之／文政三年冬享之 恵市之」13丁裏「□／恵市之□／文政三辰□」恵師については不明。本書は恵師所有の「安心問答」の写し。
享和3年5月27日(深劬述)	—	24.5*16.6	■	—	林山文庫目録	宗大 9990	(朱印)「林山文庫」(丁数)12 (書込み)巻末に「持主／越勢三国／宿浦／圓藏寺／済忍」(本文とは異筆)
昭和23年7月1日(林山入手)	—	24.0*17.3	□	—	林山文庫目録	宗大 1009	(朱印)「林山文庫」(丁数)38
文化10年11月4日(深劬述)	—	23.5*17.2	□	香月院の法話を複数所収。他に靈観の法話もあり(巻頭)。	林山文庫目録	宗大 1024	(朱印)「林山文庫」(丁数)41
大正5年7月5日(雑誌発行)	昭和14年7月11日(写)	23.8*17.8	□	安心書以外に「三業歸命五失意歸命三相違」,「祈願祈禱ノ義在否ノ事」が所収。また一柳知成廟講述の「香月院門下季系譜」も所収。	林山文庫目録	宗大 1033	(朱印)「林山文庫」(丁数)16 (奥書)「大正五年七月五日發行ノ雑誌 布教界第一巻第十号「香月院号」ヨリ香月院ノ講義三ト一柳知成廟講述ノ香月院門下季系譜トヲ抜粋シタル寫本ヲ杉野昇君ニ依頼シテ轉寫セシメタリ／昭和十四年七月十一日／中岡顕了誌」
未詳	—	24.7*17.1	□	其一～其十に分かれている。	林山文庫目録	宗大 10284	(朱印)「林山文庫」(丁数)17
未詳	—	24.5*17.5	□	講者は香月院、開正寺、皆往院、五葉院	林山文庫目録	宗大 10308	(朱印)「林山文庫」(丁数)6 (奥書)「香月院 開正寺 皆往院 五葉院／右此書／閏東ヨリ御本山江御尋ニ付於高倉／御学寮四人ノ御講者ヨリ御答ノ一書也／覺海護享／菴常藏書」

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
271	改悔文筆記	「香月院深勸師述 改悔文講義 林山文庫蔵」	「改悔文筆記 文化三寅年正月十四日五日兩日／香月院師於自坊述之」	片写	香月院深勸(述)	未詳	—	1	—
272	筑後国六人同行=對香月院師御法話筆記	(題箋)「筑後國六人同行記 全」 (扉)「弘化三丙午記 金堂 法灌記 筑後國六人同行=對香月院師御法話記 全」	「越前國金津永臨寺香月院 深勸龜洲大講師 御法話」	片写	香月院深勸(述)	法灌 (金堂村 勝徳寺)	—	1	—
273	末代無智御文聞書	「末代無智御文聞書」	「末代無智御文聞書 深勸師述」	片写	香月院深勸(述)	貫心カ	1	1	—
274	一枚起請文筆削記	「一枚起請文筆削記」	「一枚記(ママ) 請文筆削記／金津大徳述」	片写	香月院深勸(述)	未詳	1	1	—
275	選撰集二十五箇同異	「選擇集二十五箇同異」	「廷撰集二十五箇同異香月院大講市述」	片写	香月院深勸(述)	龍湖靈鳳	1	1	—
276	一枚起請文	「一枚起請文 香月院深勸述 妙覺寺法賢寫」	「一枚起請文」	片写	香月院深勸(述)	法賢	1	1	—
277	安心問答	「龜菴師三左衛門 安心問答 全」		片写	香月院深勸(述)	未詳	1	1	—
278	御教論聞書	「御教論聞書 全」	「享和三年癸亥之五月二十七日未之刻於集／會所被對洛陽伏見大津山科聚津五ノ所之御／門末御教論之趣記龜洲講師述」	片写	香月院深勸(述)	未詳	1	1	—
279	一形惡法話	「一形惡法話 香月院師述」	「越前ノ國香月院深勸大講師演説」	平写	香月院深勸(演説)	川北與兵衛	1	1	—
280	[深勸講師法話]	「道綽禪師讚 靈觀述」	「文化十癸酉閏十一月四日夜 太祖聖人五百五十回御取延之御法會ニ面法話香月院」	片写	香月院深勸(述)	未詳	1	1	—
281	安心書 (三業歸命五失意業歸命 三相違・祈願祈禱ノ義在否ノ事)	「安心書」	「安心書」	片写	香月院深勸(述)	中岡顯了	—	1	—
282	諸機得信録	「諸機得信録 講師香月院深勸述」	「諸機得信録 金津御講師述」	片写	香月院深勸(述)	未詳	—	1	—
283	於當宗祈願祈禱有無之事	「於當宗祈願祈禱有無之事」	「當宗ニ於テ 祈願祈禱ノ義有之候哉否之事」	片写	深勸ヲ高倉学寮4講者	吉谷覺寿	—	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
天保7年中10月19日	—	23.2*18.0	■	—	林山文庫目録	宗大 1038	香月院深励が問い、吉三郎がそれに答えるという問答が16問続いている。(朱印)「林山文庫」(丁数)4 (奥書)「右金津御講師十七ヶ条ノ問ヲ以テノ三河ノ国吉三郎□ニ答ラレ候法義ノ相統ノ為之ノ天保七年申十月十九日ノ本浄寺 正慶」
文化11年戊3月	—	24.8*17.6	■	—	林山文庫目録	宗大 1033	(朱印)「林山文庫」(丁数)7 「(奥書)「于時文化十一年戊三月日ノ写人 了諦ノ本主 日比野藤八」(「日比野藤八」は貼紙の上に記載)
享和3年癸亥夏5月27日	明治四拾年五月式拾四日	24.8*17.4	■	後半部には同28日の服部岡講師御法話が写されている。	林山文庫目録	宗大 1055	(丁数)9 (朱印)「林山文庫」所々に虫食いあり。 (奥書)「明治四拾年五月式拾四日 誓得寺住職 加藤敬忠」
文化7年 ※備考参照	明治13年辰年(写)	24.7*17.0	■	「住持井坊守教誠」と「九相ノ詩並歌」を合綴。	林山文庫目録	宗大 1038	「諸講師法話」内訳 ①「法話聞記」—深励 ②嗣講最親院 ③講師永臨寺 庚午夏於岡崎御坊(文化7年) ④講師開正寺 庚午夏学寮報恩講(文化7年) ⑤講師易行院 庚午秋北江州御小屋屋遠忌(文化7年) ⑥嗣講最親院 己巳ノ冬北江州御小屋屋夜(文化6年) ⑦講師永臨寺 己巳ノ冬北江州御小屋屋夜(文化6年) ⑧講師永臨寺 庚午ノ秋富小路三條上ル処 白粉屋又兵エ報恩講 語法座 (朱印)「西園寺ノ蔵書印」「林山文庫」(丁数)45
寛政8年正月16日(於摂州平野)	—	—	□	臨写本	林山文庫目録	宗大 1042	(朱印)「林山文庫」「壽榮山ノ淨願寺」 (丁数)25
文化3年正月15日	昭和6年2月21日(購入、金沢にて)、昭和7年2月2日(奥書)	23.2*17.7	□	文化3年講	林山文庫目録	宗大 1042	(朱印)「林山文庫」 (丁数)6
文化6年12月14日(写)	文化3年正月14、15日(述・於自坊)	23.3*16.2	□	「嗣講宣明之記」を合綴。自坊における講。	林山文庫目録	宗大 1074	越中宣明記に合写。(奥書)「右文化三丙寅正月十四十五日危洲ノ講師越前金津於自坊説之ノ文化己巳十二月十四日写之筆」 (朱印)「林山文庫」(丁数)総26、うち深励述14
未詳	—	24.7*16.7	■	香月院深励問、長松答。ルビ有。	林山文庫目録	宗大 1045	(丁数)11
明治27年8月1日(第5冊発行)	—	22.1*15.5	■	朱筆にて傍線などを書込み。第1冊の題箋欠落。	林山文庫目録	宗大 1052	(丁数)一104、二71、三103、四74、五73 (朱印)「林山文庫」(第1冊にはなし) 第5冊35丁裏に「深励師講述出版目録」
未詳	—	24.5*18.1	■	※備考参照	林山文庫目録	宗大 1081	(朱印)「林山文庫」(丁数)64 ※香月院の講録ではない。この本の筆者が、円樂院の説を繰り交ぜつつ香月院の講録を再編集したものか。
文化12年(惠愍写)	—	24.5*16.9	■	書込みは頭注、誤字訂正など。	林山文庫目録	宗大 1083	(丁数)35 (朱印)「林山文庫」(奥書)「文化十二乙亥歳江劔二面写之者也 釈惠愍」(書込み)1丁裏「依托ノ昭和五年七月廿一日ノ林山」
未詳	—	24.6*16.7	■	—	林山文庫目録	宗大 1084	(丁数)52 (朱印)「林山文庫」
未詳	—	22.9*17.0	■	名古屋御坊における講。	林山文庫目録	宗大 1089	(丁数)101 (朱印)「林山文庫」
未詳	—	24.3*16.6	■	—	林山文庫目録	宗大 1134	(丁数)79 (朱印)「林山文庫」「林山蔵書」(角印と丸印)
未詳	—	25.0*18.2	■	頭注あり。	林山文庫目録	宗大 1139	(丁数)108 (朱印)「林山文庫」(奥書)「昭和二十二年二月廿五日ノ於京都求之ノ林山誌 香月院述ノ並若ノ堂谷勇ノ必携」
文化9壬申2月6日	昭和18年正月31日～2月9日(校了)	23.5*17.6	■	文化9年講、林山書写本	林山文庫目録	宗大 1120	全41会：1巻(初会～11会)、2巻(12会～19会)、3巻(20会～25会)、4巻(26会～33会)、5巻(34会～41会) (丁数)～53、二55、三51、四58、五67 (朱印)「林山文庫」
明治23年10月16日(写)	—	23.7*16.7	□	—	楠丘文庫目録	宗大 1159	(内題)「安心三十三夾」華藏庵説、「二十二ノ邪義」華藏庵説、「香月院師當流ノ安心同行ノ尋ノ條々」、「續不統弁」源徳寺本法院講師説、「信巻成就文談考記」(丁数)61 (朱印)「楠丘文庫ノ日下無倫氏舊蔵圖書」楠丘文庫

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
284	講師香月院同行吉三郎安心問答	「香月院 吉三郎 安心問答」	「越前之因金津御講師三河国吉三郎 安心問答」	片写	香月院深劬(問) 吉三郎(答)	本淨寺正慶	—	1	—
285	亀洲御講師御法話	—	「亀洲御講師御法話於長濱綜説」	片写	香月院深劬(御法話)	了諦	—	1	—
286	御教誡法話	「御教誡法話」	「享和三癸亥夏五月廿七日洛陽五ヶ所ノ願ニ依テ於集會 深劬御講師御法語」	片写	香月院深劬(御法語) 鳳嶺御講師(御法話)	顯教	—	1	—
287	諸講師法話	「明治十三年辰年 諸講師法話 住持并坊守教誡 九相ノ詩並歌 合本」	「法話聞記 講師永隆寺」 ほか	片写	香月院深劬(述)	西圓寺祐信	—	1	—
288	十七・十八兩願聞記	「十七七八兩願聞記」	「十七七八兩願聞記」	片写	香月院深劬(述)	観十	—	1	—
289	小兒往生聞記	(題箋)「香月院深劬師述小兒往生聞記」	「小兒往生聞記 文化三寅年正月十五日 香月院師述之」	片写	香月院深劬(述)	未詳	—	1	—
290	小兒往生謄記	—	「越中宣明記 小兒往生謄記 合冊」	片写	香月院深劬(述)	未詳	—	1	—
291	御安心問答記	「御安心問答記」	「香月院様御たづね ことたえ三河 長松隠居」	平写	香月院 深劬・長松(問答)	未詳	—	1	—
292	愚禿鈔講義	「愚禿鈔講義」(一一五)	「愚禿鈔講義卷一/香月院深劬講師述/古部親顯御講師問/准學館山本祐乘/後藤安海校正」	片刊	香月院深劬(述)	—	10	5	京・西村九郎右衛門
293	〔安心七科講辯〕	—	—	片写	香月院 深劬・宣明(説)	未詳	1	1	—
294	或人云之御文隨問筆記	「香月院述 或人云ク御文講義」	「或人云之御文隨問筆記 亀洲講師説」	片写	香月院深劬(説)	惠愍	1	1	—
295	吉崎建立御文	「香月院師 吉崎建立(ママ)御文」	「吉崎建立御文 香月院師説」	片写	香月院深劬(説)	未詳	1	1	—
296	〔一帖目瓢漁御文法話〕	「一帖目瓢漁御文法話 香月院師述」	「一帖目瓢漁御文法話 本/於尾張名古屋御坊 香月院」	片写	香月院深劬(述)	法順	2(本末)	1	—
297	善導和讃講義	—	「善導和讃講義 香月院師述之」	片写	香月院深劬(述之)	未詳	1	1	—
298	正像末和讃捲毫	「正像末和讃捲毫」	「正像末和讃捲毫/亀洲(香月院)講師述」	片写	香月院深劬(述)	未詳	—	1	—
299	御伝鈔聞記	「御傳鈔聞記 香月院説(一一五)」	「御傳鈔聞記卷一 文化九壬申二月六日開筵 香月師説」ほか	片写	香月院深劬(説)	未詳	5	5	—
300	〔香月院師当流ノ安心同行へ尋ノ様々〕	—	「安心三十三失 華藏庵説」ほか	写本	香月院深劬(述)、華藏庵、源徳寺 本法院講師(説)	古川哲選	—	1	—

## 『香月院深劬関係書籍目録』と香月院深劬をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
未詳	—	25.1*17.6	■	—	楠丘文庫目録	宗大 1332	(丁数)72 (朱印)「楠丘文庫/日下無倫氏舊藏圖書」「楠丘文庫」(奥書)「唐明詩学聯詠 全 常中聯語 苑」
文化2丑6月	寛政9年巳秋9月(写) ※備考参照	24.8*17.1	□	—	楠丘文庫目録	宗大 1332	香月院深劬(撰)(講)→顯耀(述)→年月日②(写終)→慧寶(述)→年月日①無証(写) (丁数)28 (朱印)「楠丘文庫/日下無倫氏舊藏圖書」
未詳	—	—	□	抹消	第一目録	余大 5	抹消
天明3年(識)	天明3年5月(刊)	26.7*18.4	□	—	香月院文庫目録	余大 6252	(朱印)「香月院文庫」(2種) (丁数)凡例1、五事品(本文)7
天明3年(識)	天明3年5月(刊)	26.7*18.4	■	余大6252と同本。但し当本には朱点が付される。	香月院文庫目録	余大 6253	(朱印)「香月院文庫」(2種) (丁数)凡例1、五事品(本文)7
天明3	—	—	□	欠本	香月院文庫目録	余大 526	欠本
天明5年5月9日(於・浅草光圓寺)	大正5年4月(購入)	24.3*16.5	■	二之ニより15冊。前欠々。大正5年4月には現在の状態。	第一目録	余大 3072	(朱印)「大通寺藏書」「真宗大谷大學圖書」「大谷文庫」(丁数)二ノ二75、二ノ三90、二ノ四57、三106、三ノ一58、三ノ二37、三ノ三47、三ノ四50、三ノ五42、四ノ一74、四ノ二50、四ノ三80、四ノ四40、四ノ五81、四ノ六63 (奥書)「出天明五乙巳五月九日脱藏於武江浅草光圓寺高舎」(伝来)「本書拾五冊ハ旧長濱別院藏書ニテ高倉大学寮ニ保管シタルモノナルカ一旦長濱別院ニ回取セラレ其書肆ニ賣却セラレタル者也 故ニ表紙ニ護寮保管ノ記號票ヲ付ス大正五年四月其中堂支店ヨリ購入。真宗大谷大學圖書館」
大正6年1月(写)	—	27.5*19.7	□	—	第一目録	余大 3195	(朱印)「真宗大谷大學圖書」(丁数)87 (奥書)「本書ハ越前永徳寺所藏著者自筆ノ本ヨリ転寫セシメタル者也ノ大正六年一月真宗大谷大學圖書館」
大正6年1月(写カ)	—	27.5*19.6	□	余大6271を底本として書写したものと考えられる。(虫食いの位置、頭注が一致)	第一目録	余大 3196	(丁数)一72、二80、三55、四59、五38、六59、七47、八41、九48 (朱印)「真宗大谷大學圖書」(奥書)「本書ハ越前永徳寺講師著者自筆ノ本ヨリ轉寫セシメタル者也ノ大正六年一月真宗大谷大學圖書館」
未詳	—	23.5*16.3	■	—	第三目録	余大 5741	前二巻欠 (丁数)三58、四71、五56
丑冬12月2日(法海述)	—	23.8*16.1	□	「香月院師辯述」と、「法海師述」の講録を合綴。	第三目録	余大 5836	巻末に法海の釈あり。 (丁数)香月院20、法海3
明和5年正月	—	34.5*24.3	□	深劬自筆	香月院文庫目録	余大 6234	自筆 (丁数)116 (朱印)「香月院文庫」(2種)、「深厲」「義口」 (奥書)「吾明和五春王正月上院ノ越之前州ノ龜洲釋深厲謹識ノ印 印」 巻末に荷葉堅正氏による悉曇の解説の付箋が貼付。タテ長、上部を綴じる形態。
中春中旬第六之日(第二巻脱毫)	—	24.3*17.2	■	深劬自筆	香月院文庫目録	余大 6256	第1巻欠本。また第2巻以降も続巻があると思われる。 (丁数)45 (朱印)「永徳寺藏」「香月院文庫」(2種) (奥書)「此一巻脱毫於中春中旬第六之日ノ越前深厲」
未詳	—	23.6*15.9	■	深劬自筆カ。頭注があるが切れている。	香月院文庫目録	余大 6271	(丁数)一72、二79、三52、四59、五37、六58、七46、八40、九47 (朱印)「永徳寺藏」「香月院文庫」 巻八の中頃に「安永二年七月十一日著 釋子房」とある。 虫食いで貼り付いている部分あり。
未詳	—	—	□	—	第二目録	宗甲 32	表紙左下および奥書に「香月院」とあり。 (フィルム番号)119~133 (D-1-12)
未詳	—	タテ26.0	■	—	香月院文庫目録	宗甲 76	※自筆とあるが明記はなし。 (フィルム番号)13-64 (D-1-19)

真宗総合研究所研究紀要 第24号

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
301	選択集引文考	「選擇集科文 科目引文考 全 沙門無証」	「選擇集引門考」	写本	香月院深助(撰)(述)	無証	—	1	—
302	選択集科文	「選擇集科文」	「選擇集分科 沙門無証」	写本	香月院深助(撰)(講)	無証	—	1	—
303	五事毘婆沙論記	「五事毘婆沙論講義 本」(末)	「五事毘婆沙論(ママ)巻之上」	片写	—	未詳	—	—	—
304	阿毘達磨品類足論 第一	「論 品類足論辯五事品」	「阿毘達磨品類足論巻第一」	漢版	玄奘(訳)	香月院深助(凡例)	1	1	京東六條御堂前・池田屋七兵衛
305	阿毘達磨品類足論 第一	「論 品類足論辯五事品」	「阿毘達磨品類足論巻第一」	漢版	玄奘(訳)	香月院深助(凡例)	1	1	京東六條御堂前・池田屋七兵衛
306	阿毘達磨品類足論 第一	—	—	—	玄奘(訳)	香月院深助(凡例)	1	1	京・池田屋七兵衛
307	華嚴經探玄記珍表	—	「華嚴經探玄記珍表 二之二」	写(白筆)	香月院深助	—	4 ※ 1巻欠	15	—
308	華嚴五教章金表	「華嚴一乘教分記金表全」	「華嚴一乘教分記金表越前深助述」	漢写、片写	香月院深助(述)	真宗大谷大学図書館	—	1	—
309	俱舍論頌疏鑽仰	「俱舍論頌疏鑽仰(一〜九止)」	「俱舍論頌疏鑽仰 巻一越前深助撰」	漢写	香月院深助(撰)	未詳	9	9	—
310	入阿毘達磨論講義(未完)	「入阿毘達磨論講義(三〜五)」	「入阿毘達磨論講義巻三金剛永臨寺深風師述 釋靈俊記」	片写	香月院深助(説)	靈俊(写)	5	3	—
311	六号釈記	「六合釋記 不完 同」	—	片写	香月院深助(弁述)、法海(述)	未詳	1	1	—
312	悉曇伝授口訣	—	—	悉曇、写本	香月院深助	—	1	1	—
313	維摩経義疏	「无垢稱吉祥廣疏 巻二」	「維摩経義疏 巻二胡吉蔵撰」	漢写	香月院深助	—	※備考参照	1	—
314	俱舍論頌疏鑽仰	「俱舍論頌疏鑽仰 巻一(巻一〜巻九)」	「俱舍論頌疏鑽仰 巻一越前深助撰(巻一〜巻九)」	漢写(一部片写)	香月院深助(撰) ※内容補記参照	—	9	9	—
315	尾州五人男安心御尋ねにつき御答	—	—	自筆平写	(香月院深助)	—	—	1	—
316	四紙阿弥陀経	「四紙阿弥陀経」	—	片写	(香月院深助) ※備考参照	未詳	—	1	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
(文化6年夏、7年夏)	—	タテ25.3	■	—	香月院文庫目録	宗甲 77	※自筆とあるが明記はなし。 (フィルム番号) 70~613 (D-1-19)、1~288 (D-1-20)
(文化4・5年)	—	タテ25.3	■	—	香月院文庫目録	宗甲 78	自筆(見聞き)「註論丁卯講苑一」「註論戊辰講苑一」ほか ※内題下に「越州深励」とあり(一、二冊のみ)。(フィルム番号) 3~457 (D-1-22)
(寛政6年)	—	タテ24.2	■	貼紙あり。	香月院文庫目録	宗甲 79	※自筆とあるが明記はなし。 (フィルム番号) 463~566 (D-1-22)、2~229 (D-1-23)
(寛政7年)	—	タテ23.9	■	貼紙あり。	香月院文庫目録	宗甲 80	※自筆とあるが明記はなし。 (フィルム番号) 463~566 (D-1-22)、2~229 (D-1-23)
(寛政7年)	—	タテ24.1	■	貼紙あり。	香月院文庫目録	宗甲 81	※自筆とあるが明記はなし。 (フィルム番号) 235~581 (D-1-23)
(寛政8年)	—	タテ24.0	■	貼紙あり。	香月院文庫目録	宗甲 82	(書込み) 三冊目表紙「釋家 擇集/末六左/縦廣 玄善 七 三/方」 ※自筆とあるが明記はなし。(フィルム番号) 3~259 (D-1-24)
未詳	—	タテ24.7	■	貼紙あり。	香月院文庫目録	宗甲 83	自筆、第二・九巻欠。(1冊目表紙書込み)「玄澄至/弥陀成佛」ほか(3冊目尾題)「三帖和歌講苑」(フィルム番号) 265~618 (D-1-24)、3~470 (D-1-25)
未詳	—	タテ25.8	■	貼紙あり。	香月院文庫目録	宗甲 84	自筆、表題:浄土和讃撰仰(フィルム番号) 476~558 (D-1-25)、2~339 (D-1-26) ・D-1-26 73、74コマに深励署名の「宝疏九帛右正理破」、「宝疏十帛右正理破」と題した一紙に書かれた文章あり。
(寛政10年)	—	タテ25.0	■	貼紙あり。	香月院文庫目録	宗甲 85	自筆 (フィルム番号) 345~613 (D-1-26)、2~74 (D-1-27)
未詳	—	タテ24.5	■	貼紙あり。	香月院文庫目録	宗甲 86	※自筆とあるが明記はなし。 (フィルム番号) 85~395 (D-1-27)
(天明8年)	—	タテ23.4	■	貼紙あり。	香月院文庫目録	宗甲 87	自筆 (フィルム番号) 401~585 (D-1-27)、2~86 (D-1-28)
己丑9月2日 (文政12 (1829)カ)	—	—	■	頭註と修正あり。	第三目録	宗丙 30	(フィルム番号) 380~618 (D-3-6)、2~540 (D-3-7)、2~479 (D-3-8) 奥書)「一本實如御判/一本无右合三百六十箇條也/蓋如上人御一代記開書終/一本无/本云天正十三年四月十九日書寫之者也(1冊目)※講録ではない・奥書あり、雲華院が門主に命じられ四国に赴いた際、三河出身の了庵に香月院講師時の蓮如上人御一代記講録を筆写した旨が記されている。
未詳	—	—	■	見消、頭註あり。	香月院文庫目録	宗丙 227	自筆、祖師聖人年譜 (フィルム番号) 551~620 (D-3-47)
(享和1年12月16日薬)※ リール番号 131 大師号 の事の末	—	—	■	雑記、由命起草(岡崎の遺跡、薩州の真宗、天人について)、法華典據、一念證文	香月院文庫目録	宗丙 229	自筆 (フィルム番号) 69~171 (D-3-48)
未詳	—	—	□	—	香月院文庫目録	宗丙 230	自筆(フィルム番号) 176~332 (D-3-48)
未詳	—	—	□	—	香月院文庫目録	宗丙 230	自筆
未詳	—	—	□	—	香月院文庫目録	宗丙 230	自筆
未詳	—	—	□	—	香月院文庫目録	宗丙 230	自筆
未詳	—	—	□	—	香月院文庫目録	宗丙 230	自筆
未詳	—	—	□	—	香月院文庫目録	宗丙 230	自筆



id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
317	観無量壽経講苑	「観無量壽経己巳講苑一(一〜三)」「観無量壽経庚午講苑 四(四〜六)」	「観無量壽経己巳講苑(一冊目)」「観無量壽経庚午講苑(四冊目)」	片写	(香月院深励) ※備考参照	未詳	—	6	—
318	註論講苑	「註論講苑丁卯 一」ほか	「註論講苑 一」ほか	片写	(香月院深励)	未詳	—	12	—
319	観経支義分甲寅録	「支義分一」ほか	「観経支義分甲寅録」	片写	(香月院深励) ※備考参照	未詳	—	4	—
320	観経序分義乙卯録	「序分義一」ほか	「観経序分義乙卯録」	片写	(香月院深励) ※備考参照	未詳	—	3	—
321	観経定善義乙卯録	「定善義一」ほか	「観経定善義乙卯録」	片写	(香月院深励) ※備考参照	未詳	4	4	—
322	観経散善義丙辰録	「散善義録一」ほか	「観経散善義丙辰録」	片写	(香月院深励) ※備考参照	未詳	3	3	—
323	三帖和讃講苑	「三帖和讃講苑一」ほか	「三帖和讃講苑 卷一 越州深廣述」	片写	香月院深励(述)	未詳	10	8	—
324	浄土和讃講苑	「浄土和讃講苑一 讃仰」ほか	「浄土和讃講苑 越州深廣述」	片写	香月院深励(述)	未詳	5	5	—
325	高僧和讃戊午講苑	「高僧和讃戊午講苑 卷一」ほか	「高僧和讃戊午講苑 卷一 越州深廣述」ほか	片写	香月院深励(述)	未詳	4	4	—
326	正像末和讃讃仰	「正像末和讃讃仰 一」ほか	「正像末和讃讃仰」	片写	(香月院深励) ※備考参照	未詳	3	3	—
327	高僧和讃戊申録	「僧和讃戊申録 卷上」ほか	「高僧和讃戊申録 卷上 深廣述」ほか	片写	香月院深励(述)	未詳	3	3	—
328	蓮如上人御一代記開書講義	—	「蓮如上人御一代/物語/古高本外題= /實悟覺書天正十三年記ト云」「蓮如上人御一代記開書講義」	片写	香月院深励	雲華院大舍(自筆) ※花押あり	12	12	—
329	結網再治	「結網再治 乾坤合」	「祖師聖人年譜」	片写	香月院深励	—	1(乾・坤)	1	—
330	誠の徳	「誠の徳」	—	片写	香月院深励	—	—	1	—
331	易行品科 (丘の桜)	「丘の桜」	—	漢写	香月院深励	—	—	—	—
332	一多証文分科 (丘の桜)	—	—	漢写	香月院深励	—	—	—	—
333	大本香睡醉師科 (丘の桜)	—	—	漢写	隋慧(撰)	香月院深励(記)	—	—	—
334	持留念仏章 (丘の桜)	—	—	漢写	香月院深励	—	—	—	—
335	選撰集海東香嚴師分科 (丘の桜)	—	—	漢写	隋慧(撰)	香月院深励(記)	—	—	—
336	僧帖分科 (丘の桜)	—	—	漢写	香月院深励	—	—	—	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
未詳	—	—	□	—	香月院文庫目録	宗丙 230	自筆
(文和7)	—	—	■	貼紙あり	香月院文庫目録	宗丙 231	自筆 (奥書)「越前亀洲 深厲義誠 普救論懸譚 并此書之科」
(文化10)	—	—	■	—	香月院文庫目録	宗丙 231	自筆、(フィルム番号)417~418(D-3-48) ※「故里の山」(六冊合綴)の一部 ※「剃金剛般若経發述序」の最後に「云爾維歲文化十年癸酉仲冬閏ノ月越州香月院深厲干京兆高倉學寮」という記載あり。
未詳	—	—	■	—	香月院文庫目録	宗丙 231	自筆 (フィルム番号)380~387(D-3-48) ※「故里の山」(六冊合綴)の一部
未詳	—	タテ25.0	■	—	香月院文庫目録	宗丙 231	自筆 (フィルム番号)337~358(D-3-48) ※「故里の山」(六冊合綴)の一部
文化8年2月	—	—	■	—	香月院文庫目録	宗丙 231	自筆、(フィルム番号)415~417(D-3-48) ※「故里の山」(六冊合綴)の一部。 ※「別刻法華玄贊中一乘義之序」の最後に「云今文化七・八年庚・辛、午・未、九・二月ノ〔 〕識于京兆高倉學寮越州釋深厲」 「故里の山」には、「梵文 阿弥陀経義釈」、「御文録條個」が収録されている。
未詳	—	タテ25.0	■	—	香月院文庫目録	宗丙 233	自筆とされているが明記されていない。祖師聖人年譜。(フィルム番号)509~575(D-3-48) ※中・下巻が合綴されている。 ※545コマ目に「押稿ノ御再願書引文」とあり。
未詳	—	—	■	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(フィルム番号)1~418(D-5-2)
維時文和(マ)七年庚午一	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(包紙上書)「講師自筆、(発)「越州永臨寺釋深勵ノ誌、平京兆高倉學寮」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(端裏)「永臨寺ノ羽劬久保田ノ専念寺へ返書ノ三」(発)「永臨寺」(宛)「専念寺殿」(年)「八月」 ※異安心関係
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(端裏)「永臨寺ノ羽劬久保田ノ西法寺へ返書下書ノ二」(発)「永臨寺」(宛)「西法寺殿ノ兵部御殿」(年)「八月」 ※異安心関係
寛政壬戌春五月十六日禮拜(享し)	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(題目)「復若州慈之勳」 ※断簡 [(題目)「復若州慈勳願」(発)「若州妙文寺慈勳英宿ノ京兆高倉學寮ノ講師永臨寺深勵拜」 ※後世の写し々]
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(端裏)「永臨寺ノ羽劬久保田ハヶ寺へ返書 下書ノ一」(発)「永臨寺」(宛)「浄願寺殿ノ西勝寺殿ノ敬川寺殿ノ専念寺殿ノ西善寺殿ノ浄弘寺殿ノ真敬寺殿ノ本誓寺殿」(年)「八月」 ※異安心関係
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(端裏)「講師自筆ノ江戸ノ淺草寶坊銅燈台銘并序ノ代、江戸長泉寺敬明作」
寛政十二年歳次庚申十月拾三日	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(端裏貼紙)「寛政十二年歳次ノ庚申十月拾三日ノ永臨寺」(タイトル)「下総国柳ノ新田ノ□□ノ今般福園被仰候二付ノ精誠申□□口述之覚」(発)「永臨寺」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(端裏)「三月朔日 江戸にてノ永臨寺ノ極性寺様 三業惑乱ノ事」(発)「永臨寺」(宛)「極性寺」(年)「三月朔日」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(端裏貼紙)「七月晦日 香月院深勵ノ専光院様」(発)「香月院深勵(花押)」(宛)「専光寺様ノ狛座下」(年)「七月晦日」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(発)「あたこやノ庄三郎」(宛)「永臨寺様ノ尊下」 ※裏面は手控々
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(発)「香月院」(宛)「□□ととのへ」(年)「十月廿八日に」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(端裏)「御木山さま御借財のことノ経威ノ事」 ※断簡
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(題目)…………… ※断簡
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(発) 永臨寺
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗卷 14	(発) 本宗寺

id	名称	外題	内題	形態	筆者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
337	唯識論懸譚 (丘の桜)	—	—	漢写	香月院深勸	—	—	—	—
338	御遠忌糸幡之記 (故里の山)	「御遠忌糸幡之記」	—	漢写	香月院深勸 (自筆 <sup>ホ</sup> )	—	—	1	—
339	刻金剛般若経贊述序 (故里の山)	—	「刻金剛般若経贊述序」	漢写	香月院深勸	—	—	1	—
340	宗名弁惑編摺言 (故里の山)	「講師筆 宗名辨惑編摺言」	「宗名辨惑編摺言」	漢写	香月院深勸 (自筆 <sup>ホ</sup> )	—	—	1	—
341	大法会華書科解 (故里の山)	「大法会華科解」	—	片写	香月院深勸 (自筆 <sup>ホ</sup> )	—	—	1	—
342	別刻法華玄贊中一乘義之序 (故里の山)	—	「別刻法華玄贊中一乘義之序」	漢写	香月院深勸	—	—	1	—
343	結綱神髓	「結綱神髓中」他	「祖師聖人年譜」	片写	香月院深勸 (自筆 <sup>ホ</sup> )	—	中・下	1	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	1箱 64点	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—
344	「香月院深勸書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深勸	—	—	—	—

## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「要説遠慮重話急話／乗因□宗果君」「細人から□執し給□□/か□執し給へる」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目)「御敷奉申上候口上覚」※天満御坊再建関係カ
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「江戸にての書」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目)「修学に非る常人ノ入寮之事」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※由緒書
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(年)「閏四月十八日」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏貼紙)「八尾御坊の事」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏貼紙)「塩屋西榮寺の記」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※経典類の書上(控えカ)
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「要□□□□」※古書書上
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「法輪ノ為」※安心
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目)「陰徳大平記七十四」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	—
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※経典類の書上(控えカ)
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	—
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目)「巻下」※家具・諸道具・食物など書上の目次カ
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※諸仏・菩薩・天など書上(印相なども)
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	—
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「己巳□氣□□也/文化六年※貼紙) ※諸国僧侶書上
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「江戸状下書」(年)「九月十日」(発)「—/—」(宛)「—/—」※講義関係
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※「史悟記」の新門伝授記録
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※学寮借用銀関係(回廊建築用木材など)
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目)「六條」※東西本願寺の開山以来の事歴
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※出版記録(目録) 当人のものではない→全て安心の旨。
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏貼紙)「七月十六日/御講師様 法意/御侍者中」(発)「法意/(花押)」(宛)「御講師様/御侍者中」(年)「七月十六日」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏貼紙)「正月廿三日 香月院様 以一院」(年)「正月廿三日夜」(発)「願成寺/以一院」(宛)「香月院様/御侍者中」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏貼紙)「六月五日/御講師様/崇信/御侍者中」(発)「崇信/(花押)」(宛)「御講師様/御侍者中」(年)「六月五日」



## 『香月院深励関係書籍目録』と香月院深励をめぐる歴史的研究課題の覚書

成立1	成立2	法量	書込	補記	目録名	請求記号	備考
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏貼紙)「五月四日夜 専光寺 御講師様 義論 御侍者中」(タイトル)□□※講義関係、断簡 (発)「専光寺/義論/拜」(宛)「御講師様/御侍者中」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「五月十三日 越州 □□寺 御講師様 能□ 御侍者衆中 拜」(発)「能□/九拜」(宛)「御講師様/御侍者衆中」(年)「五月十三日」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目カ)「御講師様御見舞/之人列」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏貼紙)「九月廿三日 宝光坊 良空 永臨寺」(発)「寶光坊/良空(花押)」(宛)「永臨寺様/御侍者」(年)「九月廿二日」※断簡
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「永臨寺殿/粟津日向守/池尾伊蔵/閏正月四日」(年)「閏正月四日」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「十月九日/香月院様/粟津出羽□(守カ)」(年)「十月九日」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「三州長松の事 大藏経と」※紙背に「永臨寺/中□様/用事」など。
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目)「祖師聖人建仁二年三十歳より/承元元年三十五歳まで月輪寺=住山し給ふと申儀/一向=是なき事」※貼紙あり
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「十月廿六日 義忠寮司 開正寺 永臨寺」(発)「開正寺/永臨寺」(宛)「義忠寮司」(年)「十月廿六日」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏貼紙)「藏経及仁左衛門/三河長松の事記」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目)「奉願口上覚」(発)「愛宕山福寿院役者/小川宗運印/鎌倉山月輪寺留主居/代 大角仙丈印」←(63)と関係あり
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	—
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「廿八」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※由緒書カ
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目)「御木山御荷物」(発)「加州御坊 西方寺 超願寺」(年)「十月」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※秀吉と顯加上人。
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(題目)「御燈台銘序」※浅草本願寺
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	※浅草神田本願寺
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏貼紙)「八月十五日 慶徳寺 集會所月番御中」(発)「慶徳寺」(宛)「集會所月番御中」(年)「八月十五日」
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(端裏)「寅三月廿九日 西村本詮 奉行所宛 小川宗運」(タイトル)「年恐奉願口上書」(発)「鎌倉山月輪寺留主居/代 西村本詮 印/愛宕山福寿院役者/小川宗運印」(宛)「奉行所宛」←(54)と関係あり
未詳	—	—	—	—	香月院文庫目録	宗巻 14	(表紙上書)「加州江沼郡大聖寺端勝寺善教/寮司陳叡於講堂奉勅=付大聖寺/役所ヨリ被申渡候書付并右役寺ヨリ書札之扣/寛政八丙辰八月廿二日京都着」←(62)と関係あり
未詳	—	—	—	—	第一目録	長保 42	自筆
未詳	—	—	—	—	第一目録	長保 298	—
—	—	—	—	—	第三目録	特 3	—
—	—	—	—	—	第三目録	特 102	—
—	—	—	—	—	第二目録	特 202	—

真宗総合研究所研究紀要 第24号

id	名 称	外 題	内 題	形態	筆 者	書写者	巻数	冊数	版元・書肆
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
344	「香月院深劔書簡」	(箱貼紙)「雪之箱」	—	漢写 (自筆)	香月院深劔	—	—	—	—
345	教行信証御自釈	—	—	自筆漢 写	香月院深劔	—	1	1	—
346	六合歌講義	—	—	片写	香月院深劔	—	—	1	—
347	香月院深劔師肖像	—	—	絵画	香月院深劔	亮照方明 (賛)	—	1	—
348	香月院深劔師墨蹟	—	—	軸 装 (横物)	香月院深劔	—	—	1	—
349	香嚴院惠然師肖像	—	—	軸装	理綱院(賛) 香月院(筆)	—	—	1	—